

338.7
1982s



0029609000

0029609-000

338.7-1982s

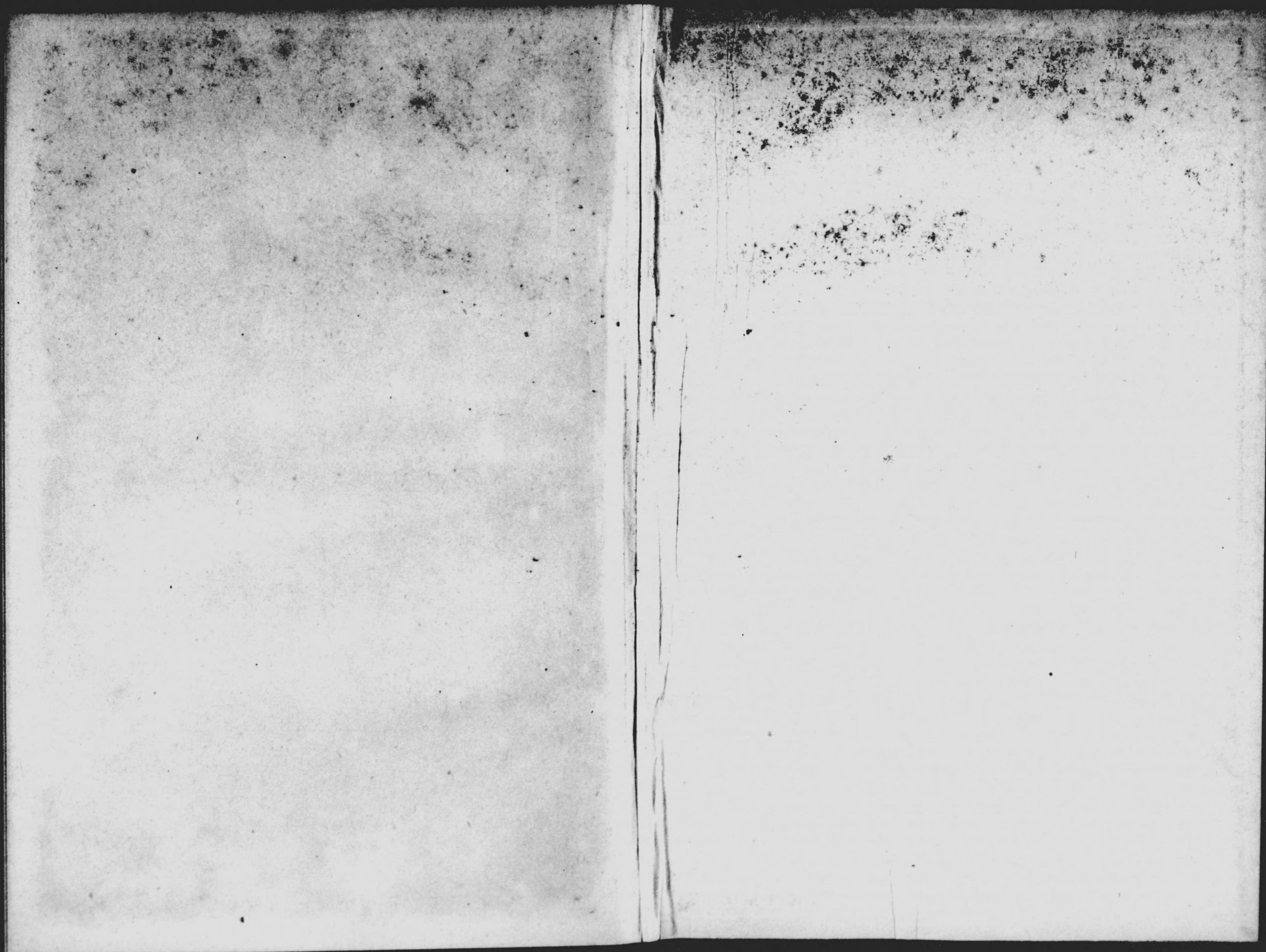
支那庶民金融論

井関孝雄・著

学芸社

1941

ADI



井關孝雄著

支那庶民金融論

學藝社版

338.7 L982a

序

中華民國には四億乃至五億の民衆が有るが、其の九割までは所謂庶民階級であつて、農民と工人が其の大部分である。而して之等多數の民衆は近代的金融機關である銀行信託會社等とは殆ど何等の關係なく、依然として舊式の金融機關である個人金貸、當舖（質屋）合會（頼母子講）錢莊其の他の庶民金融機關に依つて其の生活を營んで居るのである。然るに、日本でもさうであつた如く支那に於いても同様であつて之等多數民衆の生活と關係の有る之等庶民金融機關に對しては、從來殆ど何等の研究も無く又餘り注意も拂つて居ないのであつて、其の文獻は極めて乏しいのである。

歐米及日本の支那研究家も近代支那の資本主義向上期に於ける歐米輸入の新式金融機關に關しては、可成り注意も拂ひ研究もして居るのであつて其の文獻は決して尠くないと思はれるが、庶民金融機關に關しては著者寡聞にして未だ一冊の纏まつた書冊だに在るを聞かないのである。近代國家建設途上にある現代支那に於いて一國財政の立場より又近代資本主義制度確立の上よりも近代的金融機關の研究は素より必要な事であるが、然かし之れと同時に多數民衆の生活と最も深



32063

い關係ある庶民金融機關の研究も亦之れと同様に忽にす可からざるものであると思ふ。

惟ふに日支事變の最後の結末も善良なる支那民衆の生活問題を外にしては考ふる事の出来ないものであらうと思ふ。此の時に際し之等の多數の支那民衆の生活と密接の關係有る支那の庶民金融機關の研究も、日支事變有終の結末に亦多大の關心と興味を持つ吾々としては又同時に相當の注意を拂つていゝものであらうと考へられるのである。

本書は邦文、華文の之等に關する研究の斷片零章を取擇して一書を爲したものであつて、未だ決して其の完璧のものとは思はない。

しかも江湖此の種の著作の一冊だに存しない今日之れを上梓する事も敢て徒事でないと思へて書肆の薦むるまゝに茲に完璧を他日に期して出版する事とした。

昭和十六年三月

著者

『支那庶民金融論』 目次

概観

第一、支那の社會構成	一
一、人口の農村偏在	二
二、貧農が多い	三
三、地方自治制度	五
四、ギルドの發達	五
五、政治經濟事情	六
第二、農村庶民金融機關と都市庶民金融機關	六
第三、新式庶民機關の發達せざる理由	一六
支那の舊式庶民金融機關	二〇

- 一、個人金貸……………二〇
- 二、都市に於ける個人金貸……………三一
- 三、農村に於ける個人金貸……………四六
- 四、支那の質屋……………七五
- 五、合 會……………一〇九
- 六、合會會規の實例……………一三五
- 七、錢 莊……………一四八

支那新式庶民金融

一五八

- 一、銀行……………一五八
- 二、信用合作社……………一六七
- 三、農業倉庫……………一九三
- 四、小本借貸處……………一九四
- 五、儲蓄會……………二二一
- 六、貯蓄銀行……………二三〇
- 七、農民貸借所……………二三八
- 結 論……………二三二

〔目次終〕

支那庶民金融論

井
關
孝
雄

概 観

第一 支那の社會構成

支那の一般金融に就いては、各種の人々が色々な場合に於いて色々な形で發表して居るので私は之れを一切顧みないこととして茲には支那の都市及農村に於ける庶民金融機關に關して一應の説明を試みてみたいと思ふ。しかしその前に現代支那の社會が一體如何なる階級を以つて組織され又其の人口が如何に分布されて居るかと思ふことを一應調べて置くことは此の庶民金融の問題を解釋する上に一番必要なことであらうと思はれるので本論の庶民金融機關の説明に入るに先立つて先づ之れを概説して置くこととする。

一體支那の人口は幾ら程あるかと云ふことはよく聞かれることであるが、戸口調査や、戸籍等のない支那のことであるから其の正確なことは何人と雖も確言出来ないものであるが、其の内比較的正確と思はれる數字を一應擧げて置くこととする。一九二三年郵政局が各地方官憲に依つて集めた數字を發表して居るが之れによると四億四千萬となつて居る。而して此の數字は支那本土の

みの數字であつて、勿論外蒙古、西藏等奥地の人口を包含して居ないのである。又同様一九二六年に同じ郵政局の調査發表では四億八千五百五十八萬八千三百三十人だと云つて居る。又一九三〇年海關廳の發表では四億四千萬人、一九三一年内政部の發表では四億七千四百萬と云つて居る。又更に外國の學者達の發表によると左の如く云つて居る。

基督教事業聯合會調査

リユウダチエン博士	(一九三〇年) 調査	四億四千一百萬
チャオ・ミンチエン博士	(同) 調査	四億七千萬—四億八千萬
チエンシアイン博士	(同) 調査	四億六千三百萬
チエンチャンヘン	(同) 年) 調査	四億四千五百萬
ウルコツクス教授	(一九一〇年) 調査	四億五千七百萬
		三億二千三百萬

以上の數字に依つてみると支那の人口は大體四億四五千萬人と推算するのが當を得たものと思ふ。

一、人口の農村偏在

然らば之等の人口が一體何う云ふ風に分布されて居るかと思ふと、之れを一九三二年の南京政

府の「統計月報」及トルガシエフ氏の調査によつてみると即ち左の通りである。統計月報では農村に生活する人々の人口の割合は一九三二年度の統計局の數字に就いてみると農家の戸數は總數五千八百五十七萬九千八百八十一戸にして、之れを支那の全戸數に比較すると全戸數の七四・五%になると云つて居る。又トルガシエフ氏の調査に就いて支那の都市の人口を調査してみると、

人口十萬以上の都市	一一二
二萬五千以上—十萬以下の都市	四六七
人口不明の都市	一、四四三
都市の全人口總數推算	約一億

即ち支那總人口の四分の三は農村に在り他の僅かに四分の一が都會に在りと云ふ事が知り得られる。従つて支那の庶民金融は勢ひ都市の庶民金融よりは寧ろ農村の庶民金融に向つて其の政策が樹てられて居ることは自然の勢ひであると考ふ可きである。

二、貧農が多い

次に之等農村の人口は又如何に分布されて居るかと思ふと云へば、私は之れを左表に於いて示したい

と思ふ。即ち

(イ) 陝西外五省調査 (一九〇三年)

類別	戸數
地主	三・五%
富農	六・四
中農	一九・六
貧農	七〇・五

(ロ) 陳翰笙氏關東省調査 (同年)

地主	二%
富農	四
中農	二〇
貧農	七五

即ち地方農村の九十パーセント以上が庶民金融の施設を必要とする中、貧農にして残りの僅かに一割足らずのものが、官僚、地主、郷紳(所謂土豪劣紳)、軍閥、土匪、買辦と云ふ階級である。此の比率は恐らく都市に於いても亦同様であつて支那大衆の九割までが貧乏線以下の人々であつて富裕階級は人口の僅かに一割であると云ふ事が出来ると思ふ。

三、地方自治制度

次に支那に於ける第二の社會的特徴は地方自治制度が日本に於ける封建時代の如く、非常に強固に發達して居る事であつて、戦亂と治政者の交代とは自然に都市農村里邑に於ける自治制を發達せしめ都市に於いては「市政府」農村に於いては「郷約」「五甲制度」が發達し、又、「大家族制度」や親族間の團結は現代日本の其れよりも非常に強固にして従つて之れを中心とする金融制度も亦可成り重要性を帯びるものである。

四、ギルトの發達

更らに第三の特徵は支那の各層、各階級に於けるギルトの發達である。之れに關しては日本の根岸信氏の「支那ギルトの研究」及びエツチ・ビーモース「支那ギルト論」に明らかであるが、宗教團體、同業組合、同郷團體、商人ギルト、工人ギルト、勞働者ギルト等が網の目の如く發達して、統制、裁判、管理、祭祀、金融、検査等の各種の事業を行つて居るのである。従つて此の社會組織を中心として金融も亦相當發達して居るのである。

五、政治經濟事情

第四は政治經濟事情であるが、支那は人も知る如く現在尙ほ多分に封建政治の殘滓を存して居るのであつて、其の中に資本主義發達の萌芽あり、而して資本主義制度發達せざるに早くも共產主義の輸入もありて、丁度日本の明治維新を尙ほ一層複雑化したやうな時代である。従つて其の金融制度も之等の社會制度や、經濟制度の反映を受けて各種各様の金融機關が發達して居るのである。

従つて支那の庶民金融機關も之れ等と對應して複雑なる形態を爲して居る事は蓋し自然の趨勢であると云へると思ふ。

第二 農村庶民金融機關と都市庶民金融機關

従つて支那の庶民金融機關を見んとすれば勢ひ農村庶民金融機關と都市庶民金融機關との兩方面を研究す可きであるが前述の如く支那に於ける都市庶民金融は重要な部分を占めて居らないのであるから茲では専ら支那の庶民金融機關の内先づ農村庶民金融機關（鄉村庶民金融機關）の

概略を大觀してみやうと思ふ。

農村が都市生産者と金融資本主義と二重の重壓及地主階級の爲めに苛刻な小作料と金利の中間搾取とに苦しみ居れる事は世界的事實であつて何も支那の農民に限つた事ではないのであるが其の上に支那農民は左のやうな理由に於いて更らに其の窮乏の度を増加されて居るのである。

イ、市場關係が不整備ノ爲メ其ノ生産物ヤ其ノ買入品ガ不等價格ニ於テ取引サレテ居ル事
ロ、從來ノ封建的諸搾取ガ益々強化サレテ居ル事

ハ、自然的災害ガ加重サレテ居ルコト

ニ、政變戰亂其ノ他ニ依ル農村ノ不況ハ支那ノ農村全土ヲシテ離村向都ノ傾向ヲ生ゼシメ、農村ハ不穩ノ徵アルコト、即チ農民ノ窮乏ハ無智ノ彼等ヲシテ良懦ナル者ハ外ニ逃亡シ強悍ナ者ハ盜匪トナル結果ヲ招來セリ

ホ、之レガ爲メ近時縣財政ノ地方保衛費（公安局費、保安隊費、保甲經費等）極度ニ加重セラレタコト

以上の様な理由に依つて支那農村は近來疲弊の極に達し、農村は負債増加し、借貸戸數は驚く可き數字を示して居る。即ち同國實業部中央農場實驗所の調査報告に依ると左のやうな數字とな

つて居る。

中國農村借貸戸數統計

省別	總縣數	報告縣數	總戸數ニ對スル借貸戸數%	總戸數ニ對スル借糧戸數%
察哈爾	一六	七	七九	五三
綏遠	一六	一一	四八	三三
寧夏	九	六	五一	四七
青海	一五	六	五六	四六
甘肅	六六	二一	六三	五三
陝西	九二	四五	六六	五六
山西	一〇五	七一	六一	四〇
河北	一三〇	一〇九	六一	三三
山東	一〇八	八二	四六	三六
江蘇	六一	五〇	六二	五〇
安徽	六一	三二	六三	五六
河南	一一一	六三	四一	四三
湖北	七〇	二二	四六	五一
四川	一四六	五六	五六	四六
雲南	一〇九	二五	四六	四九
合計	一,七九九	八五〇	平均 五六	平均 四八

右の表中「借債」とあるは金錢貸借にして「借糧」とあるは糧食の貸借である。今此の比率を農村の階級別に分類してみると左の通りである。

種別	借錢戸數率	借糧戸數率
貴州	八四	四五
湖南	七六	五二
江西	八二	五七
浙江	七五	六七
福建	六四	五五
廣東	九四	六〇
廣西	九四	五一
合計	一,七九九	平均 五六
富農	六六・七	三三・三
中農	五〇・〇	五〇・〇
貧農	二八・四	七一・六
平均	三一・二	六八・八

(昭和九年廣西蒼梧六ヶ村調査)

即ち農村の内金錢貸借の率は富、中農に多く、借糧は中、貧農になる程多くなると云ふ有様で

ある。而して之等「借糧」の率は年を経るに従つて増加し行く傾向である。之れは農村の中貧農の窮乏を物語ると共に左のやうな原因に歸因して居る。

- 一、現金ノ償還ハ漸次不可能トナリ穀物ヲ以テ返済スルコト、改メラル、コト
 - 二、農産物ノ收穫期ハ定期的ナルヲ以テ收入確實從ツテ償還確實ナルコト
 - 三、借糧ノ利息ハ舊式ナ貸借形態ヲトリ殘酷ナ搾取ヲ伴フモノデアツテ、其ノ利息ハ金錢ノ貸借ヨリモ常ニ高率ニシテ月七分見當ガ普通トサレテ居ル
- 又「借款期間」は何れ位の期間のものが多いかと云へば左表に於いて知る事が出来る。

省名	報告縣數	借款期間				
		六月以下	自六月至一年	自一年至二年	自二年至三年	三年以上
察哈爾	六	—	七五・〇	—	一二・五	—
綏遠	一一	二六・六	六〇・二	—	六・六	—
山西	七五	三九・四	五一・二	三一	三七	—
河北	一〇五	一〇・四	八四・六	〇・八	一・八	〇・四
山東	八三	一八・七	七四・一	一二	二・八	—
江蘇	四七	六・〇	七五・八	九・一	一・八	〇・六
不定期	—	—	—	—	—	一二・五

省名	報告縣數	利率 (月利)				
		自一分至二分	自二分至三分	自三分至四分	自四分至五分	五分以上
安徽	三三	一一・八	六〇・七	九・二	二・六	五・二
河南	六三	一七・五	六八・六	二・〇	四・〇	〇・六
湖北	二五	五・〇	七五・〇	二・五	—	—
湖南	三六	三・八	六六・八	一一	五・一	二・五
江西	二七	七・八	六三・四	二・六	五・二	二・五
浙江	四六	九・八	八〇・四	三七	—	—
福建	二九	四・七	五九・七	七・一	七・一	二・三
廣東	四九	一五・七	五三・〇	四・六	二・七	八・三
合計	八七一	平均一二・六	平均六四・七	四・三	五・〇	二・一

更らに「利息」は何うかと云ふと即ち左の通りである。

省名	報告縣數	利率 (百分率)				
省名	報告縣數	自一分至二分	自二分至三分	自三分至四分	自四分至五分	五分以上
察哈爾	六	一二・五	六二・五	一二・五	—	—
綏遠	一一	一八・七	一一・五	六・二	四三・九	一八・七
山西	七五	二・六	一七・〇	四〇・八	二七・六	一二・二
河北	一〇五	六・六	四六・七	四三・八	二・五	〇・四
山東	八三	五・四	三五・七	三七・〇	二〇・〇	一・九
不定期	—	—	—	—	—	—

支那庶民金融論

江蘇	四七	一四・三	四八・七	二五・二	五・九	五・九
安徽	三三	一・二	三二・一	三八・三	一一・一	一七・三
河南	六三	一・二	一〇・八	五二・八	一九・二	一六・〇
湖北	二五	七・五	五〇・〇	二七・五	七・五	七・五
湖南	三六	一・一	四四・九	四三・六	四・七	五・七
江西	二七	一六・三	七三・五	一〇・二		
浙江	四六	四一・二	五七・七	一・一		
福建	二九	三一・九	六三・九	四・二		
廣東	四九	一八・八	四八・二	三〇・四	〇・九	一・七
合計		平均九・四	平均三六・二	三〇・三	一一・二	一二・九

即ち以上の表に依つてみると月利二分乃至五分のものが最も多く次いで月利三分乃至四分の高率のものにて中には月利五分以上のものが一二・九%も含まれて居るのであつて、如何に支那の庶民金融が高利率であるかと云ふ事が知られるのである。

更らに之等の金利は金銭借貸糧食貸借の何れが高利なりやと云へば、前述の如く勿論「糧食借貸」の場合が現金借貸の場合より非常に高率なる事勿論にして之れを省別に於いて示してみると即ち左の通りである。

各省別現金及糧食利息表

省名	現金借貸利息(年利)	糧食借貸利息(月利)
察哈爾	三二%	八・三%
綏遠	三二	七・七
山西	四六	六・〇
河北	二九	三・三
山東	三四	三・五
江蘇	三五	七・六
安徽	四一	一〇・〇
河南	三五	七・三
湖北	二九	六・九
湖南	三三	六・八
江西	二五	四・四
浙江	三〇	四・〇
福建	二一	四・七
廣東	二七	五・八
平均	三四	七・一

最後に一體之等の借貸は如何なる種類の金融機關より借入れて居るか即ち借入資金の來源先を

調査してみると大體左の通りである。

借入金金融機關	
種別	地主 富農 知人 商店 錢莊 當舖 合作社 銀行 合計
全國平均 (%)	二五・〇 一八・四 二四・二 一・三一 五・五 八・八 二・六 二・四 一〇〇・〇
金額 (單位 百萬元)	三〇・一 二二・七 二九・二 一五・八 六・五 一〇・六 三・一 二・九 一一二・〇

又之れを更らに「現金借貸」と「糧食借貸」との二方面から調べてみると左の通りとなる。

現金借貸來源		糧食借貸	
合作社	親友	地主	富農
一・三	八・三	一〇・九	一三・六
九・〇	四五・一	四六・六	一一・三
一七・三	八・九	一七・六	一〇〇・〇
一〇・一	一〇〇・〇		
一〇〇・〇			

又中央農業實驗所の調査に依つて支那農民借貸の來源を百分率に示してみると左の通りである。

銀行	合作社	質舖	合會	商店	私人
二・四%	二・四%	八・八%	五・五%	一三・一%	六七・六%

右の表に依ると銀行其他合作社等の新式金融機關の勢力は未だ不充分にして依然として私人、金貸、商店、合會、錢莊、質屋等が絶大の勢力を持つて居る事が知れる。然らば支那には新式の庶民金融機關がないのであるかと云へば決してさうではなくして左の如き機關が存在して居るのである。

各省市合作等金融機關	
銀行 本支店數	本店 一五九 (支店) 一、三四七
中國農民銀行	六九
中國銀行	四〇
上海銀行	一九
省農民銀行	六六

支那庶民金融會	
其他の農民銀行	二三
華淨義賑會	八六
農民貸付所	一〇三
合作社	二六、六〇〇
合作委員會合作聯合會	九〇
農村金融救濟處	三
縣市政府	一一
其他	一六

第三 新式庶民機關の發達せざる理由

然らば一體之等の新式庶民金融機關が何故に支那全土に發達しないで依然として舊式の庶民金融機關に依つて居るか云へばそれには次ぎのやうな原因がある。即ち

(一) 第一は或る地方は發達して居るが或る地方は發達せず全國地域に平均して行き亘つて居ない事、一例を信用合作社にとつてみると江蘇、浙江、河北、山東、安徽、江西の各省には合作社は集中して居るが省の中に於いても浙江の如き省内に六七〇ヶ所の信用合作社あるも其の内九

〇は嘉興に八八社は嵩徳に二七六社は抗縣、六二社は德清に在ると云ふ風で他の地方には無い。又江蘇に於いても一、八九七ヶ所の合作社が設立されて居るが其の分布状態は、丹陽に一三九社、高淳に一四三社、蕭縣に一二三社、鎮江、江寧、如臯、松江には八〇社以上が集合して居るが、他の所にはないのである。即ち駱耕漢氏の説明の如く、商業比較的發達し、社會も比較的安定し、又更らに距離的には金融中心地に近い所に分布されて居て其の他の所にはないのである。寧ろ必要なのは之れ等の所ではなくして農民の困窮せる地方こそ眞に合作社が必要なのである。即ち「交通便利なるか又は水利良好なる各縣」には在るが、「災害を蒙ること重く、爲めに農民破産を來たし且つ其の程度最も甚しき各縣には行き亘つて居ないのである。

(二) 第二には貸付對象が各階級に行き亘つて居ないことである。新式金融機關は主として抵當貸付制度を採用して居る結果農民の各階級には未だ普遍的に行き亘つて居ないのである。孫曉村氏は之れに關し次のやうに云つて居る。即ち「目下支那各地の信用合作社事業竝に農村貸付の發展は農村の貧農を對象とするものではなく、所謂信用貸付は名目のみにして總ての貸付は抵當物を必要として居るのであつて、又其の合作社に加入する爲めには各種の財産上の制限を加へ、又青田貸付及生産物に對する貸付は五畝以下の小農に對しては殆んど貸付を爲さず、棄て、顧み

ない有様である。浙江省生産會議の報告に依れば慈谿縣合作社の農業倉庫に於ける抵當物の數量制限は極めて高く、抵當物は必ず二十五元乃至五十元以上の物品なる事を要する旨規定して居る。」と云つて居る。然し之等は單に浙江省のみならず他の省に於いても同様であつて、平市登錢局の農田貸付規定には「借入農民は相當の抵當物件を有し當局に對して貸付を申請せんとする時は必ず當該村長よりの保證書添付の上該抵當物件が二重擔保ならざること及び其の使途正當なる事を保明せしむ」こととして居るのである。

今左に農村に於ける抵當貸、信用貸の正別を示してみると左の通りである。

北支各省農民借款信用方法

省名	個人信用	保證信用	抵當信用
察哈爾	一四・三	四二・九	四二・八
綏遠	一一・〇	三六・〇	三二・〇
山西	一一・〇	三五・七	五三・三
河北	二一・一	三五・二	四三・七
山東	一四・〇	四六・九	三九・二
五省平均	一四・七	三九・三	四五・八

全國平均

一九・八

三三・九

四六・三

右表の内個人信用、保證信用の借貸は主として舊式金融機關の個人金貸、商店、富農、地主等にして、銀行、合作社、農當、錢莊等は主として抵當信用に依る貸付を試みて居る模様である。

以上に於いて、私は現代支那に於ける庶民金融機關の概觀のみを略述したのであるが、以下少しく之等各種庶民金融機關の個々の状態に就いて記述することとする。

しかし之等のもの、中には到底此の戦時中資料を得る事の出来ないものもあるので、之等のもの、内其の資料を得ることの出来るもの、みに就いて記述することの止むを得ない事は甚だ遺憾であるが、之等現在に於いて資料入手の困難なものに關しては他日機會を新にして、更らに追記することとする。

支那の舊式庶民金融機關

一、個人金貨

支那研究家のマジャール氏は其の著書の中に於いて「支那に於ける高利貸付業に従事して居るものは貨幣又はその生産物の餘剰のある總ての人間である」と云つて居る位であるから、支那では借り手でない人達の全部が個人金貨と云へる譯である。従つて支那の庶民負債の八〇%以上は此の個人金貨からの負債であるから支那に於ける其の庶民金融界に於ける勢力も大したものと思ふことが出来ると思ふ。

個人金貨負債額分率

地主	二四、二
富豪	四二、六
商店	一八、四
商人	一三、一
合計	二五、〇
合計	八〇、七

銀行	二、四
合作社	二、六
當舖	八、八
錢莊	五、五

又同著者は之れに關して次のやうな事を述べて居る。

「個人的高利貸は都市にも繁榮して居るが、其の主なる活動分野は支那農村である。小作關係に於ては地主が自己の掌中に高利貸制度を掌握して居る。小作人は困窮すると先づ「旦那」に借りに行く。旦那の地主は其の困窮せる「子弟」に對して年利二四%乃至一〇〇%或は一五〇%と云ふ驚く可き高利を貸し與へる。地主的搾取が高利貸的搾取と共同するのである。」

零細自作農の場合に於ては高利貸の中心人物は商人である。穀物商人が商人と高利貸との兩機能を兼ねることは甚だ多い。彼は農民に食糧と種子とを貸與し、農民は之に對する元利支拂の義務を負はされるばかりでなく、全收穫を此の商人に賣却する義務をも負はされるのである。時には農民は收穫前に穀物を高利貸に賣却する場合がある。高利貸は又屢々現金を貸して收穫後の安い穀價ではなかつた現物での返還を要求することがある。高利貸は斯の如くにして米、穀物等を

を蓄積して商人となる。商人及び地主の外紳士と徴税請負人も高利貸に従事する。農村の富農的要素も亦高利貸を爲す。地主的土地所有、官吏、商業資本及び高利貸の纏絡、接合の極めて複雑なる過程から見られる。

農村高利貸は多くの地方をそれが未だ貨幣形態を採らない爲に事態を悪化せしめて居る。貸借は屢々米、高粱、黍等々で爲される。現物貸の場合には收穫前の農作物の高価格が計算の基礎とされ、支拂の場合には收穫後の低価格が基礎とせられる。自然形態の貸借は必ず最も高い利率を伴ふ。例へば穀物一椀に對して高利貸に返済するのは一椀半或は屢々二椀である。金錢貸付に於て廣東の高利貸は月利二%乃至四%を徴して居る。嘗に農民組合の資料のみならずブルジョア的な調査も亦悲惨なる状態を描き出して居る。

(イ)地方、富豪 然らば支那に於いて地主、富豪、即ち「土豪劣紳」になるのには何んな種類の人々がなるのかと云へばジャーニガン氏に依ればそれは退職の官吏か又は其の家族かであり、支那の土地の半は近くは之れ等の郷紳或は士紳又は土豪劣紳と云はれる少數の階級の人々によつて所有されて居るのである。支那經濟全書には之れに關し次のやうに述べて居る。「支那には全國を通じて數十萬人の讀書人がある。之等の階級の人々は終日机にあつて歴史を講じたり、又文字

の稽古をして居るが之れは何の爲めかと云へば「舉人進士」の學位を得て官吏になる爲である。支那の官吏は何故にそんなにいゝのかと云へば勿論一家一門の名譽には相違ないが、それと同時に賄賂が澤山取れて富貴榮達が出来からである。支那の言葉に「三年清知府十萬雪花銀」と云ふ言葉があるが、即ち三年縣知事をやれば十萬圓位の財産は出来ると云ふ意味である。即ち之等の官吏が辭めると郷紳となつて大いに地方に勢力を張るのである。そこで支那の田舎の地主、富豪と云ふものは嘗つて一度官吏をやつたものか、或は其の祖先が官吏をやつた者の遺族である。又ダクラスも其の論文の「官僚に依る富の蓄積手段」の中に之等に關し幾つもの例を擧げて支那官人の欺瞞と墮落とを描いて居る。即ち之等の人々が地方の金貸となるのである。一方銀行や錢莊等も之等の人々を通じて農民に金を貸し、其の金利を搾取した方が安全で體裁もいゝのであるから銀行、錢莊は之等の人々や合作社を通じて農民に金を貸して居る。何となれば之等の人は農民より智識があるので法律にも明るいし計算にも明るいからそんな仕事を頼むのに便利であるからである。

一方又之等の土豪劣紳の或る者は直接自分が金を貸すのは段々世の中が進んで來て社會的に體裁が悪いので自分が發起となつて合作社を作らしめて、此の合作社を通じて高利の金を貸して居

る。丁度日本の信用組合に於ける或る種の悪質の組合長や理事長と同じやうな事をして居るのである。後でも述べるが、此の故に合作社必ずしも農民の金融機關として便利なものでなく、寧ろ農民にして合作社を利用出来るのは極めて少數の階級の人々であり、又表面は合作社でも、實は之等土郷劣紳や銀行、錢莊の高利貸付機關となつて居るものが多いのである。之れ等の内の小なるものが例の「印子錢」「閻羅錢」等と稱せらるゝ悪辣なるものである。

(口)商店 支那の庶民金融として重要なものは地方の地主、富豪に次いで商店及商人からの借入で全體の三八%を占めて居るのである。之等のものから借入れるのは現金と糧食と何れが多いかと云へば左表の通り矢張り現金の方が多いやうである。

商店借入率	
現金	一七、三
糧食	一一、三

又一般の商人は交通發達せざるを口實とし市場の劣質な商品を以て人民を欺瞞して居るのである。就中其の運賃に就て研究すれば小麥の全價額中で運賃は全價の百分の一八、三三を占め居るを見る。粮棧即ち穀物問屋と提携して利を計り又一頭の豚は生産者より消費者に渡る迄に其の

六、七割は商人の手中に利として收められるのである。

従つて商人は運輸機關の不完全不統制の缺點を利用して貧窮なる階級より搾取して居るのである。湖南の米商は塵埃を小麥の裡に混入し麥の重量の四割を占むる如くなす又民船で米を運搬する如き際は船夫の一切の食糧は總て此の米で賄ひ其の盗用したる分の重量と等しくなる迄水分を含有せしめて原状の如く装ひて倉庫に入れる故に後に至り發酵のため食用に適せざるに至るものがある。腐敗せざるも販賣の際は必然的に數量は減少するため結局損害を受ける者は一般の貧農である。

かくの如く農民の負債は各地普遍の現象である、即ち北平郊外の掛甲屯一百農家を以つて言へば「百戸の中、民國十五年内に借金した者は四十四戸にして、合計借入金一千三百六十七元、平均一戸當り三十一元である、全年貸借三十元以下の者が大多數を占め、三十元以上五十元以下の者は四分の一を占め、五十元乃至百元の者は六分の一を占め、百元以上の者は僅かに二戸あるのみである。この借入額の僅少なることはとりわけ農民貧窮の程度の深刻さを表示してゐる。貸借の用途に至つては、更に注意すべきものがある。即ち「日用品の不足、とりわけ食物であるが、その爲に借金した者が四分の三を占めてゐる。この外小商賣を営む資本に用ひた者は三戸、病氣、

娶妻、嫁女、及び喪式をだす爲に借りた者がそれ／＼一戸ある」また黒山扈村馬連窪村與東村六十四家之社會的及經濟的調査に據れば「二十三戸の中、十八戸は食物を買ふ爲に三戸は喪式をだす爲に、一戸は結婚する爲に、一戸は舊債の利息をわたす爲に借りたもので、その合計千五百七十六元、一戸平均六十八元となつてゐる。」浙江省農村信用合作社が各地に於ける合作社社員の經濟狀況を調査した結果、一戸として負債の無いものはなく、平均毎戸最高は四百餘元、最低は十餘元であつた。その他山東、河南、河北、陝西等の著名な貧窮地域ではその負債狀況は更に深刻なものがある。この様にして農村に於ける高利貸の勢態を造成する負債は小農をして土地や家屋を處分させずには置かない。土地や家畜の値は下落し、一方食物その他の必需品は騰貴する、土地や家畜の下落は屢々五〇%から時には六〇%それ以上に及ぶが、一方食料品の騰貴は三〇%以上にのぼる。かくて富者は益々富み、貧者は愈々窮し土匪は日一日と多くなるのである。

この様な農村金融の枯渴と流通の困難は高利貸資本の活動の地盤をつくつた。すべての農民の資力は剝奪されこれを驅つて貧苦のどん底に陥らしめる。小農が耕種する土地を獲得する爲には土地を購入する資本を求めて高利貸資本家の門を叩かねばならない、小作農が土地を小作するには、小作料の外に、小作をするに當つて先づ押租（小作保證金）を納める爲にも、高利貸の門をくゞ

らねばならぬ、極めて高い賦税及び一切の苛損は、小農をして高利貸資本家に隷屬せしむるに足りまた災荒、凶作や兵匪盜賊はさらに小農を驅つて高利貸資本家に隷屬せしむるに充分である。甚だしきは婚喪、慶喜や物價の變動までが、皆高利貸資本家の機會となる。されば緩遠の農民の如きは「家産農具、牲畜食物、悉く匪に毀され、土地はあつても、耕種する術がなく、また坐して田疇を荒蕪せしむるに忍びず已むを得ず群をなして地痞（地方の無頼漢）土棍（遊民）官僚、劣紳、商業資本家のやつてゐる高利貸の下に趨いて、生存を圖つてゐる。これらの放資家は皆盤剝重利、殘忍苛酷なものである」江蘇省の南通、崑山等の地では小作農の資本で完全に自己の所有に屬するものは甚だ少ない、多くは他人の資本を借りて不足を補つてゐる。崑山、宿縣の小作農は皆地主より借り、南通に在る者は、多く富翁より借り、地主で小作農に貸付けるものは甚だ少ない。崑山の小作農で地主方面より借金するものは百分の六六・四を占め宿縣では百分の四一・一を占めてゐる。四川省峨眉山の農民は、その百分の二八が、高利貸、（又は親戚）に靠つて生計してゐる。浙江省の金華蘭谿等の八縣では、農民の負債戸數の全村農民戸數に對する百分比は、百分の五八・八となつてゐる。その他各地の農民の大多數もまた皆負債をしてゐるのである。

以上の様な農家の負債の動機の詳細についてもなほ今後の調査にまつことにしたいが、農村に

おけるかくの如き貸借は、多くの場合生産条件の改良の爲になされるのではなく、また再生産の正常的過程を保證する爲に行はれるのでもない、天災、喪葬、嫁娶、租税は農民を高利貸の許へと追ひ立てる。高利貸の貸付金は、多くの場合天災の結果失はれた生産手段の回復及び生存維持の爲に、或は租税支拂の爲に、或ひは一切の婚葬、喜慶の費用として用ひられ、利子は農家の所得中から支拂はれる。それがため再生産の正常的過程が破壊せられ、農家は貯蓄なき經營となりつゝある。一方高利貸資本がかくまで農村に活躍するに至つたのは、實に次の様な事實に基づくのである。即ち農業の生産の基礎は主として自家勞働を以てする前資本主義的小農經營である。然るにその生産物は商品殊に國際商品として生産せられる、即ち流通過程に於ては資本主義的性質を帯びて來てゐる。この傾向は更に租税の金納によつて助成せられ、この兩者の矛盾は農業の基礎たる小農經營を破壊することによつて自らを解決せんとする。尤も一方に於て家庭勞働の日備化と家内工業の漸次的發生によつてその速度は幾分緩和せられるのであるが、他方官僚、地主による經濟外ならびに封建的搾取や、商人による商業的欺瞞と盤剝によつて小農經營の破壊過程を促進しつゝある。こゝに高利貸資本活動の社會的乃至經濟的源泉が醸成せられ、高利貸事業は益々擴大された範圍に於て再生産せられる。然らば、この高利貸資本が如何なる形態をとつて農

村中に現はれてゐるか以下に説明してゆかう。

私人高利貸は、城市に繁榮してゐるが彼等の主要な活動の地盤は農村にある。土地小作の領域に於ては地主も同時に高利貸事業を自己の利裡に集めてゐる。以下その活動範圍の廣汎な地主による主要な貸借方式について述べやう。

〔金錢の貸與〕 その金融の相手は自作の小農及び近隣の中農以下の農民である。通常借據もなく、また承保もなく、たゞ地主が小農民の誠實を信じ、或ひは保證人を立てたり、某人の口頭保證を以て次の如き證書（缺帳）をとつて金を貸す。

立欠帖人△△田用項不足空乏今憑申説人欠到△△名市小洋△△圓整言明各月内
如數月清主期如不付清有承保人甘願墊付並無異言恐口無憑立欠帖存證
年 月 日
承保人 △ △ △

然してその貸付期は播種期、除草期に多くその償還時期は舊曆九月か十月或ひは歳末を普通とする。その貸金は「一ヶ月を越えねば利息を付せぬ」といつた情義による融通方法がないことも

ないが、總じてその利息は極めて高く、地主の搾取と相結合して行くのである。また金錢を貸して穀物を返還させるものもある、即ち春季穀一石代として大洋十元を貸し秋季穀一石を領取する慣例が行はれてゐる地方もあるが、これを金利に換算すれば、六ヶ月間に五割の高利となる。更に備還と稱せられるものがある。これは地主が、まづ農業労働者に金を貸與し、農業労働者は一年、二年或ひは三年の雇傭期間を承認する、然して、その貸金の抵補に地主はその勞銀を保留する、この制度は短期農奴性と變らない。農業労働者は、地主に傭はれ、契約期間中は他人に雇はれることは出来なくなつてゐる。以上は信用貸の實例である。が、然し勿論擔保貸の場合もあるが、これも保證人を立てる。

〔雜物品の貸與〕 雜貨舖もまた農村縣城に於いて雄厚な勢力を張つてゐる。それはまた事業の外に糧棧、油坊、燒鍋を兼ねて地主が自らこれを營んでゐる。農村に資本主義商品が浸入し、農民生活が商品經濟に移行せる今日、農村における雜貨舖の經濟上の役割もまた益々擴大しつゝある。彼等雜貨舖は近隣の農民に對して、その信用において或ひは出來秋の農作物を擔保として商品の掛賣をやる、農民の需要するものは粗布、綿、鹽、燒酎、石油、蠟燭、煙草などを主とするが、糧食も掛買の對照となる。農民が掛買を餘儀なくされた場合はその價格は、全く店主によつ

て決定され、平常市價の三割程度は高くなつてゐる。掛賣は通常舊曆の五月、八月、十二月の三期に清算するが、普通である。さらに雜貨舖は金錢の貸付も行ふ。かりに百元の金額を貸すには四百元の土地を擔保にとる。普通春に貸して秋に回収するのであるが、もし二ケ年間に回収出來ねばその土地を賣却せしめて、元利を取つてその差額を債務者に返へす、右の利息は月普通二分である。かくの如く商業資本と高利貸資本は農村金融を壟斷してゐる、一切の小作農、貧農はすべてその高壓の下に呻吟してゐるのである。この外に無盡等の辨法があるが一般貧農にはそれすら利用することが困難な状態にあるのである。

二、都市に於ける個人金貸

以上は農村に於ける個人金融業者の様相であるが都市に於いては農村に於ける前述の如き勝子錢、搭錢、旗杆利錢、喪帽債、印子錢、死契黏單の外に鞭子錢、轉子錢等の個人金融が行はれて居る。今左に田中忠夫氏の著「支那經濟の崩壞過程と方法論」の第十章支那高利資本の諸研究中より之等都市に於ける個人金融の二三を詳説してみると即ち左の通りである。

印子錢 (1) 印子錢の性質、印子錢とは月賦償還による短期少額の高利貸金をいふ。今暫らく

この定義をもつて満足し、少しくその性質を説明するであらう。

(イ) 印子銭は貸金である。

印子銭は一方資金供給者より他方資金需要者に供給せらるゝ貸金にして、單にその名稱によりて判断すれば一種の通貨なるが如きも、實は決して一種の通貨にあらず、この資金供給者は、銀行、錢莊、錢舖等の如き特殊の金融機関にあらずして、我邦において觀るが如き高利貸業者である。これを印子局、印子幫、放銀的と呼び、堂々たる店舖を構へず多くは裏通りにありて、一見民家に等しきものである。他方かゝる資金需要者は下層階級なること勿論にして貧民、下層勞働者、赤貧洗ふが如きものである。

(ロ) 印子銭は高利貸金である。

前述せるが如く印子銭は物的信用の薄弱なる貧民階級に對する貸金なるとも、失踪、失業、疾病等によりて、その回收不能となり、これを保險する必要あるをもつて、その利率は自ら高く高利貸金である。今その利率を概觀するに月八分乃至三割三分強に及び、しかも利息は元金と、もに、日々支拂はるゝを原則とし、またその利息は、貸付の際天引(先控)せらるゝこともあるをもつて、愈々高率となる。

(ハ) 印子銭は短期貸金である。

印子銭は安全を期するため、その期限はいづれも極めて短く、普通一ヶ月乃至百日なるも、就中一ヶ月なるものが最も多い。

(ニ) 印子銭は少額貸金である。

前述せるが如く、印子銭は信用薄く収入少くして生活程度低き貧民階級に對する貸金なるをもつて、その金額は自ら少額である。普通一十文乃至二十元以下にして、日賦償還に便するため多く小洋建または吊文建である。

(ホ) 印子銭は日賦償還貸金である。

印子銭は元利を貸付日より償還までの間に一日若干に分割し、これを毎日償還(清償、償還・歸還)するのである。

(ヘ) 印子銭は取立債權である。

印子銭の債權者(債權人)は毎日使用人をして債務者(債務人)の宅を訪問せしめ、これを集金取立(收款)せしめる。すなはち取立債權である。しかし雨天等によつて、集金の困難なる場合にはその日は集金を中止し、後日一括して集金する。また債務者の都合によつて、その日集金

すること能はざるときは、これを猶豫し、後日一括して集金する。

印子錢は略ぼ前述せるが如き性質を有する貸金にして、一にこれを打錢といふ。かゝる性質を有する貸金を、何故に印子錢又は打錢といふやといふに、債務者はこれを貸付くる際に、債務者に一の小形の折通帳(摺、取摺、摺據賑摺、摺子、手摺)を交付(收執)し、これに姓名、金額、貸付年月日、償還日を記入し、毎日回収したるときは、その日付の上に債権者の印章(印子、戮印印戮)を押捺(打、蓄、打蓋、打印、打印子)し償還の證據とする。また債権者においても、貸付臺帳として債務者に交付したるものよりも稍々大なる折本様の帳簿を備へ、これに同様の手續をなす。これが印子錢または打錢の名稱の發生せる所以である。

(2) 印子錢の沿革 かゝる印子錢は支那において何時頃より發生したかといふに、支那の社會状態に照らすときはその沿革は頗る古きものと推測せらるゝも、今俄にこれを審にすることを得不い。但し「津門雜記」並に「蕪湖縣志」に據れば既に印子錢について記述し、殊に後者に據れば清朝時代にはこれは禁止せりといへば、少くとも清朝時代には、既に印子錢なるものが存在したと斷言するも誤なしと信ずる。

なほ印子錢の沿革に關して、その創始者は何省人なりやといふに、山西省人なることは、「津門

雜記」並に「蕪湖縣志」等の記事に據つて明である。また古來支那金融界において山西省が多額の勢力を有せしこと並に現今においても、印子錢が依然として山西省人に依つて取扱はれつゝあることに想到すれば、前掲記事の誤らざるは、自らこれを首肯することを得べしと信ずる。

(3) 印子錢の地域 茲に印子錢の地域とは、現に印子錢の行はるゝ地域をいふ。しからは今日支那において、印子錢は如何なる地域に行はれつゝありやといふに、實地調査並に諸文獻に據るに、揚子江以北綏遠熱河に互る地域内に、普く行はれつゝあるものと斷定することを得る。

(4) 印子錢の貸付 印子錢を借入るゝ(借貸借)ことは、何人といへども自由であるが、全然自由なりといふを得ない。蓋し印子局においては、印子錢の安全を期するがために、債務者を選択し、これに多少の制限を加へて貸付(放、放出、借貸、放債)するからである。印子局は、如何なる條件の下に、債務者を選択するやといふに、

- イ、定住者なること、
- ロ、妻帶者なること、
- ハ、現に一定の収入あること、
- ニ、紹介者あること、

ホ、金額稍多額なるときは保證人を要すること。

等の諸條件の下に、印子錢の債務者を選択する。かゝる條件の完否、金融の繁閑によつて、貸付條件を異にすることは勿論であるが、印子局と金額(母、母錢、本錢、母金、原本錢)利息(子、利錢、利金、利息、子錢、利銀、息金)償還方法の協定が成立したときは、印子局は債務者に一定金額と通帳を交付する。貸付金額は前述せるが如く分割回収に便するがために、小洋建または吊文建によるを普通とし、利息は貸付期間に對し金額若干若しく利率若干と定める。

通帳の表紙には年號と債務者の姓名、普通呼名例へば和尚、何姓等の如きを記し、内部には金額、貸付月日を第一行に記し、以下償還日を十日なれば一行に記し、一個月なれば三行となし、二個月なれば六行とする。他方印子局は貸付臺帳(債務者に交付するものより稍々大なる折本様のもの)に債務者の姓名、貸付月日、金額並に償還日を記し後日の證據とし且つ集金の用に供する。

(5) 印子錢の回収 印子錢は前述せるが如く日賦償還を原則とし、これに對しては各地とも例外的慣習なく、利息も日賦償還を原則とするも、これに對しては地方によりて例外的慣習あり、すなはち利息のみは貸付當時元金より天引し元金のみを日賦償還することがある。故に印子錢の元金は必らず日賦償還であるがその利息は必らずしもさうでない。しかも元利(本利、本息)とも

に日賦償還によるものが最も多い。

印子錢は取立債權であるから、債務者において元利を印子局に持参してこれを償還する必要はない。すなはち印子局は毎日夜間人を派して債務者を訪問し、日々償還すべき金額を取立てる。印子錢は日賦償還による貸金なるも、債務者のその日の懐合若くは債權者の集金の都合により、償還を數日延期することがある。かゝる實例は、印子局の臺帳並に債務者の臺帳を借覽するに、頻々として起るもの、如くである。かくて償還なき日には、債權者はその日付の上に捺印することなく、償還延期の分は後日これを一括して集金したる日にその日付の上に捺印する。かゝる印子錢償還の延滞理由が債務者側にあるときは、當事者の合意を必要とする。印子局は貸付の際債務者を選択すると、もに、回収の際嚴重に督促するをもつて、貸付期限内に完全に回収せらるゝを普通とするも、なほ且つ完全に回収の行はれざることあるは、印子局の臺帳を借覽すれば、これを發見し得る。かゝる債權は多年に亙るも時效によつて消滅することはない。蓋し支那において未だ時効制度がないからである。また印子局は債權を拋棄することもなく、全部の回収(打完、清財、打回)を終らんことを欲し、繼續して回収に努力する。かくて債務者が債務を完済(清償、打完、付清、還足、金清、清、還楚)したるときに、債務ははじめて消滅する。

(6) 地方別に觀たる印子錢、今支那側の確實なる資料によつて、諸地方における印子錢の状況を觀察しよう。

山東省德平錢、祥嘉縣、成武縣——貧民は生計を營むに資本なきに苦しみ、多く舖戸に向つて打錢を取り用ふ。若し舖中銅元四十枚を放出すれば、即ち京錢（其一千文は制錢の五百文銅元の五十枚となる）一千文とし、毎日借錢者（債務人）より一枚（銅元）を打回（捺印、回收、印收）し、五十日にて打完清賑（全部回收）する。一に名づけて印子錢といふ。

江蘇省江北——江北においては、商業甚しく發達せず、市面の經濟は澁滞してゐる。稍々資産あり名望ある人にありては、若し急に需金（資金の必要）に迫るも、挪借（資金の融通を受くること）することが尙ほ易い。しかも一般謀食の小民は、既に資金の債權人に向つて（擔保借入）抵借すべきものなく、また債權人の信用を堅うするに足る地位も乏しい。それ故に借債せんとする毎に、恒に貸を告ぐるゝに門なきに苦しむ、是に於て穿鑿營利の徒は、遂にこの機會に乗じて、微細の金錢を以て、名は信用借貸（信用貸付）たるも實は則ち中に從て利を取ること、甚だ大に、極めて短き時日を限り、債務人をして、日に按じて本利を勻償せしむるに至る。毎日若干を與ふべきかを手摺の中に標明し、債務人は收款（集金取立）の時に當つて、即ち摺の上に印戮（印

章）を蓋ふ。俗にこれを名づけて打印といふ。例へば某甲が金錢十元を以て某乙に給し、利息二元と約明し、母金と連同（合計）して十二元を一百日に清償（辨濟）すると限定せば、即ち乙は借錢の日より起り日に按じて甲に一角二分（十二錢）を償ふが如し。

直隸省各縣——天津方面に於て銀幣を以て、人に借貸（貸付）して、重利（高利）を獲るものは印子錢に如くは莫い。

所謂印子錢とは例へば甲が銀幣十元を乙に借貸し、毎日利息として銅幣十枚を收め、利息を收むる摺據の上に一の戮印（印章）を蓋ふが如し。名づけて印子錢といふ。若し借約上に一百日打完（完済）すと載明せば、須らく一百日を経過したる後を俟つて、その債務は始めて消滅を行ふべきである。

安徽省當塗縣——當塗の借貸（貸借）習慣に、本錢（元金）一千文を借り、利錢（利息）二百人を加へ、毎日錢四十文を還へし、一月の期満ちて、本利（元利）即ち數の如く還清（完済）するものがある。俗にこれを印子錢といふ。この錢を借るものは、概ね小本にて生を營む貧民に屬する。

安徽省來安縣——當塗縣に於けると同じく、貧民放債（貸付）の習慣は原本錢（元金）一千文

を借出(貸付)し外に利錢二百文を加へ、毎日四十文を還へし、三十日にて還清するものとする。安徽省舒城縣——舒城の市面において、放利(貸付利息)の最も重きは、打錢に過ぐるは莫い。亦印子錢とも名づける。譬へば錢一千文を借るに、債權人は先づ利錢一百文を控し(控除)債務人は實に九百文を得、毎日四十文を打ち、打ちて二十五日に至つて、本利が全清する、即ち千文の本數を還足(完済)するが如し。この債務は多く窮戸及び小本にして營業するものがこれをなすに係る。借る時には妥保(確實なる保證人)あるを要する。只債權人において、帳簿に登記するのみにして、別に字據なし。還す時も亦然り。

安徽省五河縣——また印子錢の習慣あり、債權人は本錢一千文を借出(貸付)し、利錢八十文を加へ、債權人より一の摺子を立て、債務人に與へて收執する。毎日晚間、債權人は債務人に向つて錢四十文を索還(返済を求む)し、債權人より該摺上に一の印子(印章)を打ち、當月收納の證とする、二十七日を經過し、本息(元利)を一併して付清(完済)さる。

綏遠省綏遠縣——利率の最も重きは、印子錢に如くは莫い。その辨法は原銅元一百枚を以て、利錢二十文に加へ、六十日歸還(辨済)とし、取摺を書立し毎日銅元二枚を取り、交付せる時は債權人より帳摺上に印章を蓋ひ、收過(收納)の證として、六十日の期満ちて本利銅元一百二十

枚を得。この錢を利用するものには、窮苦の人が多い。

尙天津の印子錢については「支那經濟全書」並に「津門雜記」を漢口の印子錢に就ては「清國商業綜攬」を蕪湖印子錢に就ては「蕪湖縣志」を夫々參照せられたい。

鞭子錢 支那の高利貸金に印子錢のあることは前述したごとくであるが、更に群書を涉獵して、鞭子錢なるものがあることを知つたから、今これについて簡述するであらう。「夜航船」なる書は、清代失名氏の著作にしてその卷一を觀るに「里中の無頼は、喜こんで鞭子錢を放つ、利を漁ることを最も苛なり、その例は銀一枚を放ち、日に利三釐或は四、五釐を取る、且々これを索む彌月ならずして子は母よりも浮ぶ、還楚(完済)せば方に止むべきも、否らざれば、則ち積年累月、底止するところなし」と述べてゐる。これによれば、鞭子錢とは日賦償還による短期少額の高利貸金をいふ、印子錢に類似してゐることが判る。鞭子錢による債權も、印子錢におけるが如く、同じく取立債權にして、債權者より債務者の住所に赴いて、取立てるものである。すなはち同書には鞭子錢の貸付を業とするもの、主婦が、債權の取立に奔走する有様を述べて、「風雨輟まざるや、婦家は主母の僕々たるを憐み、任に分ちて代走せんことを願ふ」といつてゐる。これは鞭子錢が取立債權なることを證するものに外ならない。鞭子錢の利息も印子錢のごとく極め

て高率にして、同書にいふがごとく「銀一錢を放ち、日に利三釐或は四五釐を取る」をもつて、日歩三分乃至四五分であることが判る。かゝる性質の高利貸金を何故に鞭子錢と稱するかといふに、債権者の債務者に對する督促の急なること、恰も鞭(鞭子)をもつて打つがごとくであるに由るものと推定する。「夜航船」卷一にも、その有様について、「これを業とするものは、皆打行兇勇にして、索討(督促)して意を遂げざれば、輒ち臉に反きて罵罵し、老拳直ちに奮ふ、故にこれを畏るゝこと、虎の如からざるはなし」といつてゐる。かくのごとく鞭子錢は債権者に有利にして、債務者に不利であるが、謀食の小民は、眼前の急迫に直面して、已むを得ず、これを借入され、膏血を搾取せらるゝのである。「夜航船」卷一にもこれを敘して、「窮民を剝削すること、此より甚しきは莫し、窮民また到手(手近)便捷なるを貪り、眼前を醫するを得、心頭を剝却(えぐりけづる)して、顧るところなし」といつてゐる。

註 打行とは無頼の徒の團體をいひ、無頼の徒は廣東地方にては一に草雉毛ともいふ。

鞭子錢は如何なる地方に行はれてゐるかを知らうとしても、「夜航船」の著者は、たゞ「里中云云」いふのみであり、しかも著者は失名氏にして、その住所が不明であるから、その里中の意義を解するに苦しむ。偶々清の高士奇著「天祿識餘」を讀み、その卷上に夜航の記事があり、これ

によつて、解釋の端緒を得た。今その記事を示せば次のごとくである。

「夜航はたゞ浙西にこれあり。古樂府に夜航船の曲あり。皮日休の陸天隨に答ふる詩に、明朝有_レ物充_二君信_一播酒三瓶寄_二夜航_一と云へり。播木は汁あり甘く、酒を作るべし。山海經に出づ。沈約集の中にも、嘗て播酒なる字を用ひたり。」

夜航船の著者は夜航船の行はるゝ地方の人にして、夜航船は浙西に行はれてゐるが故に著者の里中といつてゐるのは浙西の一地方にして、鞭子錢が浙西に行はれてゐることを知ることができ

る。轉子錢、印子錢、鞭子錢の外に、なほ一種の高利貸金があり、これを轉子錢といふ。その利率は印子錢のそれよりも稍々低率であるが、法定利率の年三〇%を超過してゐることは勿論である。例へば甲が百元を乙に貸付けたときは十個月を期限として、その利息三十元を加へ、十三元の約束手形(期條期票)十枚を體成し、毎月十三元を償還し、十個月にして元利を完済するのである。

前述せる三種の貸金即ち印子錢、鞭子錢、轉子錢のいづれたるを問はず、極めて高率にして、これがために債務者が極めて大なる不利益を蒙むことは明々白々である。すなはち支那の文獻に

おいても「放利の最も重きは、打錢に過ぐるなし」、「利率の最も重きは、印子錢に如くは莫し」、「窮民を剝削すること、此より甚しきは莫し……心頭を剝却して顧ることなし……故にこれを畏る、こと虎の如からざるはなし」等といつてゐる。しかし「謀食の小民」や「小本にて生を營む貧民」や「窮苦の人」は焦眉の急に迫られては、かゝる高利貸金をも甘んじて利用し、尙且生計の途を講じなければならぬ。かくて彼等無産階級は、「眼前を醫することを得」とはいへ、他に何等かのより好き金融の道あらば、印子錢、鞭子錢、轉子錢のごとき高利貸金はこれを禁絶しなればならない。前清時代には、法令をもつて是等の高利貸金を禁止し、現在においても、その違禁取利の法規依然として效力を有するも現に是等の高利貸金は依然として行はれつゝある。これは本を務めずして末を立てんとする陋策に外ならざるが故にして、その徒爾に終るべきは自ら瞭かである。將來かゝる高利は一方法令をもつて、これを嚴禁すると、もに、他方産業の振興を圖り、金利制度を改善すべく、かくて彼等重利盤剝の徒を絶滅し、これら高利貸金を禁絶し、貧民をして塗炭の苦より脱出せしめなければなるまい。

支那に於ける金融中心は個人の高利貸である事は已に前に之を詳らかにしたが、本章に於ては支那の高利貸の過去の歴史及び現在各地に横行して居る高利貸の實例について略述してみよう。

支那で高利貸が起つて以來已に非常に久しい年月になるのである。「漢書の王師侯表に曰く「旁光侯殷生、利子をも元金と共に貸したる所、債務者はその利子に對する利子の支拂を應諾しなかつた。しかし殷は之れに對して法定率以上の利息をとつたが赦免された」師古に曰く「利子の金額をも本錢に加添して人に貸し、法定率に應じて利子をとつた」又惠氏九經古義に曰く「利息には制限あり、之を越ゆる時は賄賂をとつたも同然と見做される」又「陸郷侯が穀物を貸下し、利息を取りすぎて訴へられたが免せられた」とある。又師古に曰く「穀物を他人に貸して多くはその利息をとる也」とある。利息を高くとり立てること即ち是れ高利貸である。而してこれ等の實例に徴しても古代支那に於いて高利貸の存在を見る事が出来る。遠く漢朝時代に溯れば當時の貸借は已に金錢貸借と物品貸借とに分れて居り、國家又法を設け重き利息をとりたてる事を禁止したるのであるが、之れが高利禁止の始まりである。唐代に至つて法制大いに備はり、重利を徵收するに對しても亦屢々勅令が出で「長安元年十一月十三日勅して重税をかけ、更に二重に利を回らす事並びに法外の利息をとる事を禁止し、同時に洲縣に命令し、嚴重に高利徵取の禁止の斷行を命じた」

又「開元十五年七月二十七日、天下に勅して、各州、縣、官、附近に住居せる者共をして、對

外及び部内の勝手な徴利はとりやめさせる様にし、同十六年二月十六日には詔して曰く「この頃、公私の金銭貸借に於て、利息を取る事甚しく、下層貧民階級の苦しむ事あり、須らくこの事は改革せざるべからず、今日より以後に於ては國內にて金銭を貸借爲す者はたゞ四割の利息を收める事を許す、又官より貸し下の場合には五割の利息を取りても可なり」と是を以て國家が法律を以て最高の利率を規定せる最初とするものである。

「寶暦元年正月七日、勅して、京都にある私債の十年以上を経たるものにして、元利合計元金の二倍以上に達したるものは本人又は保證人死亡して家に財産なき場合、臺府に命じて徵收する事勿らしむる様にした」此の規定即ち債權消滅時效の起源である。(以上引例せる所は共に唐會要卷八十八及び雜祿を参考とす) 宋時代の青苗條例は利息をとる事に對して具體的の規定を定めたのである。「凡そ人や家にして金銭の貸借を請ふ者は斛斗(マス)を以てし、秋になつて物價が、例へ上つたとしても、借金を返す者は借りた金に對して三割の利子を超ゆる事は許されない。例へば一家にして一貫文の金を借りたならば返済の時に當つて一貫三百文以上の金を取る事は出来ない。」此の利息が三割に過ぎざるものは宋を以て起源とする。又元史の太宗、著令に「凡そ貸下する事久しき者にしても元利合して元金の二倍となつたものを最高として規定す」とある。

世祖の至元六年又この制を申明したのである。而して民間の業者に令して利息は之を綜合して元金と等しくなつたものを超える事は出来ないとしたのであるが、之往年、元金と利子の最高を等しくした創始である(以上は事物元會を参照とす)。明律は貸借に對して、特に禁に違ひて利息を多くとる者に於ては法を設け、その特別條文に曰く「凡そ私人にして金銭の貸借、物品の質屋入れは毎月三割を超えたる利息を取る事は出来ぬ。年月長きと雖も一本一利の原則を越える事は出来ぬ。違ふ者は苔四十、規定以上の利息を取る者は贓罪と爲し、甚しき者は贓論罪として刑苔一百に處するのである」

「若し勢力を有する人にして、司法を司る官公吏に告げず債金の強制とり上げを行ひ、更に個人の財産を強制的に沒收する者には杖八十を刑し、若し、價を見て利が元金に超ゆる時はその爾餘のものを以て贓物と見なして、その數目に應じて返還せしむる事としたのである」

清朝は明律に倣ひ、重き利息を取り立てる者に對しては明律に從つて處罰するは勿論、更に、「私債を借り入れ約に違ひて返還せざる時五兩以上を借り三ヶ月違へる者は苔十、一月毎に二十苔更に一月毎に罪一等を加へ、苔五十を以て罰の最大とす。次に百兩以上借りたる者にして、三ヶ月違へたる者は苔三十、一ヶ月毎に罪一等を加へ、苔六十を以て最大となす。又之れと同時に

元利揃へて貸主に返還せしむる」事に規定した。

以上によつて歴代の政府が高利貸及その債務者等に對して均しく法令を明らかに定め、高利の徴取を禁止したる事を見る事が出来る。然かしいくら禁令を出しても高利貸の跋扈は尙ほ激しかったのである。

民國十六年秋、國民政府は利率は年に百分の二十、即ち二割を過ぎる事を得ずと規定し、各省、市、縣政府に通令して念入りに實行せしめた。而して高利貸が未だになほ平民金融の中心たる事は、上文に於て之を詳かにした所であるが、茲に於て各地高利貸の狀況を新聞雜誌等記載物より摘記して之れを、省別に一二の實例を抄録してみる事とする、即ち次の通りである。

三 農村に於ける個人金貸

江蘇省 金錢の貸借或は抵當による貸出は各縣同じからず、普通三分、二分又高きもの四分。江蘇省、揚子江江北の中下流農民等は一年の收穫にて一年の用が足りない。冬は寒く、春は荒れる。此の地方の天候關係によつて、皆均しく金を借り以て日を暮して行く事になつて居るのである。其の最も金利の低い者で月利息百分の五、重きもので甚しきは月利百分の十に到る。農民は生計

の致し難き所から、利息の重き事を知りながら已むを得ず眼前の患を救ふに急にして他を省りみる事なき舉に出づるのである。而して利息は高きに加へて借るのが又容易ではない。債權者は必ず無理やりにもその借金を返還せしめる自信を得るに非ざれば、容易に貸出しをやらぬ。且つ證文を書く際にも毎月利率幾何をば書かず、單に、大洋幾元と書くのみである。

周旋入の中に立て、某日某時に返還する事を言明するのである。又期間經過した後はその利子を以て元金に加へてしまふのである。例へば、銀一百元を借り、月利五分五ヶ月にて返還せしむる事と規定した場合は、五ヶ月目に入るべき所の利息二十五元をも元金と共に加へ、大洋一百二十五元、五ヶ月の期間に返済並びに利息無し等の語を書いてしまふのである。斯の如き重き利息は國家規定の百分の二十に合はない事は債權の明知する所で、斯くの如き脱法に出づるのである。かくすれば不幸にして法律により訴へられた所で債權者は負けないのである。萬一債務者が返還を肯せざる時は、猶ほ證文を持つて官廳に提出し、強制取り立てを許してもらふ事が出来る。理窟は通つて居る故必ず債務者にうち勝つ事が出来る。實狀が斯の如きであるから債務者は如何なる高利と雖も、一度之を借りたる以上絶対に之を諸官廳に訴へる事は出来ないものである。思ふに債務者の大部分は皆貧民である故、若し重利を以て訴訟を起したとせば將來再び借り度い

と思つても其の希望を達する事は絶対に難しく、斯の如き事をすれば、自ら金の融通の門を閉塞するに過ぎないから絶対に訴はしないのである。

揚子江北の農村間にあつては又、所謂小麦を帳貸しにする者がある。冬春の二季に於て銅幣一百枚ばかりを貸して、麥の熟つた時に小麦一斗を返してもらふ方法である。江北近年來の小麦の價は一斗につき一元位である。一元は銅幣三百枚以上に當る。銅幣一百枚を以て最長七ヶ月貸せば、即ち利息二倍を獲る事が出来るわけになる。此の種の利息は月利百分の二十に當るのである。(民國二十一年正月十五日の大公報を参照)

江南の蘇、錫、武、常、澄、昆等十餘縣の農民にして春耕やし、夏除草するに必要な金及び日常生活に辨する金にして、他人より融通してもらはぬ者はない様な状況である。一般の小地主階級は此の機會に乘じ、高利を搾取し、各縣に高利貸が盛に行はれて居る。農民は目前の危難を見るに急にして後の憂を顧るいとまはなく、毎月最高百分の五十に至るが如き利息を拂はねばならぬ金を借る。

郷間合作社の未だ普及せざるの時代には、彼等は之を除いては、金錢の融通は何處よりも出来ないのである。農民銀行は皆すべて大きな都會にありて大建築物で高く聳えて居るが、縁が遠す

ぎる。又一般農民は直接銀行に行き、貸下げをうける能力も無いといふ状態である。而して農民は日常生活に必須の用切迫し、鳩毒の入つた水を飲んでもよいから現在の渴を止めたいのである。

此の外に又借米の制がある。その害禍は最も烈しいのである。農家は春季常に糧食問屋又は小地主階級達に請ふて、米、或は穀物の種を時價の高下を問はずに借りるのである。秋稻の實るに至つて倍にして之を返す。農民の負擔は之によつて、一日又一日と重くなつて行くのである。故に良田一畝より取入れる地租は百分の五十を占め、耕作費用百分の二十を占め、貸借利息の負擔及び運搬による耗損又百分の二十五を占め農家一年の血と汗によつて得る所では糊口をしのご事さへ危ぶまれるのである。(民國二十二年三月十九日の中史夜報を参照)

浙江省 浙江省西部農民の借金利率は普通で一年に二割である。抵當を入れて金を借りる者一割五、六分に減じてくれる。抵當品のないものは更に月に對して二割の利息を取られる。(例へば十元借りるとすれば、毎年二元四角(二圓四十錢)の利息を拂ふ。浙江省東部の農民の金錢貸借の利息も亦大體に於いて同じ位である。邊僻の方へ行くと利率三割といふ高い所もある。貸借をなす者は大抵仲介人(保證人)が居て紹介し、借用證書を書き、元金利息、期間等を言明する

のである。若し期限に至つても精算し得ざる者ある場合は、保證人は單に督促するのみにて賠償の義務はない。此の場合には不動産を抵當にし以て租に代へ又利息を作つたり、又動産を賣り拂つて金を作る等の例が多い。抵當のない者にして返さぬ時は、嚴しく督促され又は訴へるのみである。(中外經濟週刊二〇七號浙江農村制度の調査を参照) 嘉善地方の農民の負債を有する者は殆ど百分の九十八である。(縣政府建設科の調査に據る) その資金融通の機關は米屋である。利息は二割乃至四割である。平時米屋に借金を頼む時は抵當を必要としない。只だ借用證書に條件があるのみである。例へば甲農夫が今年甲米店より借金をしたる場合、甲農夫の生産品は必ず甲米店に運び行き賣らねばならぬ。他の米店にもつて行き賣る事は出来ないのである。故に甲農民の生産品は甲米店へ賣られる時に於ては賣値が、米屋の操縦と搾取を免かれない、同時に米屋は貸金を返してもらうのである。又借金の時の抵當としては田地を以て標準とする、凡そ一畝につき二十五、六元にあたる。利率は一割五分から二割位である。次ぎに農民が商店に請ひ貨物を掛でとる様にしてもらふとその利息も亦大變難しい。豆餅の如きは普通現金を以て交易すれば只二元八角であるのに掛けですると三元必要となる。米は平常石につき現金で十七元であるが、掛け賣で買ふと二十一元、油は現金で買ふと三元で三斤購ひ得るのに掛でやると二斤に十二元、鹽魚は現金にて一元

に八斤半なるものが掛にすると僅に六斤半となる。其他南方貨物は最も少なき物で二割の利息をとられる。農民の賣買は掛が最も多い。だから毎年々末の決算日に至り、知らぬ中に重利を負擔して居るのみならず、且つ又其の分量が常に不足の分量を受取る事になる。(浙江吳興、嘉善、龍泉、天臺四縣經濟狀況及び利率調査を参照)

安徽省 安慶對岸一帶の東流縣附近の農民は悉く安阜公司の永小作人である。一度農耕開始の時季に到るや富家に請ひて借金し、それによつて種を購買し農具を準備するのである。此の種類借金の利率は普通約二、三割であり最高五割に到る事がある。同時に、地方官の登記を経たる地券を抵當に金を借らねばならぬ。貸付期間は長くとも一年、貸主は借主に對してその抵當とせるものを官に交付せしめ、最低價格に準じて現金を貸す割合となし、而も非常に重い利息を搾取するのであるから、一般の農民の生計は絶體絶命の環境に瀕して居るのも無理からぬ所である。(合作月刊四卷七期の謝澤の安徽合作事業の發表を参照)

滁州一帶の農民十元を借り三ヶ月内に元金はもとより之に稻或は麥一石を利息として還す、市價によりこの麥、稻の價を計るに約五元内外にあるのである。(張鏡予、中國農村信用合作運動を参照)

江西省 江西省南部に於ては利息を月極めで計算する者が多く、年極めで行ふ者は甚だ稀であ

る。その利息も一割二分位から三割位まであつて、一定して居ない。三割取る者が凡そ十分の二、又二割から二割五分とする者が十分の七、二割以下の者は十分の一しか居らぬ状態である。又預卸利息といふ貸付法もあり、例へば百元の元金を月三割で貸すとせば毎月の三割を一年として先に利息三十六元を天引し、實際は百元貸すといふもの、六十四元しか貸さないものである。尙ほ此の外の紹介費二、三元を差引くのである。但し、斯の如き習慣も最近は段々少なくなつて来た。その他流利作本といふ方法もある。例へば本年度の利息が年末に當つて拂ひきれない時はその利息をも明年以降の元金に繰入れるのである。通常之を稱して繁利息（即ち複利息）と云ふ。又穀物或は油を以て利息とする方法もある。その方法は即ち、收穫收油の際を以て利息を償ふのであるから其の物の價格の昂騰は問題としないのである。（司法行政部の民商習慣事例調査報告書を参照）

湖北省 湖北省の膀子錢とは即ち北京の高利息の事である。膀子はその苛酷さを表はした二字である。惟ふに、清朝時代の法律は森嚴にして重利を搾取するのを國家として嚴禁して居たのである。唯、西方の膀子（武漢の地方にては俗に陝西人を膀子と呼んで居るのだが）のみが内地即ち支那本部に於てほしいまゝに重利をとつて居たのである。彼等の爲す所以を以て此の名も出たのである。其の後この惡法が同地にも流れこみ、同地方の鄙劣なる豪族及びやもめ暮しの者達

にして漸やく膀子錢を以て（重利息をとつて）生活をなす者が出来て来たのである。その貸付方は零細の金をと、のへて、之れを貸付け元利を毎日平均に納めて行くのである。利息は多くは一日に二分を以て計算して行くのである。支拂時期の長短及び、利息の高低は貸下高の多少を視、而る後決定する。細目について之を言へば貸高の少ない者は返還期日は比較的短かくて利息が重く貸高の多い者は返還期間が比較的長く利息が少ない様にするのである。例へば甲某が十串文（一串は一千文）を乙某に膀子錢として貸付けたとする。而して借りた當日より起算して一百日の間に之を分納するのである。利息二割である故乙某は毎日元利百二十文を返還せねばならぬ。甲某は毎日回収する所の金を又他人に轉貸すれば層は層を生み、百日の後懐に轉がり込む金は實に莫大の量に上るのである。其の借金の手續も非常に簡單である。乙某が甲某に向つて借金を頼まんと欲せば、唯、一人の人に保證をしてもらへば直ちに成立するのである。そして甲某より發給せし通帳は借主の家に残して置き毎日人を派して錢を取るのである。蓋し取り上げる度に、嘗て甲某より發給せし通帳に赤い印を捺して、以て支拂の記號となしたのである。この膀子錢を借りる者は小賣商人を筆頭とするのである。彼等小賣商人は毎日働いて収入を得るものであるから償還に非常に便利であるからである。

湖南省 湖南省農民の前年の收穫を食ひ盡して當年の收穫の未だ出來ざるを待つて居る間の情態の窮迫さは筆舌に盡し難い。斯の如き時に於いて機に乗じ、暴利を拍する者相ついで出現するのである。例へば一元を貸すに際し、收穫後穀五斗を還す事を約束せしめるが如きは即ち之れである。現在の相場に於いては一元は僅かに一斗餘しか購ふ事は出來ぬ。此の方法は半月ばかりの間に三斗の利息を取るわけになる。萬一景氣が悪くて穀物の價の低い時は借主に命令して、貸借時の穀物の價に準じて現金をとり立てるのである。債権者は臨機應變の處置をとり必ず十割以上の利息を取るのである。(民國二十一年七月二十六日湖南國民日報を参照)

湖南省の新しい報告によると、各縣の富豪はよく播種の時期に於いて農夫に十元を貸し、收穫後に於て七石を還せしめる如く約束する。七石の價は約十六元以上に當る故に、僅か二ヶ月の期間に於いて、元金十元につき利息を六元も取るのである。收穫の少ない農民達は昨年の借金に殆んど收穫の全部を傾けて高利を還すに當て、而もまだ不足であるといふ様な不法の事が行はれて居るので、直ちに各縣へ通達して、嚴重に布告し、各人は利徴收に當り各々その良心に恥ぢざる様に行はしめ、若し借款を行ふ場合にはすべからず年につき二割の標準を超えざる様に命じたのである。なほも之に若し違ふ者あれば必ず嚴重に處罰し、以て惡習を止めさせ、貧民を勞はるや

うにして居る。(國民日報二十一年八月八日を参照)

四川省 重慶市、巴縣、綦江、桐梓、仁懷、涪潭、遵義、紫江、修文、息烽、甕安、貴陽市、貴陽縣、清鎮、龍里貴定、平越、麻哈、都勻、八寨、三合、獨山等の諸地に於ける農民の貸借は借金と借米の二種に分けられる。借金の利息率は最高は百分の三十、最低百分の十五、普通は百分の二十であり、借米の利息率は最高百分の五十、最低百分の二十、普通は百分の三十となつて居る。(鐵道部の渝柳線川黔段經濟調查報告書を参照)

湘滇鐵道雲貴段沿線附近の八縣(宣威、威甕安、餘慶、銅仁、印江、省溪、江口、思南)の農民達が地主に借りる金は分ちて借金と借米となつて居る。借金の最高利息率は年利三割最低二割で普通は二割五分である。又借米は最高五割、最低三割、普通は四割となつて居り、借貸の多き者は田地家屋を以て抵當としてやつと借りるのであるが、信用の著しく厚い者は抵當手續を免除される事がある。(鐵道部、雲貴段、附近各縣經濟調查報告書を参照)

雲南省 昆明、嵩明、尋甸、馬龍、曲靖、霑益、平彝、盤縣、普安、安南、關嶺、鎮寧、安順、平壩、清鎮、貴陽、龍里、貴定、平越、麻哈、爐山、黃平、施秉、鎮遠、青溪、玉屏等の諸地の農夫の地主に對して借りる方法に錢息、米息(即ち現金と現米)の二種ある。平均して各縣の

借米利息は年利最高五割、最低二割、通常は四割である。又借金の方は最高年利四割、最低二割通常は三割である。昆明、貴陽等の地に於ける利息の高さは更に人を驚かすに足る。昆明の最高利息は百元につき月七元、貴陽等に於いては最高利息月六割である。農民達はかかる經濟壓迫の下にあつて、膏血を搾りとられ乍らも、敢て怒りもせず文句も言へずに居るのである。(鐵道部の湘漢線雲桂段經濟調查報告書を参照)

邊疆の地 邊疆の地に住む人々は、貧窮に苦しむ時は鳩毒の入つて居る水を飲んでも喝をいやさんとする程、眼前の急を救ふ爲に後日の患を省みるの暇のない状態であつて、漢人が遂にこの機に乗じて邊地の彼等に對して高利貸の營業を行ふて居るのである。その知られて居る所を舉げれば即ち左の通りである。

(一) 煙利を放つ 即ち之は毎年霜が降つた後で漢人達が邊域に赴き、地織綿絲と針等をもつて行き賣るのである。貧民は彼等にむかつて借金を請ふのであるが、例へば一元借りるのに明年春新しい煙草が出来る時になつて元金を返還するは勿論その外に西洋卷煙草一兩(重量)を添付して返還しなければならぬ。故に煙利と名づけたのである。又近來利子丈をとつて元金を翌年春までのばす方法もある。翌年春に新煙草が市場に出る頃になつて煙草を二倍にして元金に加へ

て返すのである。若しも元利共に返す事が出来なかつたり足りなかつた時は、その煙利を市價によつて換算し、煙草を以て支拂ふのである。此の方法に依ると二三年経つて、もし煙草の市價が昂騰した場合には甚しい者は五六倍乃至七八倍の利息を得ることになるのである。

(二) 綿布を賣る 邊疆の民の着る所の衣服材料は大部分之を騰越、保山、龍凌の三縣に仰いで居る。故に邊地の貿易は地織綿布を以て大部分となす。多數の貧民冬に漢人より綿布のかけ買を市價の十分の一、二、又は十分の三、四増で行なふ。返還期になつて錢がない場合は此の額を借金をした事になり、最低五割の利息を拂はねばならぬ。又これを新煙草に換算して五、六兩或は七、八兩を綿布一匹についてかへすのである。もし之を市價によれば綿布は一倍高く煙草は半額五割引にすぎない。

(三) 放街利 漢人にして邊境の地に居住する者は各自邊域の民衆と互によく相識つて居る。故にその蓄積せる金を邊民に貸與する(ループル)一元につき利息一ピサをとる、ループルを計算すると元金の十一倍以上を超過する。これにより該地に在る漢人にして高利貸を業とする者は唯だループルを一回貸す事は全家三人の中等生活を補ふに足るが如きひどい利息をとるのである。

廣西省 廣西省農民の金融機關には投會といふものと押店といふものの二種類があり、この投

會なるものは少數の大村落に於いて行はれて居るのみであり、小作人達はその利息に苦しんで居るのである。質屋は月三分であるが、一九二一年以後休業した者が多い。農民達は、前年の收穫を喰ひつくし、當年の新作を待つて居る間は唯だ食量を借りるだけである。百斤を借りる毎に凡そ百五十斤から二百斤返還せねばならぬ。而して通常の貸借は小作農、日雇農達にはその資格がない。

天保縣の小財閥はその強暴なる事、匪賊より甚しいのである。匪賊はまだ表面に表はれて居るものであるから百姓達も之を禦ぐ事が出来るが小財閥に至つては表面に現はれて居ないから、官廳に發覺處罰される事もないのである。茲に小財閥の農民搾取の方法の三種を分述してみやう。

(甲)放青苗 毎年四月農繁期になり、農村が恐慌を來し又収入が支出より不足のある場合他日の収入にて補はねばならぬ様に困窮したる時は、已むを得ず、借金をするのである。此の機會に乗じて地方の小財閥が活躍するのである。或る時は銀若干を出して穀物或は苗キヤウ油の類を買ひ入れるのであるが、非常に安い價で豫約で購入するのである。即市價の約三分の一で購入するのである。例へば時價一斤につき三分の穀物ならば僅かに一分で購入し、時價八角の苗キヤウ油であるならば僅か二角四分で購入するのである。而して毎年秋になると彼等小財閥は人を村戸

に派して如上の所量を徵集するのである。

(乙)小質屋を開く 農民達は冠婚葬祭に於いて金錢のない場合は唯だ質屋にすがるより外はないのである。しかし天保縣には質屋はない。故に此の機會に乗じて小財閥が皆個人的の質屋を作り、毎月少なくとも利息五割を取るのであるが、期限も半ヶ月、又は一ヶ月に限定して返還せしめるのである。而して期に到つて返還出來ぬ時は之を流してしまふのである。抵當を置いて一元借りる時は月末になつて元利合計一元五角を返さねばならぬ。しかし一般の貧民はそれでも尙ほ後で泣く事を豫期しながら借りるのである。

(丙)埒利を貸す 所謂埒利とは、利によりて元金に利子がつき、その利子に又利子がつくのである。(埒とは田地の一區劃)例へば田地一利につき金一元を借り之れに對し毎月二角の利子を附するのであるから借入金九埒なれば、元金の外に毎月利子一元八角を返さねばならぬ。月末になつて返還出來ぬ時は元金一元及び利息一元八角でもつて新たに二元八角の元金となる、以後は之に對する利子を拂はねばならぬ。而して第二ヶ月の終りになつた時は元利合計して二元八角四分を返還する。即此の計算に依ると小財閥は一元の貸付けにより滿二ヶ月で六元八角の暴利をとるのである故に、埒利を借りる人は永久に元利を償還する機會はなく、遂には家をなくし、産を失

なふに至る。圩利を貸す小財閥は表面上に於いては慈善家に似て居るが、實際は土匪と何等異なる所はないのである。又別に期銀と言ふものもある。平民が急用の金を必要とする場合、小財閥より百元、一ヶ年の期限で借りるとする。契約書の上には利息の事は書かず、唯だ百五十元借りたと丈け書くのである。若し期満ちて返還しない時は小財閥が此の契約書をもつて官廳に訴へる。官廳に於いてはそこに利息が何も書いてないから如何とも出来ず、遂には借人をして契約書に從ひ納めるやう命するのである。現在各村に於いて、乙の圩利及び期限によつて破産する者數知らずと云ふ有様である。(民國二十一年十年三十日の廣西省南寧の民國日報を参照)

廣東省 少數の資本を有する者は屢々農民や職工の收穫を喰ひつくし、次期の收穫を待つて居る間の飢餓に乗じて利息を高くして金を貸すのである。貧困なる農民や職工達は「直ちに死ぬよりは命をかけとして金をかりやう」といふ風で高利の後禍は甚しい事と明らかに知りながら目前の餓死よりましであるとなし、之れを利用する故に借主は利息を高く上げられてもあらゆる方法をつくして之を借りに行くのである。龍川、曲江、仁化、惠州、海源、遂溪、海陸豐、佛山等の地方の如きは穀物をもつて借金を返すのであるが、銀一元を借り收穫を終つた時には、四斗又は五斗返さねばならぬ(約三元) 廣東市の郊外に於ては、銀一元を借りるに利息月を追ふて増して

行くのがある。例へば第一ヶ月目は一元であるが、三月目には三元五角、四月目は四元、五月目は五元、六月目は六元といふ風にである。借金を計算し穀物を以て換算し之を拂ふのである。英德遂溪、羅定海陸豐、德慶等の諸縣には所謂「按揭」なるものがある。之は元金一元、月利一角、又は九角借りて契約書には一元と書き、一角を以て月利とするものである。或は一元を借り一日一銅貨を利息となすもの、或は百元借りて半年に利子四十元を返還するもの、或は元金一兩につき月利五割、その抵當物としては田地、家屋、羊豚等を抵當とするものもある。羅定には妻子を抵當として居るものもある。もし借手の家で妊娠して居たとすれば、その子は債主に歸し、元金を返すとその妻を返してもらふ事が出来る。期限を過ぎて返せぬ時、その妻をも返さない事もある。此の様な人道に外れた壓迫搾取は人をして聞くに耐へざらしめるのである。海陸豐、潮安、饒平、英德、曲江、普寧、汕頭、武郊、潮陽、遂溪等の縣に於いて所謂普通の借金は月利三割から四、五割位である。遂には一元につき三日で一割五分とる。之を月利にすると即ち月利十五割となるのである。而して期限も三ヶ月四ヶ月或は半年であり、期限を越えてかへさないと遂には之をも元金の中に共に入れて複利貸をするのである。又、紫金、禾昌等に於ては出九入十なるものがある。即ち一元(一圓)借りたとして實際は九角(九十錢)借り月利一角である。瓊崖には

所謂「五錢市」なるものあり、一百元借り月利七十五元である。惠陽、海源、紫金、海陸豐、羅定等には所謂九出十三歸なるものあり、借金一元したとして九角借り一ヶ月後には一元三角にして返すのである。海豐には又所謂「圈子利」なるものもある。一元借りて十日に一角の利息となる。又一年を以て期限とする、年末となつて、元利合計して、共に返せないとすれば十元につき一石の穀を返還するのである。陽江には青苗の時に穀物を賣るものがある。元金一元借り半年に利息一元を返すのが之である。又「私押利」といつて一元借りて月利一元五角のものがある。海康には所謂「借十交六」とか「借十交八」なるものあり、即ち十元借りた事として唯だ六元又は八元しか手交されず月利は三割五割乃至十割なるものもある。羅定に於て所謂輕利なるものは元金一元月利五角である。又「涇利」といふのは元金一元年に穀物二斗を還すのである。四會には所謂「投錢」なるものがある。元金十元、年利九元より十一元迄といふのである。佛山には所謂「通利橋借利」といふものがある。一元を借りると一日利息一角であり五日を期限とする。期限を過ぎると倍にして計算し之を又元金に繰り入れる。全てが斯の如き状況であるから窮乏する者が續出するのも當然である。故に一般農民は借金が益々重なる一方であり、故に家を賣り、妻子を賣り、或は自殺し、或は逃亡する者數を知らず、その悲惨なる有様は聽く者をしてたへざらし

むるものである。(社會新聞二卷十一、十二期、葉賢寧の中國經濟破産原因之探討廣東第二次全省農民代表大會取締高利貸決議參照)

高利貸は農民の收穫を喰ひ盡して、次期收穫を待つて居る間とか、人の死亡の時に借すのが多い。普通は穀物一石六元で借すのであるが此の時期になると一石を唯だ三元で計算するのみならず、利息も亦三割、四割と加へるのである。而して二ヶ月或は四ヶ月で還してしまはねばならぬ。もしさうせないとたちまち利が元金になつてしまふ。今此の縣に於ける高利貸の種類を列擧してみると即ち左の通りである。

「九出十三歸」 一元を借り實際九角を手交してもらひ、返還時は更に一元足し利息三割である。(東江)

「糖房利」 利息二割五分半年後には利息の上に更に利がかかる。

「買青苗」 穀物一石を借り三ヶ月にして完全返済をする。が一石八斗を最高限度とする。(陽江)

「複利貸」 一元借り月利息一角五分(十五錢)、期満ち返せないと更に利を元金に繰入れる。三ヶ月乃至半年を期限とする。(遂溪)

「通利橋」 一元借りて一日の利息一角、五日にて完全返済する。期過ぎ返さざるものは元金に

利子を繰り入れる。(佛山)

更に農夫に營耕なましめる爲に錢を貸付け收穫時に債權者に農産物を買らなければならぬといふ方法もある、故に價格はその操縦自在にまかせられて不利を蒙むる。順徳の絲商鶴山の煙草商等は多くは皆此の種の不正を行つて居る。(中華全國基督教協進會、基督教化經濟關係委員會が出版せる廣東農民運動を参照)

福建省 福建省西部各縣に於ける最低利率は一元につき毎月三分(三錢)である。一年以上利息を納めない者は複利法を以て計算する。(例へば五十元を借りるとすると毎月の利息一元五十分(錢)一年で十八圓、翌年になつて之が利息を拂はぬ時は五十元の元金に十八元を加へ六十八元となつたのを元金として次の利息を取る。俗に加利と言つて居る)甚しきに至つては毎日毎元をとる者もあるが、多くは四、五分であるが、大體に金利は一定しては居ない。(民國二十年十月二日、福建、民國日報を参照)

河北省 各縣農民は年中激しく働いてその金で、而かも一日二食を食べる事が難かしいのである。交通不便の地に在つては運輸が甚だ困難であり、同時に市價が非常に安いのである。甚しきに至つては農家が田園を賣り、或は高利貸に金を借りやつと其の日を過すといふ様な者が隨所に

見へる。茲に天津市附近一帶の模様を述べてみよう。凡そ農家にして豪族に金を借りる時に於いては、例へば十元を借り半年で完全返還をするとする。毎月二元づつ返して行き又契約書を取りきめて金を交付する時に先に一ヶ月目に拂ふ分、即ち二元を天引し、中に入つた紹介人が又一割即ち一元取つて了ふのである。所謂紹介料が之である。そして實際に農民の借りるのは僅か七元であり。而も返す時は十二元を拂はねばならぬ。即ち之は七元借り五元の高利を認める所と何等異つた所はないのである。之に更に毎月拂ふ所の金に利息をつけたならばその利息は六元以上を越える。(民國二十一年十一月三日中央夜報を参照)

山東省 滋陽、鄒平等の縣の利息は二百元以下は月三割、二百元以上のものは月二割なるもの時々あり、千元を超過したるものは月一割乃至二割であり一定して居ない。(司法行政部の民商習慣事例調査報告録を参照)

又山東省平原縣に於いては借りた金を小さい金でかけて返す法がある。之を搭錢と言ふ。其の債額は二千或は三千文、多くとも一萬文に達しない。月利三割で之を元金に加へ合せ、期を何期にかわけて元利を清算するのである。例へば六千文を借りたとすれば利息月五百四十文となる。之に元金を加へ毎月、二千一百八十文を月拂で返すとすると滿三ヶ月で元利完全返済出来る事に

なる。汝上縣にも亦此の種類の方法があるが、分けて返還する期間が五ヶ月であり、債額も亦二萬枚ばかりであり、利息も亦多きものは五割に至る。(以上前書を参照)

河南省 沁源縣民衆の借金利息は一、二割より八、九割であり一定して居ない。債権者が重利搾取の件で訴へられないやうに欲するならば、借金帳を作らず、又毎日如何の利息と明細書を書き、負債者がただ一ヶ條を書くのである。例へば一百元を借り毎月利息九分、三ヶ月にて完全返済するとせば、その利息は二十七元金一百元と合せて一百二十七元となる。之を債務者は證書面にただ百二十七元と書き、又何時でも申し込の通りに支拂ふとも書くのである。債権者はこの契約書を以て證據となし、誰に交付しても皆通用する俗に旂杆利錢。(旂杆は旗竿の意 前書を参照)

山西省 農民達は明年播く種及び食糧に苦しみ他人から借金するのであるが、俗に糧食を擧ると言ふ。之は舉借と同一の意義である。食糧借一斗を借りると年につき三、四升乃至五升である。大抵毎年必らず五升の利を取る。即ち一斗を借り一斗五升を還すのである。河東解州の町一帯では金錢を借りる代りに麥を借りるときには時日は關係せず、書類の上に麥を必ず返還すると丁寧に書く。而して一石借りれば返還の時に必ず五斗又は八斗の甚しい利息を取る。又秋に麥を借りて翌年麥が熟した時に返す方法もある。之は一斗借り利子を一斗取るのである。俗名を放夥

帳と云ふのであるが、これ等は全省に共通な情態ではない。

普通の農民が借金をする場合は大抵は契約書を作り、其の利息も大體二割から三割であり、俗に言ふ現金は利子三割を越へず證券は利子五割を越へずとは之である。之が全省の習慣である。又不動産を抵當として借金をする事もある。しかし普通借款が成立すると契約書の外にもう一枚賣約書を書き之を契約に加へる。若し債務者が期に到つて償還出来ぬ時は債権者は借約をとり消し賣渡證明書を以て官廳に提出し、結局は自己の物としてしまふ。之を俗に指産借債と言ふ。又借金をする時、契約書に利息及び期限を明細に書き、債務者が元利を拂ふ事が出来なかつた時はその利子を元金にくり入れ、別に契約書を作り、期間を定めて利息ともつけるのである。之を駒子生息と言つて居る。又富豪の子弟にして、その家の財産は父母の管理する所であるから、贅澤が出来ない故に、時々他處に於いて金を借り、父母が世を去り喪の服裝をし、喪の帽子をかぶる時に清算するのがある。俗に之を喪帽債といふ。蓋し喪帽をかぶる時を以て返済時期と爲すのである。此の種の借款は債権者の立場から言はせれば甚だ危険である故に高利搾取を行ふのを普通とする。以上が大體山西省農民達の借款方法である。又印子錢と言ふのがある。之は他人に三元借りるとすれば一月にして完全返済すると誓約し、その契約書の上に三十日の返済時期を書き、

毎日元利一角二分又は一角三分（俗に二割利子三割利子と言ふ）宛を返し日を逐ふて之を續け元利を返し、三十日になると、二割利子の者は三元六角、三割利子の者は三元九角を返すのである。元利一日分を還す毎に契約書上の當月の字を圓い印で消して行き故に之を印子錢と言ふのであるが、しかし此のやうな借債方法は多く娼妓、俳優及び小賣商人等の下等社會に行はれて農村社會には行はれない。官廳に訴訟を起してもその債務行爲が非法である場合は債權者にして往々勝訴とならぬことがあり、轉じてその地位をもしくじる者が居る。（劉大鈞の我國佃農經濟狀況五三頁より五七頁迄を参照）

山西省に於いて高利貸を營なまない基督教會はない。山西省西部に於ける或る教會の如きは病院の貸付けた高利資本と併せて百萬元を下らぬとの事である。其中大部分は當地の兩替所及び銀行を経て居るのである。而して利子は百分の三十乃至百分の四十を取る。教會病院にかりると更に百分の六十の年利をとつてみぢめな貧乏人に貸しつけるのである。故に教會の牧師醫者で山西に來るならば十年に到らずして大財産家になつて了ふのである。（民國二十一年十二月十日上海大晚報を参照）

陝西省 往年の災害以前に於いては中國の他の他方と同じく農業信用の供給情況の大體左の如

き數種である。

（甲）質屋 農民達はさし迫つた金が必要になつた時には家に有る所の衣服を質屋に持つて行き金を借りるのである。期限は普通八ヶ月から十二ヶ月位であり、利息も普通一ヶ月につき一割八分である。即ち一年一元につき二角二分（二十二錢）の利子を拂ふのである。その他に衣服物品を親戚朋友、又は近くに住んで居る金持の所へもつて行き之を抵當として金を借りるのであるが、その利息には全く制限なく最高のは月利十割と言ふのがある。その他に土地を抵當物として金を借りる長期にわたる方法もある。この方法は村落に居る農民が土地を抵當として金持ちの家から金を借りその利息としては穀物或は金錢で行ひ、兩者の間には更に契約書を立てその契約書には期限を制定し期限をすぎても拂はない時は、その土地は債權人によりて管理される事となるのである。以上に述べた所の質屋なるものは中國農業金融の最大部分を占む。

（乙）借貸 村や農村に近い市（大都市）や鎮（町）に住む富家にして餘つて居る金がある場合は之を専ら小作農に借すのであるが、その利息は年利二、三割内外である。此の種の貸借方法は抵當品は要せざるも、必ず親戚朋友の責任保證が必要である。或は債權者が借りる人の生計並びに田地収入を調べ、色々の事情を酌量して一定の金額を貸すのである。

(丙)借糧 農民は種子を播く頃、種子及び食糧が必要となる。そこで近隣の富家より直接、以上のものを借り收穫の後之を返すのである。この種の貸借方法の利息は通常は非常に高く凡そ一石の麥を借りると、返還時には元利合計一石五斗甚しきに至つては二石をも要するのである。

(丁)商人から掛で物を買ひ又は作物を掛賣する方法 此の金融貸借方法は商業資本が小農を搾取する方法に似て居る。其の方法に二種ある。

(一)農民が資本に缺乏した時、富家より借金し、收穫した時、農作物を以て償還する方法である。利息は返される農作物の價の中に入つて居る。例へば十六元借り、當時の麥の價一石が二十元だとする、しかし債権者は計算するのに毎石十六元を以て標準とし借手が返す時は一石還さねばならぬ。そこで貸手は即ち此の期間に於いて四元の利息を取る事となる。又此の方法の中には作物をあらかじめ抵當としておく方法もある。

(二)農民が資金が必要である時、彼等の田地内の作物を豫め富家に掛として賣り、之れによつて金を借りるのである。例へば市價二十元の小麥であるとすれば實在せざる麥を掛買する時は僅かに毎石十二、三元に過ぎぬ値で買ひ、收穫時に到れば實在の一石を引き渡させる方法である。

(戊)家畜農具を借りる。農民が耕作期に到りて自己に家畜又は農具が無い場合、人に、以上

品物を借りるのである。日によつて使ひ賃を計算するに一頭の家畜の使用料は一人の傭ひ農と大差がない等の状況である。(新陝西月刊創刊號陳必凱、陝西農村金融枯渴の真相及び其の救済方法を参照)

現在陝西省の多くの地方で民間金融の利息で高きものは六割、十割に到る、即ち現洋十元借りると十日につき二元、一ヶ月にて六元となる。(勞工月刊社、勞工月刊一卷七期、陶鎔成の農村經濟と土地政策の研究を参照)

甘肅省・寧夏省・青海省 循化縣等の各種の寺院の中に在つては、田舎の僧侶達が幾らかの金を貯へて置き、その金は専ら他人に借し利息を産むに用ひられる。此の種の金を借りんと欲せば八百文を以て一串となしたるものを借り返す時は本當の一串(即ち一千文)を返還するのである。思ふに債務者は借款成立に際して一串につき二百文づゝの損失をうけて居るのである。又その他に相當の抵當物を必要とするものもある。之等は月利三割であつて一年の中に元利の完全償還をなし、然らざる時はその人の抵當物を競賣するのである。斯る重利をとつた貸借に對しても、彼等塞外の民等は當然となして居る様な状態である。(司法行政部の民商習慣事例調査報告書を参照)

綏遠省 金を貸す人の殆ど全ては高利を搾取すること甚だ殘忍苛酷である。印子錢の如きは月利普通一割である。即ち一元を借りたりとせば月利一角を出すのである。甚しきは二割三割を利

息としその條件は酷烈にして以て世を毒するに充分である。十元借りるとせば實際は八元しか渡さず、しかもその利息は十元借りたる事としてそれに對する部分をも毎月支拂ひ、而も借手は貸主の親しく領收の印を押すのを必要とし期限を定めて完全返還をする。もし期限を過ぎて返済出来ぬ時はなほ色々の條件にて拘束をうける、外に又死契、黏單といふものがあり、その苛酷さは印子錢よりも更に甚しいのである。借り手が貸主に借金を請ふ時は、利息二割、或は三割（即一元借りれば月利二角或は三角）を言明し、並びに、田地賣買に關する地券を以て抵當となし借款期限（長くとも一年）を小さな紙に書き契約書上に添付し、同時に借主は土地を債權者に賣ると云ふ約束書を作るのである。若しも期限内に返還出来なかつたならば契約書に副へてある期限に關する小紙をとり去り、土地は結局債權者の所有になつてしまふのである。

小農は大抵この様な高利によつて搾取せられ、皆貧しくなり細々と生活を營む事も出来ない。而して土地は皆大地主の手に移り集り、彼等大地主達は屋根の高い立派な車にのつたり、又非常に堂々とした駿馬にうちのり終日馳驅してもなほまだその土地を完全に巡廻する事が出来ない。

（民國二十年四月三十日の大公報を參照）

察哈爾省 各縣の多くの小作農達は、資本が少なく仕事が出来ない故、此の地方に於て地主や

其の他の商人達に借りるのである。その利息は通常は三割であり、五割から十割になるものも有る。又金を借りて穀物を以て支拂ふ方法もある、この方法は毎年穀物の値段を定めて收穫時に到つて時價の如何に拘らず變へる事は出来ない。又穀物を借りる者は八斗を借り一石を還すの方法もあるが之は春借り秋返済するのである。

熱河省 普通の高利貸は現金は三割、穀類は二割である。この外に所謂、大加一なるものがある。即ち一ヶ年の中に元利が相等しくなるものを言ふのである。圍場縣の金貸の習慣は商人が貸すのと金持の家が貸すのと二種類に分れて居る。商人の貸金は今まではその利息一割に過ぎなかつた、又富家のそれも二割に過ぎなかつたが、近年、金融逼迫のため現洋一百元を貸し月利十元をとるものを名付けて賃錢と云ひ、又一百元を借りるに、先んじて債權人が十元天引して貸し、一ヶ月の期間が満ちて一百元にして返すのを大加一と言ふ。（司法行政部民商習慣事件調査報告書を參照）

四 支那の質屋

支那では質屋のことを當、典、質、押といはれてゐる。その歴史は唐代において既に質權が認められて盛んに營業が行はれてゐた事は唐代の記録になる「唐律疏議」文典」その他に現はれた

ところによると少くともそれ以前から行はれてゐたやうである。「老學庵筆記」に「今俗呼典當番爲長生庫」とあり、わが國の質屋制度も當時の入唐僧により、長生庫の方法が傳へられたとも云はれ、兩國ともにその濫觴を寺院に發してゐる事は興味ある現象である。その後宋、元、明及び清と近代になるに随つて現在では下層階級から中産階級の金融機關として社會上極めて有力な地位を占めてゐる。

支那の現行法では、典と當との二者を混淆して典當業としてゐるが、典、當、質、押、按、代當業は各々その營業の種別範圍を異にし單に資本の大小のみの差違による區別ではない。次に各省の名稱を示せば、

江蘇	典・當・押・代當	察哈爾	當
浙江	典・當・代當	青海	當
安徽	典・當	寧夏	當
山東	典・當	山西	典・當
河北	典・當・質・押・代當	河南	典・當・押
新疆	當・押	陝西	典・當・押
甘肅	當・押	湖北	典・當・代當

湖南	典・當	雲南	典・當・押・按
四川	質	廣東	典・當・押・按
貴州	典・質	廣西	典・當・押・按

右の外にわが國の公設質屋に匹敵する官公典當を有する省もあるがその勢力は微々たるものである。なほ前清時代の典と稱するものは現在殆んどその跡を絶つて、たゞ南京の公濟典（資本金五十萬元）が残つてゐるが清末以來度々その營業内容が改革されてゐる。現在典と稱するものは前清時代の當の階級に相當するもので典と當とは利率・期限・貸出金額などに社會政策的の拘束を受けて制限せられたがためにこれを公典・公當と稱して専ら營利のみが目的でないことを明らかにした。これに對して營利本位の質・押・按などを私質・私押・私按と稱して區別をする。上海の押・按などを經營するものは多く青紅幫に加盟し特に紅幫に加盟してゐるものが多い。現在江蘇省では領帖費（營業税の一種）を當は一ケ年五百元、質は三百元、押は一百元を徴するが、これは單に資本の大小で徴集するものではない。その他の省でも領帖費を徴することは略同様である。質屋の資本金は當は二、三十萬元から四、五十萬元を有するものがあるが、一般に四、五萬元以下が多く、上海の發源といふ質屋は五萬元内外といはれてゐる。浙江省の新規則では少くとも

五十萬元以上と規定されてゐる。質屋はこの資本と入質者から徴集する利子では常に資金の不足を感じてゐる状態である。一流質店たる當舖は數人の合同出資が多く、時には個人で幾軒もの當舖を經營してゐるものもある。上級の質屋をもつて任する當・典も下級の押も營業上その資本の多寡を除けばすべて同一性質のものでなら差別はない。決算は一年一回若しくは三年一回行ふを普通として利益は經費を支辨したうへ一ヶ年平均、資金の一割五分から二割五分見當で、比較的危険の少ない對象として官僚、軍閥等が出資してゐたのも決して少くはなかつた。たとへば張作霖とか曹錕、李鴻章など大總統、大元帥をとなへ、または一流政治家が質屋を經營してゐたのも、他の産業が充分發達をしてをらず、保證を得難い新産業に投資するよりも比較的危険の少ないこの種の事業に投資をしたのである。次に民國二十四年調査になる典當業者數ならびに資本額をかゝげる。

業 者 數	資 本 額(元)	平均一店資本額(元)
各省	六二、一六三、四二一	二〇、九六五・七四
各 市	二五、二五三、二七一	二四、六一九・七八
合 計	八七、三九八、六九二	二一、九〇四・四三
江 蘇	一四、二二八、四七九	三九、四一四・〇七
江 蘇	三六一	

業 者 數	資 本 額(元)	平均一店資本額(元)	
浙江	三四三	一八、九六四、六九〇	二五、二九〇・六七
江西	四	三八〇、〇〇〇	九五、〇〇〇・〇〇
安徽	一〇	六〇五、〇〇〇	六〇、五〇〇・〇〇
湖北	三	二八〇、〇〇〇	九三、三三三・三四
湖南	一五	九〇、〇〇〇	六、〇〇〇・〇〇
河南	註1		
陝西	一	五五、〇〇〇	五五、〇〇〇・〇〇
山西	四六三	二、二九四、四七九	五、二六二・五七
山東	一四	四七五、三五〇	三三、九五三・五七
河北	六五	一、五七九、五〇〇	二四、三〇〇・〇〇
察哈爾	一	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇・〇〇
綏遠	一一	二二七、七八〇	二〇、七七七・二七
寧夏	一二	二二、七九〇	一、八九九・一七
青海	六	一九、一〇〇	三、一八三・三三
新疆	二〇九	三三九、八五三	一、六二六・〇九
甘肅	三九	九七、五〇〇	二、五〇〇・〇〇
四川	一〇九	二、七二五、〇〇〇	二五、〇〇〇・〇〇
雲南	註2		

支那の舊式庶民金融機關

支那庶民金融論

八〇

貴州	一〇	四三、〇〇〇	四、三〇〇・〇〇
廣西	一八二	一、六八五、九〇〇	九、二六三・一九
廣東	一、一〇六	一六、五九〇、〇〇〇	一五、〇〇〇・〇〇
福建	二八	一、四四〇、〇〇〇	五一、四二八・〇〇
合計	二、九六五	六二、一六三、四二一	二〇、九六五・七四
上海	五六七	八、〇〇八、〇七一	一四、一二三・五八
南京	七	一、四四八、〇〇〇	二〇六、八五七・一五
北京	三四	一、八六〇、〇〇〇	五四、七〇五・八九
天津	八七	五、二二〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇・〇〇
漢口	三〇	二、一五〇、〇〇〇	七〇、八三三・三四
青島	三八	四七八、二〇〇	一二、五八四・二一
杭州	一九	一、〇七四、〇〇〇	五六、五二六・三二
成都	二二	七〇五、〇〇〇	三二、〇四五・四六
重慶	一〇	三四〇、〇〇〇	三四、〇〇〇・〇〇
厦門	一七	六五〇、〇〇〇	三八、二三五・〇〇
汕頭	二四	七七七、〇〇〇	三二、三七五・〇〇

註1 河南省は典、當、押の三類あるとの報告と開封には典、當、押なしとの説あり、こゝには省略。
 註2 雲南は典、當、押あれど信ずべき數字なし省略

廣東	一七〇	二、五五〇、〇〇〇	一五、〇〇〇・〇〇
合計	一、〇二五	二五、二三五、二七一	二四、六一九・七八
省市合計	三、九九〇	八七、三九八、六九二	二一、九〇四・四三

これによつてみれば七割以上の質屋が農村に開設してをり、その資本の七割も農村に投資され貸出額も二億元以下と推定されてゐる。

質屋の鑑札料は各省毎に異つて必ずしも一致してゐないが、江蘇省にその例を示せば、その營業開始前に一定の鑑札料を納付すれば以後は更新する必要はない。鑑札料は當は五百元、典は三百元、質は二百元と規定されてゐる。また一九二七年十一月改正浙江省典業暫行條例の等級別及び鑑札料税金額は次の如く定められてゐる。

- (一) 資本金十萬元以上を一等となし鑑札下附料六百元年税百二十元を納付すべし
 - (二) 資本金五萬元以上を二等となし鑑札下附料五百元年税百元を納付すべし
 - (三) 資本金一萬元以上を三等となし鑑札下附料三百元年税八十元を納付すべし
 - (四) 資本金五千元以上を四等となし鑑札下附料百元年税六十元を納付すべし
- 鑑札有効期間は十年であるが年税は毎年納入せねばならない。

質物の鑑定は普通短臺といふ専門家の鑑定によつて行はれるが、質物の種類には毛皮、寶石類、金銀装飾品その他衣類及び家具類まで包含して頗る廣範圍に亘り、なほ奥地にあつては雜穀、棉花などの嵩物保管のために相當大規模な倉庫を有するものもある。評價々格に對する貸附標準はこれまた實際問題として一定してゐないけれど、浙江省では一九二七年十一月改正の新規則で實際價値の百分の五十を標準とするやうになつてゐる。

利息の制限については社會政策上嚴重に取締りがあり、現今でも錢債を私放（貸出）及び財物を典當するに毎月の利息は三分を過ぎ年月多しといへども一本一利を過ぎることを得ず（民律錢債違禁取利の條）と規定されてゐる。前清時代には法定制限で毎月三分を超えることを許されなかつたが、當時といへども必ずしも全國に劃一的に守られてゐたとはいへない。殊に一九一一年革命後は地方によつて異なり、浙江省は一九二七年十一月公布改正典業條例には「質物の利息は多くとも年利百分の二を超過すべからず」と規定されてゐる。現在上海の當の利子は十ヶ月一割八分、一年二割一分で當票とか當票子とかいつてわが國の質通帳に類する受領證を發行してゐる。もし質入者が當票を紛失した場合は日附、品名、價格等を申し出て記帳して貰ふことが出来る。質受け期間は普通十八ヶ月でそれ以後は期限通過後の利子を支拂はなければ質受けは出来な

い。大體において二ケ年または三ケ年に延長することが出来、時としては四ケ年まで延長する地方もある。十八ヶ月の期限がきれると質物は仲買人に直接賣渡すか、または仲買人に委託して市場に賣出される。その取引關係は大體決つてゐる。

「押」はこれに反して概して短期間で三ヶ月乃至六ヶ月であるが、上海では一ヶ月を三旬に分けて一旬を一期として毎期の利率は一元に對する三分を普通としてゐる。

流質物は仲買人及び店主、支配人間の友誼關係で處分するのを普通とするが、都合よく捌けない場合には屢々元の客に引き渡すより利益のみられぬ場合がある。しかし大抵の仲買人は他の取引において埋め合はすことを條件として引き渡す場合もある。上海では一般に一流質屋は流質物を市場には出さない、三流四流の小質屋のみ市場に出す習慣がある。

賣拂ひをなす場合の仲買人の附値は質屋が最初入質者に對して融通した金額を基礎として利子を省きその貸附金に十乃至二十元を加へたものが大體標準とされてゐる。例へば貸附金を百元とすれば仲買人の時價値段は百十元乃至は百二十元となし、仲買人は如何なる物品の入質があるかを正確に知ることが困難であるから最初は質屋のいふがまゝに従つて交渉するのが常であるが、その度數が重なるにつれて質物の大體を知るやうになれば一々現物を實證しなくともその好否を

選擇することができるのである。浙江省典業暫行條例には生絲、棉花、米穀類、農具類の如く粗重品はその期間が来て受け出さない時は賣却しても差支へない旨規定してゐる。

質屋は火災によつて入質品を焼失した場合には前清時代には一定の條件によつて損害を賠償する義務を有してゐる。自火の場合には典値を物品の實値の半額となして、その實價を辨償する。類焼の場合には實價の十分の二を減じ且つ入質後の月數を計算してその交附を受くべき利息を控除してその餘を賠償する。米、麥、豆、棉はその期限を一年とするのには自火の場合は質入價格の十分の三類焼の場合は質入價格の内から十分の二を控減し、その十分の八を賠償し、ともに利子を控除することはなかつた。しかしこれも一九一一年の革命後はこの規定もゆるみ、地方毎にその習慣を異にした結果質屋の罹災した場合は地方的社會問題としてその賠償問題は常に紛糾をきたした。自火の場合は勿論、類焼の場合でも責任を免れることの出来ない習慣になつてゐるので火災は質屋にとつて最も打撃を與へるものと恐れられてゐる。店員、徒弟に平素から消防隊の訓練をなし應急準備をしてゐる質屋もある。かゝる場合の賠償能力は入質者に平均五割乃至六割の拂戻しをなし得ることは極めて稀である。質物の盜難に對してはこれまた金錢をもつて辨償するか、他品で辨償する義務を負ふこと、なつてゐる。具體例を浙江省にとれば「典業者が盜難

或ひは自火した場合損失した質物に對しては質値の倍額を賠償すべし、但し原利を控除すべし、米、麥、粗重の器具に對しては質値の十分の八を賠償しその原利を控除するを得ず(第十五條)」と規定されてゐる。また類焼の場合は「隣家のため延焼したるは質入價格の十分の八を賠償すべく利子は控除す。米、麥、粗重の器具に對しては質入價格の十分の七を賠償し利子は免除すべし(第十六條)」と規定してゐる。以上の外不可抗力の天災地變による場合は該管轄市或ひは縣政府の臨檢を経て、決して惡意或ひは過失のないことが證明された場合には前記第十五、第十六條に照らし賠償額を減じ、時としては賠償を免除すべき旨規定されてゐる。また贓品に對しては被害者たる持主がその自己のものであることを認めた場合には確實なる保證人を立て質入原値を支拂つて回収することが出来る。この場合利子は計算しない。

質屋の同業者は大都市は勿論、小都市に於いても同一地區の一流質屋はそれら「典業公會」なる同業組合を組織して共同利益の保護に力めてゐる。一流質屋は總べて會員としてその組織は普通委員三名を選擧し營業上の利害及び會員に關する事務を司らしめてゐる。江蘇省には「省典業公會」なるものがあつて、毎年一回總會を開催したり、必要に應じて臨時特別會を開く、この場合省内各地方の典業公會から代表者が出席する。江蘇省典業公會は南京に公會所屬の質店を有し

その資金は省内各地會員の出資によつて組織されまた同公會は、蘇州に典業銀行なる質業者の金融機關を有し、同銀行は上海その他の重要都市に支店を有してゐるなど廣範圍の活動をしてゐる。

當典業者は高級質屋をもつて自任し押に屬する業者をもぐりのものとみなし商賣仇きとして絶えず敵視してゐる。上海では當典に屬する質屋は同業組合を組織して押を組合外に置いて一種の衿持を有してゐる。この兩者の紛擾は資本家階級質屋（當典）と民衆階級質屋（質押）との同業的擠排であるが、その實中世紀的ギルド制に對する自由主義經濟の闘争とみるべきである。しかしいづれにしても支那の如く下層階級の多い國家では押の如き下級質屋の存在は上級質屋以上に缺くべからざるものであるといへやう。

また支那には當・典・質・押の外に代當といふものがある。多くは農村小都市にあつて、親當舖からの融資を資金として營業し、入質物は當舖に轉質する。當舖からは監督のために人を派遣し資金を融資する契約をなすもので普通商店の分店或ひは代理店の如きものである。

代當には本代、客代の區別があつて、本代とはその屋號總典（本店）と同じく資本もまた總店より供給され、その利率、期限も一般當舖と同様である。入質物は一切總典に送號保管される。

その内部組織は簡單で職員は僅か二人位で主任は賑房及び錢房の事務を兼ね、次席は包房及び飾房の管理にあたる。（賑房とは會計帳簿一切及びその處理、錢房は現金の出納、包房とは衣服類の保管、飾房とは金・銀・首飾類の保管をいふ）當票を記載する者一人、これは本牌記録を兼ねる。捲包一人これは掛牌を司どる。（本牌とは質物の内容を略記して質物につけてをく目印、捲包とは質物を整理して包装するをいふ）この外雜務をする者が一人二人あり、棧司と稱する者が二人交替で送號（質物の當舖へ送附）に當る。代步は入質者から質受けを委託されると引換へに小票（引換券）を渡す、質物は棧司が總典に出向いて受け取つて來る。普通代當は總典と相當距つた農村にあるため質物が入質者の手許へ届けられるのに數日かゝり、この點不便は免れない。

客代步とは資本の不足のため他の當舖に隸屬の關係にある小當舖のことである。その創立に當つて比較的大なる當舖と契約をなし、その契約書には一ヶ年の轉質額を記載し所要資金は隨時支給される。また月末に一回清算される。收入質の貸利息はすべて契約に定めた割合で分配されるのである。上海附近では月息二分なるものは客代が八厘を當舖が一分二厘をとる。南京の代步は接典ともいふ。二分の月利は當舖が一分九厘、接店は一厘の割合で分配される。但しこゝでは利息の外に手数料、即ち入質の際に十元未滿三分、百元未滿二分、百元以上一分の割合で、質受の

際は二分の割合で徴集される。この手数料が代歩の主なる収入である。

天津近郊にはまた轉當局といふものがある。轉當局は農民の入質及び質受けを代行するもので、その手数料徴集は距離（轉當局と親當舖間）によつて定まるが、大體一元につき四分か五分である。質物を受取ると同時に入質者に當條（當票とは性質の異つた假當票）を交付する。入質者は當票に記載してある留保期間（五日、半月、一ヶ月と各地不同）内に質受けすれば入質のとき支拂つた手数料以外何らの費用も要しないのである。この期間を過ぎると、質物は天津の親當舖へ送號されるのである。

代當は當典の分枝にして獨立した組織ではない。資本を有するといつてもその額は極めて僅少で農民と都市當典との連絡紹介機關である。農村は最近特に疲弊し、農民の當舖利用による資金需要は甚だ切實なるものがある。質物を持つて遠路都市へ往復するは不便且つ不經濟である。ために彼等は代當を利用せざるを得ないのである。代當は手数料を徴集して農民から衣服、首飾、器具等を質受けしてこれを契約先の都市當舖に轉質して農民の質受け代理をする。農民が受け返へす時にはこの反對の手續きをするのである。一方當舖は農村への貸出しを計るために代當に相當の手續費を交付してゐる。

入質はすべて當舖におけると同様の手續である。入質額が決定されると手数料を接除した質貸金額を入質者に交付する。代當は契約書に取り決められた留保期間（五日から半月位）を自家に保管の後親當舖へ送號する。代當はその資金の關係から貸出しが多い、上架期には毎日のやうに通號される。この送號途上の危険は代當の負擔である。代當は普通車曳きに一任して附添はないが、質物が掠奪されたり、その他の事故を起したといふ記録はない。質物が當舖に送號されると之に對する正當票が發行される。正當票はこれを代當が保管する。假當票には「正當票と交換のうへ質受けに行かれたし」と記載されており、正當票は「認票不認人」を原則とするから入質者は假當票を正當票と交換しておかねばならぬ。だがこの當票交換に代當へ足を運ぶ人は稀れである。入質者が質受けをする場合には假當票（正當票と交換してあれば正當票を）を代當に提出して質受けを依頼するか、正當票に交換して自分で當舖へ質受けに行くかすればよい。入質者は當舖が相當距離のある處にあるために直接質受けに行くには不經濟であるため多くは一圓につき五錢程度の手敷料を拂つて代當に質受けを依頼するのである。

民國二十七年調査の冀東地區内代當數三十六店の資本金合計は二萬七千圓で、その資本最大のものですら千六百圓最少は僅か百圓、一店平均は六百八十六圓となつてゐる。獨立的色彩の強

い中支方面の代歩が相當額の資本を有してゐるのは事情を異にしてゐる。しかし代當の資本と見做し得られるものとして親當舗が代當に前貸しをする資金がある。これを墊款といふ。このために代當は僅か百圓の資本でも營業できるのである。そして開業早々運轉資金は親當舗の前貸金を受ければよく、多くは資本金の數倍乃至數十倍の前貸金を受けてゐる。前貸金は通常代當が保證人を立て、親當舗から借り借受ける無利息資金である。當舗側からいへば送號額の前貸しであるが、代當側からいへば半永久的な運轉資金である。この資金は常に變動増減するが決して涸渇しない資本的性質を有する甚だ重要なものである。「代當契約の際に一定資金を支給され、以後はその送號毎に清算される」こゝにいふ清算とは當舗が代當の送號物件を檢査して、これに對する當票を發行した後に當票發行總額（送號總額と一致するのが通例である）とそれに對する約束の手續費を支給する手續きをいふ。又質受けがある場合には元利息を代當から當舗に納め質物を受け取る。清算は月末一回に定めてもよいが、送號都度に清算した方が計算上便利であり、代當は送號額を現金にて受け取るからそれを翌日からの資本にすることが出来るので送號毎に清算されてゐる。かゝるが故に前貸金は當舗が代當に質受け代理をさせるために交付する前渡し資金であり、當舗の側からみればこの前貸金は常に固定してゐるが、これを代當側からみれば常に減少し

送號によつて再び元の前貸し金額に還元されるのである。

最後に代當の發生過程とその役割について述べよう。農村と不可缺の當舗は民國最初からうち續く戰禍と掠奪及び農村自體の疲弊から倒産するものが多くなつた。地方の治安は亂れ資本家は資本を持つて都市に集まり、當舗業者も地方を棄て、都市へ集中した。上海、北京、南京、天津、漢口、廣東、青島、厦門の當舗は千餘軒に達し、全國の四千軒の四分の一以上を占め、鐵道沿線乃至は主要縣城にあるものを合算すれば過半數を占めるであらう。當舗の都市集中の結果必然的に代當の發生をみたのである。代當の發生は極めて最近のものである。この間の消息を傳へる冀東地區代當調査一覽表を掲げてみる。

開設年度	店數	百分比
民國十四年	一	二・七八
〃 二十二年	一	二・七八
〃 二十三年	六	一六・六六
〃 二十四年	五	一三・八九
〃 二十五年	九	二五・〇〇
〃 二十六年	一二	三三・三三

支那の舊式庶民金融機關

二十七年

小計

二

五・九六

開設豫定分

三六

一〇〇・〇〇

合計

四三

代當の損益計算と當舖の損益計算との間にはその収入に就いても、支出についても著るしい相違点が發見せられる。代當の収入は専ら手数料収入であるに對して當舖は質貸し利息収入が唯一のものである。代當は送號の際の運賃がその支出額の相當な割合を占めるが當舖にはかゝる支出は原則的としてない。民國二十六年冀東地區代當損益總計表は次の如し。

利益の店	三〇店	九六七三・七三	一店平均	三二三・四六
損失の店	三店	一一四五・〇〇		三八一・六七
合計	三三店	八五二八・七五		二五八・四五

以上の集計にて二十六年十二月開幕にて損益數字の報告のない店が一店あり、さらに右三十三店中の十一店は民國二十六年中の開設に屬するから全年計算の適確なる數字とはいひ難いけれども、質貸額の二萬圓もあれば經費を差し引いてもまづ幾分の利益があるものと思はれる。

これによつて代當が未だ發展過程にあることが明瞭に窺はれる。代當の歴史は新らしく農村小

口金融の使命を擔つて當舖の一步前を前進してをり、當舖の農村再進出の過程の一段階として存在し、且つ相當の貢獻をしてゐる。

殊に支那事變による新政府の樹立以來、全支に亘つてその治安は益々擴大された。當舖の振興と共に代當は更に深く農村に進出してゆく、代當は當舖の前哨部隊である。本隊の進出を容易ならしめるために必要缺くべからざる重要な意義を有するものである。今左に支那の質屋の質札及其の取締規則を記してみると左の通りである。

(一) 威海衛益順號當舖

字 第	原 來 舊 物	質 當 市 洋 錢	按 月 利 二 分 起 息 以 十 二 個 月 滿 期 若 至 期 不 贖 變 賣 作 本 如 有 來 路 不 明 鼠 咬 蟲 傷 霉 爛 等 弊 與 本 號 無 涉 認 票 不 認 人	年 月 日
		整		益 順 號 當舖

支那の舊式庶民金融論

(二) 威海衛裕成東押店當舖

字 第	今 來 人 當 舊 物	質 當 大 洋 足 錢	本 店 運 奉 公 署 批 准 按 月 利 二 分 行 息 拾 二 個 月 滿 期 不 贖 變 賣 作 本 倘 有 來 路 不 明 鼠 咬 蟲 傷 霉 爛 等 弊 與 本 局 無 涉 認 票 不 認 人 失 票 取 保 此 照	年 月 日
				票

(三) 威海衛源興成記押店當票

海	威	成	興	源
店	押	記	成	興
年	月	日	字	第
			號	
			原來押物	
			當大洋	
			本店憑奉	
			公署批准按月利二分起息以十二個月滿期若	
			至期不贖出賣作本如有來路不明等與本號	
			無涉認票不認人	
			源興押店當票	

(四) 蓬萊公成當票

當	成	公
年	月	日
		字
		號
		違
		省令年利二分十二個月為滿過期不贖任憑
		變賣作本令憑舊物
		當本足大錢
		倘屋漏蟲咬鼠傷以及來歷不明與舖無干認票
		不認人此照
		民國
		年
		月
		日
		票

當舖營業取締章程 (取締典當營業章程)

- 第一條 質屋營業は普通營業の各項規定に依る外本章程の各條規定に依るべし。
- 第二條 質屋營業は官署の許可書がなければ之れを開設することを得ず又開設後規定に依り税金を納付すべし。
- 第三條 凡て質屋營業は屋外にて營業することを得ず。
- 第四條 質屋は各種一定の帳簿を備付くべし所轄警察官署は隨時之れの検査、捺印することあるべし。
- 第五條 質屋は入質人に對し一定の質札を附與すべし。
- 第六條 質札には印花を貼用する外左の事項を明記すべし。
 - 一、入質物品
 - 二、入質年月日
 - 三、入質の價格
 - 四、質受年月日
 - 五、利息

- 第七條 質受の期限は一ヶ年未滿たることを得ず。
- 第八條 質物の月利は其の百分の三を超過することを得ず。
- 第九條 入質人が若し質札を遺失したる時入質價格、年月日、質札の番號等を記憶したるものは保證人を具し再發請求することを得。
- 第十條 質屋が質物を受けたる時其の來歴の當否を調査し若し不審なる所があれば直ちに所轄警察官署或は其の附近の立番警察勤務の警官に報告すべし。
- 第十一條 質屋は法合上禁止されたる人民の隠匿物及販賣物を取扱ふことを得ず。
- 第十二條 質屋は質物に對し之れが使用又は他の質屋に入質することを得ず。
- 第十三條 質物は所定期間内に於て何時何人を問はず其の質札を持ちたる者は之が質受することを得。
- 第十四條 入質期限滿了後は質屋は隨意に其の入質物品を處分することを得。
- 第十五條 警察官署は贓物又は遺失物の捜査の必要に依り質屋の入質物品及其の帳簿を検査することを得。
- 第十六條 警察官署は贓物又は遺失物の捜査の必要により物品を説明し之を質屋に通知照會することを得。
- 第十七條 警察官署は質屋に於て贓物又は遺失物を發見したるときは即時其の物品を處分し並に考査辦理することを得。
- 第十八條 質屋は質受到對し警官の捜査せんとする贓物並に遺失物と相似たるものありたる場合は警官の處理通知あるに非れ

ば其の受出を拒絶することを得ず。

第十九條 質屋は質物に對し故意若くは過失により該質毀損したる時辨償の責任を負ふべし。

第二十條 質屋は法令に違反したる時警察官署は其の營業を禁止又は停止せしむることを得。

第二十一條 營業又は禁止の處分を受けたる者は他人の名義を以て營業することを得ず。

第二十二條 警察官署は隨時に其の停止處分を解除することを得。

第二十三條 質屋は營業の停止又は禁止の處分をせられたる時質受のことに對し依然本章程の規定を適用すべし。

第二十四條 左記事項に違反したるときは五元以上六十元以下の罰金に處す。

一、検査を受けたる時虚偽の報告をなし又は故意に其の物品並に帳簿を隠匿したる者。

二、禁止又は停止の處分中營業したる者。

三、第二十二條及第十一條の規定に違反したる者。

第二十五條 第二條の規定に違反したる者は許可證書を納付せしむる外六十元以上の罰金に處することあるべし。

第二十六條 質屋は開業又は閉店し警察官署に報告せざる者は四十元以下の罰金に處す。

第二十七條 第五條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條、第十一條、第十八條の規定に違反したる時五十元以下の罰金に處す。

第二十八條 本章程に於ては刑法上併合罪を適用せず。

第二十九條 本章程は公布の日より之れを施行す。

増訂典當營業取締章程

第一條 典當營業は普通營業の規定に依る外本章程の各條規定に依るべし。

第二條 典當營業は官帖の下附を受けたるものに非ざれば之れを開設することを得ず。

開設後規定に依り當税を納附すべし。

第三條 凡て典當舖を替むものは店舗の外にて營業することを得ず。

第四條 典當舖は各種一定の帳簿を備付くべし。

所管警察署は隨時之れが検査捺印することを得。

第五條 典當舖は他人の入質品に對し一定の質札(票據)を附與すべし。

第六條 質札には印紙を貼用する外左記事項を明記すべし。

一、入質物品

二、入質年月日

三、入質價額

四、満期年月日

五、利息

第七條 典當の期限は最短一個年以下たることを得ず。

第八條 典當の月利は百分の三を超過することを得ず。

第九條 質置主にして若し質札を遺失したる時は入質物品、價格、年月日、質札番號を明記し保證人を具して質札の再發行を請求することを得。

第十條 典當舖に於て入質物品を受取る時は其の來歴の當否を調査し、若し疑はしき形跡あらば直ちに警察署或は附近の立番

警戒勤務の警官(立哨警察官)に報告すべし。

- 第十一條 典當舖は法令上禁止されたる人民の收藏（隠匿）又は販賣する物品を受入ることを得ず。
- 第十二條 典當舖は他人の入質物品を使用し又は轉質（他の當舖に入質）することを得ず。
- 第十三條 入質物品は所定期限未達前に於ては何時何人たるを問はず質札の持參人（質）が質受を爲すことを得。
- 第十四條 入質期限満了後に於ては典當舖は隨意に其の入質物品を處分することを得。
- 第十五條 警察官署は贓品又は遺失物捜査の必要により典當舖の入質物品及帳簿を検査することを得。
- 第十六條 警察官署は贓品又は遺失物捜査の必要により物品を説明し之を典當舖に通知照會することを得（品觸）。
- 第十七條 警察官署は典當舖に於て贓品又は遺失物を發見したる時は即時其の物品を處分し考査辦理することを得。
- 第十八條 受出し物品にして若し警察官の捜査中の贓品又は遺失物と酷似せるものありたる場合は警察官署の處分あるに非れば受出を拒絶することを得ず。
- 第十九條 典當舖は入質物品に對し故意若くは過失により該質物を毀損したる時は之が賠償の責を負ふべし。
- 第二十條 典當舖にして法令に違反したる時は警察官署は其營業を停止或は禁止することを得。
- 第二十一條 營業の停止又は禁止處分を受けたるものは他人の名義を以て代理營業することを得ず。
- 第二十二條 警察官署は何時にても其停止令を解除することを得。
- 第二十三條 典當舖にして營業の停止或は禁止處分を受けたる時は質受出し物品に就き本章程の規定を適用す。
- 第二十四條 左記事項に違反したる時は五元以上六十元以下の罰金に處す。
 - 一、検査の際虚偽の報告を爲し若くは故意に其の物品又は帳簿を隠匿したる者。
 - 二、禁止又は停止の處分中營業を爲したるもの。
 - 三、第十二條及第二十一條の規定に違反せるもの。

- 第二十五條 第二條の規定に違反したる者は當舖税を納入せしむる外六十圓以下の罰金に處す。
- 第二十六條 典當舖の開設及閉鎖に關し警察官署に届出でせざる者は四十圓以下の罰金に處す。
- 第二十七條 第五條乃至第十一條及第十八條の規定に違反したる者は五十元以下の罰金に處す。
- 第二十八條 本章程第四條に限定せる帳簿は之を毀損、紛失、増加更改したる時は其理由を具して警察官署に届出づべし。
- 第二十九條 當舖に於て珍奇なる物品を受入れる時は入質者の氏名、質物の來歴を取調べて特別に登記し置き若し疑はしき點あらば直ちに警察に報告するものとす。
- 第三十條 本章程第十條に規定せる如く當舖に於て疑はしき入質品ありたる時は直ちに警察官（巡警）に届出すべく又警察官署に於て強盜、遺失物の報告に接したる時は直ちに其物品の様式を明記して各當舖に通知するものとす。此通知を受けたる當舖に於ては之に符合せる入質者ありたる場合は該入質者及入質物品を控留し置き速刻警察に届出づる責任あるものとす。若し何等届出でを爲さずして將來該當舖より贓品を發見したる時は該當舖を處罰し且つ贓品を沒收するものとす。
- 第三十一條 當舖の營業時間は春、夏、秋、冬を問はず凡て日の出より日没に至る迄とす。
- 第三十二條 本章程第十五條に規定せる帳簿及當舖の検査辦法により検査せる結果警察官署或は原所有主に於て確かに贓品又は遺失物たることを認めたる場合と雖も當舖が事實情を知らずして誤つて該質物を受入れたるものなること判明せる時は隨時元金を支拂つて受出すべきものとす。但し當舖は之が利息を免除するものとす。
- 第三十三條 當舖は天災、地變に遭ひたる時は典當舖法により處理するものとす。
- 第三十四條 本章程に於ては刑法上併合罪を適用せず。
- 第三十五條 本章程は公布の日より之を施行す。

修正江蘇省質屋（當舖）營業規則（省政府委員會第六二三次會議を通過公布）

支那庶民金融論

第一條 本規則に於て質當と稱するは専ら質物を收め金を借すを營業と爲す者を指すものなり。

第二條 質屋開設せんと欲する者は請願書貳通に左記各項を明細書し地方官廳に呈上し資本を調査審理の上、更に該請願建設廳に移牒、審査、核准(許可)の上之を登記す。

(一) 家 號

(二) 住所(開設場所)

(三) 組 織

(四) 資 本

(五) 營業主の姓名、年齢、原籍、現住所

(六) 營業主代理又は支配人の姓名、年齢、原籍並びに現住所

第三條 凡そ質屋を開設せんとして官廳に請願せる者は左記の等級に従ひ登記費を納め、登記證を受領すべし、而して該證により、財政廳に向ひ鑑札費を納め鑑札を受領すべし。

營業資本十五萬元以上なる者は一等となし登記費五百元を納むべし。

資本十萬元以上なる者は三百元(二等)

資本五萬元以上なる者は二百五十元(三等)

資本五萬元未滿なる者は二百元(四等)

第四條 登記證の有効期間は之を二十年とし期滿れば別に新證に換へ、規則に従ひ該費用を納むるものとす。

第五條 營業鑑札の有効期間は一年とし毎年一月、新鑑札に換ふ、新設を行ひし時より換札時に到る間一年に滿たざる者をも亦一年を以て計算し、鑑札費は等級の別なく皆一年七十五元なり。

第六條 質屋にして若し左の如き事情發生の場合十日以内に地方官廳に届け出で以て受領せしむべし。

(一) 開設場所の移轉

(二) 營業主の死亡又は變更

(三) 營業主代理人の變更

第七條 質屋業者は左記の各項を營業地に於て衆人の目につく場所に揭示すべし。

(一) 營業 鑑 札

(二) 利 息 率

(三) 質 物 期 限

(四) 損失に拘はる賠償法

(五) 營業 時 間

(六) 金錢の相場

第八條 入質物品には入質と同時に質札に品質、品別書品目並に入質期日を銘記すべし。

第九條 質物の出し入れは銀元(中國本位貨幣)を以て之が基本となし、角及び銅貨は其の日其の日の相場前に揭示しある市價に従ひ換算し、他に洋銀に對する分合、名目にて取るべからず。

第十條 質物は立會の上公平に値ぶみし、信用貸及び無理貸あるべからず。

第十一條 左記情形の一ある物は之が收當を拒絕する事を得。

(一) 公共物の證據明らかなる物

(二) 珍奇なる玩具にして價值を確定する能はざる物

支那の舊式庶民金融機關

第十二條 質屋業者は故なくして營業を停止するを得ず。しかし實際缺損或ひは融通しきれざる場合にして元金がそるへられざる時は、地方官廳より調査して更に建築廳に移牒し審理許可後始めて質物のうけ入れを停止する事を得。質受入停止期間内にありてはいつでも復業する事を得。地方官廳に報告具陳しその受納を以て登記費提出を免る。

第十三條 質營業商はその利息を取るに於て法令に別に規定あるも一年に二割を超過するを得ず。

第十四條 質物は農作物をその土地の習慣により處理するを除き、他は均しく十二ヶ月を以て満期となす、凡そ新式の婦女衣服にして期を過ぎてうけ出さざる者は營業者之を賣り拂ふ事を得。其他の衣類等の物は均しく六ヶ月を以て満期となすことを得。若しなほ受出さざる場合之を營業者賣り拂ひても可。但し質入者にして流れるを欲せざる場合は月に割り當て利子を取り保留するを得。

第十五條 入質者にして元利取揃へ持ち來る場合は之を受出さざるべからず、若し入質物の一部を受け出す場合、爾餘の質物に對して改めて値ぶみを行ひ新なる質札に換へざるべからず。

第十六條 質物を一ヶ月内に受出しに來れる者は期日の長短を問はず一ヶ月として之を計算し、月を越ゆる事三日以上なる者は半月、十五日以上なる者は一月、とし利息を取る。又冬期は各縣の習慣に従つて處理するを得。

第十七條 兵火、強盜、洪水、隣火等人力にして抵抗する能はざる場合にして質物に損失を來したる時は概ね賠償を行はず、但し事後に於て官署外社會團體等の調査確明の上番號ありて本人の物たる事明白に認め得る物品に對しては常の如く受出を許し、その散失して番號なく何人の物たるか不明なる時に於ては該品を値ぶみし競賣を行ひ半分は質商に歸し、他の半分は交附せる質札に應じて入質者に分配する。

第十八條 質商にして若し竊盜にかゝり若しくは自火を出せし時は地方官署の検査を經、別項の如き事情存せざる事を確明せる時は時價により、元利を控除して賠償するは勿論、その他竊盜にかゝる質物は質札に照し合はせ、質金の半分を差引いて

賠償、總失せる質物は調査確を期せし後、該質屋は二年以内に全ての品物を賣り拂ひその金を以て質物の原價を作り賠償するものとす。但し質の元利は之を控除するものとす。

第十九條 質商にして誤りて贖物をうけ取りし場合は之が事由を營業主より官署に報告し證據を取つて貰ひ、之を官廳に受け出して貰ふ場合には専ら元金に備へ(元金のみにてうけ出させ)利息をつけないものとする。

第二十條 入質者にして質札を遺失せる場合は直ちに物品名稱、色模様(品目)入質期日質金、及び品物の特別記憶箇處等を報告し確實なる店舗の保證をもらつて來て、紛失せる質札が質屋商により調査し相符合し、利息を納めたる場合は新に質札をあたへるも、記憶不詳或は確實ならざるものには補給するを得ず。

第二十一條 質札は之が他と對稱明確を期せんが爲に下邊に模様を入れ以て正準とすべし。若し偽造或は添書き塗抹せるが如きことありし場合、その質札無効となるは勿論法律により究明せらるべし。

第二十二條 質屋は安穩なる場所に建設し以て品物を貯藏し、同時に出來得れば火災保險に入り不慮の災害に對處すべし。

第二十三條 質營業に關し、質本、勞力雙方の設立團體或は規約は必ず地方官署に呈出する事を要し又建設廳に移牒し審査の上之が受納する事を要す。本規則施行以前に於て已に成立せる労働資本團體或は規約にして未だ建設廳に呈出調査審理を經ざる所のものは二ヶ月以内に必ず之が受納される事を要す。

第二十四條 本規則改正以前に於て已に開設せる質屋にして證明書を有するものは本規則施行後三ヶ月以内に各等に應じて登記費の二十分の一を納め登記證を受領すべし。舊證書にして期限に達せざる者は之を有効なる事を許す。

第二十五條 本規則は省政府委員會議決を得公布施行するもの也。

江蘇省代典營業規則 (廿一年四月三日省政府委員會議第三八七次會議の通過を經たるものなり)

第一條 本省區域内の代典(俗名代歩)は本代(其の屋號は本店と同じく資本も亦本店より供給され其の利率期限等も一般質

店と同様である。但し入質物は一切之を本店に送附し保管される店を云ふ)及び客代(資本の不足のため他の質屋に疎属の關係を契約せる小質屋をいふ)を問はず、利率、期限、賠償、紛失、權利讓渡、停止營業等の事項に關しては均しく修正本省當典質屋營業規則各條の規定が適用される外本規則に準じて行はれる。

第二條 凡そ代典を開設せんと欲する者は必ず本店のある地方より十里以外の土地である事を要し、同一地方に二個の代典を開設するを得ず。

第三條 凡そ開設せんと欲する、或は已に開設せる代典は二千元以上の資を必らず有し、質營業規則第二條に明記する所の手續、聲明を具備せざるべからず。本代客代は共に本店或ひは質物を借りる質屋を通じ、官廳に對し最後の責任を負ふべく差出す引受書を省政府所屬の官廳に呈出審理の上之を許す事とす。

第四條 代典を開設せんと請願せる者は登記費六十元を納むべし。而して登記證を受領し該登記證に準じ營業税を納め營業鑑札を受領し而る後始めて營業をするを得るものとす。

第五條 代典に於て質物を入れる時は一元につき送り賃を二分を取り受出の時再び之を取るべからず。

第六條 第二條より第四條までの規定に違反せる者に對しては營業を停止せしめ第一條、第五條の規定に違反せる者に對しては二十元以上百元以下の罰金に處し、如上の件を二回以上行ひし者は之が營業を停止す。

第七條 前條の罰金は時に應じ所屬官廳に納め並に之を公布す。

第八條 本規則は省政府委員會の議決を経て公布施行せるものなり。

南關市立銀行平民公典部規則

第一條 本銀行は平民に便宜せんが爲に特に平民質營業部を設く。その擔保物品及び抵當品にて借款を行ふ金額細則は悉く本規則、之を規定す。

第二條 本銀行質營業部は木綿反物、衣類、皮革製品、棉、金銀首飾、銅錫器具以外の品物例へば、軍裝、骨董、珠玉寶石の類は之を質物とし借款するを得ず。

第三條 本銀行平民質營業部の擔保物品、質物による借款金額は概ね其の者に質札を交付し、その札内部に質物種類、數目、金額、期日及びその他の規定事項を明細書し、質札交付以後は票を以て唯一の證據となし人を證據とせず。

第四條 質の利息は月一割二分を以てし、その外に保管三分を收める。其の計算方法は習慣に従ひ、五日を超えると一月を以て之を取扱ふ。

第五條 質物による金融は十ヶ月を以て期限となす。故に本人は期限以内に須らく元利合計を返還し質物をうけ出さねばならぬ。期を過ぎてうけ出し得ぬ者は銀行は質物のなげ賣りを行ひ金に換へて元利を辨償せしむるも價格の高下、不足、又は過剩は本人に何等關係なく、曾て交付せし質札は此の時に於て反古と化する。

第六條 質物竊盜品若しくは贓品に係る場合にして元來の持ち主、官廳の調査を請ひ彼の質物元來持ち主の者なる事判明せる時と雖も、當持主は元利取り揃へ原物をうけ出さざるべからずして本銀行平民質營業部は如上の件に關し何等責任を負はず。

第七條 質物提出人は須らく細心の注意にて質札を保管すべし。もし質札を遺失し他人之をもちて當物をうけ出すとも本銀行平民公典部には關係なし。若し質物が未だ取り出されざる場合にして落し主、質物、種類數目及び借金期間等を報告し、以上が現物に符合したる場合、之が保證立つ故一ヶ月を経過し若しも紛糾せざる時は本人は元利合計、取揃へ支拂ひ以て質物を受け出さしめる事を要す。但し以上は質札喪失の日より數へ一ヶ月の期間内に行はざるべからず。質うけ出し期限到來したる者は先づ元利取揃へて納め、而る後始めて、失つた事を報告するを得。

第八條 質物の天災軍事又は水火、竊盜、蟲害、發腐腐爛及び其他人力の抵抗、救災能はざる事應發生により毀損せられし場合、本銀行平民質營業部は質物に對する賠償の責を負はず而して該質物消滅と同時に曾て給付せし質札は之を無効とす。

第九條 本銀行平民質營業部は支配人を一人置き全部事務を總管せしめ、該支配人は本銀行重役監査役合同會議により之を選挙す。

第十條 本銀行平民質營業部は營業、會計、保管、出納の各係を設け、以上に配する人員及び練習生（見習）は支配人之を任命す。

第十一條 本銀行平民質營業部に於ける事務取扱手續は別に細則を以て之を定む。

第十二條 本規則は銀行重役監査役合同會議により社會情勢を熟慮し、隨時改修を南昌市政委員會に出願する事を得。

南昌市立平民質營業部事務取扱細則

第一條 質營業部は南昌市立銀行の一部分たり、本細則は銀行計畫に従ひ質營業に關する慣習により之を制定す。

第二條 本質營業部は市立銀行重役監査役聯合會議により選舉されし支配人一名を置き、本營業部内外各項事務を取扱ひ金銭帳簿勘定目錄を検査し、事務員の勤惰を觀察しその留免をきめ、營業計畫に従ひ事務能率を改革せしむる如く努力せざるべからず。

一、營業主任一名居て、支配人に従ひ一切の内外事務に於て支配人を助け、事務員を監督指揮し見習事務員を訓育し帳簿員を指導し平民の衣類うけ出しを調べ明らかにし、以上に情實がありや無きやに最も注意をする。毎日收める質金及びうけ出し番號等には特に注意を拂ひ、若し質物に入れる價值無き場合、又は多く支拂ひ少なく收め以て符合せざる如き事情明らかになりたる場合には該品を取扱ふ者をして責を負はせ以て賠償せしむ。並びに全館棚、室に在る衣類に對し完全責任を負ひ嚴重に失火、竊盜のなき様取締を強化し、改革せんと欲するものあらば全て之を支配人と直接相談し調査の上決定實施せしむ。

一、帳場主任一名は支配人の意をうけ、一切の事務を助け、金銭勘定を管理し、表及び目錄を編成し往復の文書を集成し同

時に事務員の勤惰、陳情、改革すべきと思へる事務を注意し、以て支配人の採擇に資せしむる。

一、出納主任一名居て、支配人、營業主任の意をうけて一切事務を助け、専ら金銭出納、出でたる金入れる品物、並びに毎日の收支を司り、金銭手形を保管し、金銀首飾の完全責任を負ひ徒らに暫貸する等の事を行はず。

一、帳簿員三名又は四名は營業主任の指導を承け平民の衣服を共に立會の上、値ぶみし、質物の優劣を分け熟慮の上之を處理し、帳場頭或は質受専門の者の外に、各々は交互に入質物を處理する。到着せる品物は其の場で直ちに質に入れ、質札を持參せる者は其の場で受出を行ひ、勝手に延してはいけない。若し入質希望者満員店員、少なき場合は成るべく先着順に質入を行ひ、以てなごやかに衝突を起さしめないやうにする。

一、營業副主任一名は營業主任の意をうけ一切の事務を助け、建築物、貨物を管理し屋上の濕氣漏洩ありや否やを檢查し棚の上に記號を必ず書き、各品物の排列を整頓齊理し以て、質物うけ出しに便ならしめ、同時に各種品物を検査管理するに容易ならしめ、人をして任意に之を移動若くは觀察せしめざる如くす。並びに見習生の仕事を監督し不良なる舉動を警戒し喫煙や食物を喰ふを嚴禁し、特に専ら失火、蟲傷、鼠咬を防ぎ質物の棚ある室に入りて喫煙、飲食せる者發見せる場合は直ちに主任に報告し更に轉じて支配人より嚴しく懲戒され或は減首との事になる故以上の如き場合は絶対に之を隱蔽するが如き事無かるべし。

一、外側帳簿員二名は専ら質札及帳簿記入を司り質札一枚記入すれば則ち帳簿一葉記入する如くにし、更に質物の元金及び利息をうけ取る。

一、内側帳簿員は専ら質札を取扱て月利を調査計算し不足又は剩餘の有りたる場合には摘出し、以上の品物を取扱ひし者をして改めて取直さしめ、毎月末には質札を部類別に整頓排列して丁寧に一枚づつ帳簿に謄寫しその質店の借貸金額を記入する。

- 一、室内係三名居て、専ら棚の衣類の包装を行ひ、同時に、各種の品物を分類別にして保管する。
- 一、買物うけ出し係三名は専ら、買札一枚をうけ取るとそれを原簿の下うつしと引き合せ、若し誤りあれば数日通り金額を賠償せしめ、同時に買札紛失者に對する事務を取扱ふ。
- 一、金庫係一名は専ら買物數量を取り調べ、買札表面記載の數目により現金を交付し、毎日營業終了後當日の収支を検討し若しも誤れる場合は賠償責任を負ふ。
- 一、補助員二名は買物うけ出し其の他各種仕事を辨ずるを助け、又利息を調べ若し誤ある場合は直ちに下手人をよび之に注意改正せしめ更に棉布や柔軟且細微なる銅錫外各種の品物の出し入れに均しく従ひ、練習生をして眞面目に事に當る如く指導する。
- 一、練習生四名は常に買に入りし衣類金屬物等をしらべ、入買物品を番號と照らし合せ、以て金錢の合ふか合はざるかを調べ自己の賠償負擔に係らざる様注意し、朝夕は室内外を清掃し墨を磨り、番號をつけ、全ての事は主任、副主任其の他各事務員等の指導を聞き、仕事をなし熱心に業を習ふ。
- 一、臺所係二名
- 一、雜役一名、買物の運搬、出入及び其の他力仕事は之に行はしめる。
- 一、夜廻り番一名、之は専ら夜間巡守し以て失火を防ぎ、盜賊に注意し午前は休息し午後は買の番號板を倒る。
- 一、小使一名は玄關に居り、茶、食事其の他のものを運び、同時に事務員の指圖により買内部の仕事に服務す。

第三條 本營業部事務員並に練習生は皆須らく皆信用ある店の保證證明書を營業部に提出し、並に各人の名簿を銀行にまとめ報告す。

第四條 本營業部は毎日營業終了後、當日取扱ひし買物の種類、元利合計、其の他全てを共にまとめ、當日中に銀行へ轉じ報告す。

告し、以て審査に便す、又毎月末は帳簿全體により全月の收入支出細目勘定表をまとめ造り、年末には該年總決算勘定を呈報し以て批准審査をうける。

第五條 本營業部各事務員の月給は之を規定により期間に月に分け之を支拂ひ、永く滞らせ又前借等は一切許さず。

第六條 本營業部は期過ぎて受出をせざる品を發賣する。その中元利及び手續費等を差引き、なほ餘りが生じたる場合、之が百分の五十は本營業部従業員に對する獎勵金（再び之以上取るべからず）とし残りは全て之を銀行の純益となす。

第七條 質屋業者舊例に今まであつたが、買札なくなり現物存する場合、倉庫係荷物包装係等の費用は全事務員にそれごとく分け、數目は少なくとも意味は深く舊習により之を用ひ、他は一切廢止す。

第八條 本營業部は勿論一週間を通じて一律に業務を取扱ふ。各事務員の休暇は毎年二ヶ月を以て最大期限となす。若し二ヶ月の休暇を取らざる時は日を計算して手當金を與へる故、各人は閑期を選び互ひに事情を參酌し循環的に休暇をとる如くすべし、營業主任より更に支配人を經、以て調査審理の上之が許可を決定するも、練習生、夜廻り番、雜役小使等には休暇を給せず。

第九條 本細則にして未だ充分ならざるの點は須らく之を修正以て、之を支配人より市政委員會に呈し、調査の上施行する事を得。

五 合 會

支那に於いて約千年來行はれて來た無盡（合會）の組織の解説を試みよう。支那に於ける無盡は地方によつてその名稱が違つてゐる。即ち「銀會」「錢會」「義會」「換會」「標會」「搖會」「集

會」「合會」「畫會」「積立會」「八仙會」「七星會」「召公會」「縮資會」「搖錢會」「縮載半錢會」など、いはれてゐる。しかし之等を總稱して一般に合會と呼んで居る。而してその名稱の差違は次の如きものによつて起る。

- (イ) 銀會、錢會、積立會といふのは金錢を中心として組織された組合である。
- (ロ) 義會といふのは我が國の頼母子講といふやうな講元救助を目的とした組合である。
- (ハ) 會、集會、合會といふのは講員の團結してゐる組合を意味する。
- (ニ) 縮資會、縮錢會といふのは掛金の漸減するのを意味する。
- (ホ) 八仙會、七星會といふのは講員の數から命名したものである。

支那の無盡も講員の相互扶助、資金調達を目的とするもので、現に相互扶助、資金調達、貯蓄奨励の効果をあげて、農民、労働者階級の金融機關として立派な職能を盡してゐるから質屋より講員には有利である。

講元は無盡を創設(講會、邀會、集會、起會)するもので、これを會首、首會、會頭、會都、會丹、會主、起會人、請會人と呼んでゐる。講員は定期に一定の金額を出資し抽籤により入札を他の方法で金錢を給付されるが、これを會友、會人、會尺、會脚といふ。無盡の組織は親族、

朋友、近隣等の範圍に限定してゐる。その數は規約(會約、會書)を赤い紙に認めて定まり定員は七、八名から百名に及ぶが、多くは人數が少ない。

講金は講友及び講員の出資をいふのであるが、これを會款、會金、金錢といつてその多少は規約人員で定まり、金額はみな少ない。毎期の掛金は規約で決まり普通は漸次減少する。當籤した講員はその期の掛金を出資せず、講元及びその他の講員の掛金全部を收得する。會期は一ヶ月、三ヶ月、四ヶ月、半ケ年、十ヶ月、(一箇年對年等)にあるその滿會(完會)は八年乃至十一年以下なのを普通としてそれ以上長期に亘るものは極めて少ない。講員に對する給付は會期毎に行はれ、その順序は抽籤または協議によつて定むるものと會期ごとに入札によつて定むるものとある。前の場合の當籤者或ひは當番者は輪值人、輪收人といひ、後の場合の當籤者は會得人、買會人中彩人などといひ、まだ當籤しないものを自簽輕包等といふ、入札による當籤者を定むるにも二つの方法がある。

(一) 札金(利息に相當するもの)の最も多いものを當籤者とし、札金を抜頭、買頭錢、標貼、利息畫銀といふ。

(二) 講元その他の講員のその期に於ける掛金の最少額を入札した者を當籤者とする。

かくて當籤（毎會、買會、中彩、進會）した者は（一）の場合は爾後所定の掛金の外に每期札金だけ多く出資する。（二）の場合には入札額だけ收得し以後所定の掛金を出資する。かくて一度入札したものは爾後入札が出来なく、講員全部が當籤して満會となるのである。當籤または當番した會はその人に對して死會といひ、然らざる人にはこれを話會といふ。

以下各地方の無盡の狀況を述べて金融狀況の参考とする。

銀會 會合無盡を銀會といひその規約を元書と稱し講會は會都または會頭と稱して會頭が保管してゐる會友（講員）は每期たゞ會帳を受領して會期に到れば掛金を支拂ふものである毎期の當籤者の姓名は會書に記入しなほ收支は會簿（帳簿）に明記して後日の證據とする。

義會 厦門では營業を行ふに資本のない時は親戚、友人を糾合して無盡を組織してその會金（講金）をもつて資本金に充當する。これを一般に義會といひ、創立人を會頭（講元）と稱しその他は會脚（講員）である。會脚は多くとも三十名以下が常である、各々同額の會金（掛金）若干を出資して會首に交附し毎月一回投票（入札）し標貼利息（入札金）の最も多いものとその月の會金を給付する。斯様な當籤を中彩といひ、中彩者は爾後以前受領した會金を定期に會首に出資し再び投票することが出来ぬ。即ち中彩者にとつて義會は死會であり、未だ當籤せぬ者にとつては

定期に投票する事が出来る故に治會であるといはれる。

挨會 松江縣には合會（無盡）の慣習がある。その名稱や制度は一様でないが、挨會といひ、搖會、標會ともいふ。挨會はその沿革最も古くその組織も最も良好で債務者の負擔を軽減すると共に債権者もまた有利である。挨會の創立者は會首（講元）とし親友十人を集めて十一人で組織する、その十人會戸（講員）といひ、十ヶ月または一ヶ年を隔て、會期とし、十一回をもつて満了とする。會期一ヶ月のものにあつては各會戸の権利は平等であるが、一箇年のものでは前の會戸は有利であるが、後の會戸は稍々不利である。第一期會款（講金）は會主が取得し第二期の會款は會人（二番目の當籤者）が收得し第三期の會款は第三の會人が收得して第十一期會款に至つて最後の會人が收得する。各期の當籤者はその期の會款を出資せないがその他の會款には出資せなければならぬ。最終になることを満會といふ。各會戸の前後の順序は會首を除いて初め會首が各會戸と協議して決定し會簿に記載して各自がこれに署名捺印し且つ會戸中から一人の證人を立てる。この證人を會證といふ、第一期に各會戸が會款を會首に出資するときは會首は受領證を作製してこれに何期に返済する旨を記載し署名する。これを會票といふ。第二期以後は會首から當番（輪收）の會戸に會款を給付するときは當番の會戸は會票を作製し會首もこれに連署して

その他の會戸に交付する。毎期の會款は會首が取り立て、當番の會戸に交付する。各會戸の會款の數は會の大小會戸の順序によつて定まる。いま甲が一百元の換會を創立したとすると會戸が每期出資する金額は次の通りである。

會首は第一期に會款百元を受領し、爾後第二期に二十四元五角、第三期に二十三元五角、第四期に十二元五角、第五期十一元五角、第六期十元五角、第七期九元五角、第八期八元五角、第九期七元五角、第十期六元五角、第十一期五元五角を出資し合計百元を毎期に亘つて遞減出資する。各會戸は當番の期に出資せぬほか二會のものは毎期十四元五角、三會及び四會十二元五角、五會のものは十一元五角、六會のものは十元五角、七會のものは九元五角、八會は八元五角、九會は七元五角、十會は六元五角末會のものは五元五角を出資する。換會の大小により會首、會戸の出資方法は上述した處に準じてゐる。この種の習慣をみるに、會首は當初に資金を調達することを得、しかも利息を支拂ふ必要なく漸次出資額は減じて容易に債務を償還することが出來、また會戸は貯蓄の利益をうける、當番の先にあるものは會款を運轉して毎期の會款に充當することもでき滿會に至れば會款は貯蓄される。また當番の後にあるもの（七會以後）は出資額少なくて收得額が多いのである。未會のものは總計五十五元を出資して滿會のとき

には百元を收得することができるのである。故にこの種の習慣は會首、會戸ともに有利である。

合會 合會の組織は普通現金の需要に迫られた者が主動者となつて若干の親族、友人を招き集めて會を組織するものであつて、その主動者を會首（親）といひ、招き集められた者を會脚（講員）と稱する。また會首から數人を會總（會首と會脚の間にたつ責任講員、世話人）となし、その會總が各自に責任をもつて會脚を數人づゝ集める。會が組織されると第一期には各會脚から現金若干をだし纏まつた金數が會首に收得されるのである。以後は毎期皆から別々に若干の金を納めて未だ金を得なかつた者に交付するもので皆が會を得て初めてその會は終るのである。通例先に會を得た者は期を逐つて出す金額は後に會を得る人より多く出すもので、先に會を得た者の者を出す金額は本金に利子を加へて還へす意味を含んでをり、後に會を得た人の貰ふ金額は本金と利子を併せ收める意味を含んでゐる。前者は纏つた金を借りてから少しづゝ還し、後者は少しづゝ貯蓄してから纏つた金を收めるのである。

縮載半錢會 起會人（講元）から講員十人を集め宴席を設けて發起（起會）する。これを縮載半錢會といふ。方法は十人が共同出資して起會人に交付し、起會人は會單を作製して會人に交付

する。例へば起會錢百錢串なれば頭會人(第一期に當番となるもの)は十四串五百文、二會人(第二期當番のもの)以下未會人は順序一串を減じて出資して總計百串として起會人に交付する。第一期に至れば起會人と二會人以下未會人は共同して百串を出資して頭會人に交付する。第二期に至れば起會人、頭會人と三會人以下未會人は共同して二會人に交付する。以下はこれに倣つて交付する。一期十ヶ月または一ケ年(對年)として十一期をもつて滿會となるのである。

八仙會 會首は會人八人を集め會款を八十串として組織する。これを八仙會といふ。その計算方法は頭會人は十七串、二會人より未會人に至るまで順次二串を減じて出資し總計八十串を會首に交付する。第一期には會主は頭會人に八十串を交付する。一期を一ケ年とする。

七星會 會首は六人の會友を集め會款を六十串として六組を組織することがある。けだし會首と會友を合せて七人となるからである。頭會人は十七串、二會人は十五串、三會人は十三串、四會人は七串、五會人五串、六會人三串を毎期に出資する。會友の毎期出資額を會底錢(掛金)と稱する。十數人或ひは三十人をもつて組織される場合もある。各十串を出資する、當籤は入札で行ひ會期に會戸は札(拔頭錢條)を入れ(下)拔頭(入札金)の最も多い者を當籤得會人と稱する。もし得會人が拔頭に一串を入れた時は各會友は九串を出資する。この場合各會友は短分會友

得會人を長分會友と稱し長分會友は毎年二割の利息を支拂ふ。例へば會款十串の會とすれば長分會友は毎會十二串を出資しなければならない。即ち得會の早い會友は得會の遅い會友に利息を支拂ふ筈であるが、通算すると前後會友の收得する利息は何れも同額である。

搖會 會母は會友十人を集めて毎會友十串を出資して會母に交付する。爾後會母は一年に二回を開き毎會十串を出資する、會款は起會(設立)の時會友會母に共同議決し五十串とし或ひは百串とする。若し會金百串の搖會である時は起會の時各自會友は九串を出資し會母の出資十串を加へて百串とする、得會人は會款の月利二分を支拂はなければならない。例へば六月に開會し十二月に閉會する時は、その頭會に當籤した者は百串の六ヶ月の利息を出資し、以後これに準するわけである。

召會と縮資會 召公會は各會友の出資が平等な無盡をいひ、縮資會とは當籤者の出資は先にあるものが多く後にあるものは少ないが結極出資の平均する無盡をいふ。

積金會 會首より會簽(講金)の多少を決め一度會を開いて、會を開く前に會首は會友を招待し、その費用は會首が負擔する。會簽は人數をもつて標準とし、五請三拔、三請二拔といふ事がありまた五請三拔以上及び三請二拔以下といふ事がある。いづれも會首の議定を得た時には會友

が異議を挟むことが出来ない。會友の人数を百名以下とし會の期間は十年以下である。五請三抜なる時は如何なることをいふか、五請とは五吊錢をもつて老會とし皆會首の收得に歸し會期ごとに老會錢内より茶水費小會錢等の費用を除去してその残額は當籤者の收得に歸するといふ。三抜とは三吊錢をもつて限度として白簽は二吊以上黒簽は三吊を出資として會期ごとに二十四點を最高點とし當籤者は一會内における黒簽白簽の出資せる金錢を全部收得し資期に至つたならば先に當籤せるものを何れも黒簽として毎月二吊錢を出資することをいふ。出資(入錢)は滿會(完會ともいふ)に至れば停止する。當籤せないものは白簽にして最後の白簽は黒簽の出資せる金錢を全額收得する、この積金會は賭博ではなく、その制度は經濟の流通に資し、請會人(講元)入會人(講員)いづれにも利益であつて毫も損がないのである。

畫會 畫會も無盡の一種であるが必ず祀神の名を冠する。例へば郷民が同じ神を祀るときは祭日に先づ一人から三十二人を招待して各人の出資を五元にし、これを貯蓄利殖し祀神及び饗應の費用に充つることを約するやうなものである。次期の祭日に前の人より會員を招待し札(紙條)を入れその金額の最も少ないものを當籤者、即ち得會人とする。當籤者は以後毎會期五元を出さなければならぬ。未だ當籤せない者は得會人が札に書いた金額を出資すれば足るのである。會期

は四ヶ月毎にて三十二期にて滿了する。最後の得會は五元をだし札は入れない。これは利息天引の意を寓するものである。しかも利息の多少は定りが無い。若し資金の急用ある者は第二の會期に畫鑑三元を以て當籤し元金を除き九十三元を得る。そして會期滿了に至る八ヶ年間に百五十五元を出資しなくてはならない。

搖錢會 會友は十人或ひは八人とし會首からまづ饗應し各會友の出資格を議定して會首に交付する。會期は三ヶ月或ひは四ヶ月毎として各會期毎に入札(買錢を出すといふ)して得會者を定める。得會するときは會首及び會友は各議定された金額を出資して得會者に交付する。かくして各會友得會して會は滿了する。

然らば支那の社會に於いては何故に「合會」が發達したかと云へば以上のやうな「合會」は楊西孟氏の云ふが如く「各地の經濟發展が不平均であるに依り、合會の方式及其の流行の程度は此處と彼處とに於いて、農村と大都會との間に於いて、自然に多かれ少かれ些か異なる所がある。：しかし支那全土隈なく各所に流行して居るのである。」しかし「支那農村金融の趨勢及び其の問題」の著者「馮靜達」氏は支那に於ける合會の現状に就いて左のやうに述べて居る。

「支那の合會は中農及富農の專合營利物である點は支那各地皆同一である。合會は純粹なる對

人信用組織である故に個人信用皆無なる貧農は當然之れが傘下には容易に参加することを得るものではないのである。その故に第一に合會の一種なる「錢會」は總て農民糾合して其の利益を共に享受する事を得せしむべき機關ではないのである。潛山君の調査の結果に依れば之等の合會は全く支那の信用合作社（信用組合）と同様であつて、若し貧農にして僅少の土地をも持たぬに於いては往々合會繼續に要する資力を缺ぐ爲に遂に之れを維持すること能はざるに至るのであつて、最初は入會することあるも最後迄維持繼續すること不可能であつて、遂に合會より脱落して其の個人の信用を失墜するのみでなく、更に其の加入せる合會も自然に信用を失墜するのである。斯る原因より貧農なれば貧農なる程合會に入會し難くなるのである。然して之れと反對に富農は之に入會する事は極めて容易である。

従つて現代支那の政權支配下に在つては合會は即ち豪農、地主、破落戸等の爲めに農民を蹂躪する道具として利用せられて居ることは實際に於いて免れない事である。例を示してみると北京近郊掛用屯村等の斯る種類の合會は皆其の弊害頗る多くして村民に多大なる迷惑を掛けて居るのである」と云つて居る。

然らば支那に於いては此の種の合會が何故に發達したのであるかと云へば楊西孟氏の云へるが

如く「支那は古來一農業社會であつて、親族郷黨は素より情誼を重んじ、又安土重遷（人民土着して移らざる事）にして移動すること稀少である。茲に於いてか合會の組織が即ち時の需に應じ地の定に合つて以つて生長蔓延を得るのである」と、又「農業社會の中では、資本主義的生産方式が未だ崩芽することなく、或は優勢を占めて居ないし、（金融制度も未だ高度な發達をして居ないし、一切の社會の社會制度は比較的に變化が少いし、社會秩序は比較的に安定し、家族觀念は極めて濃厚であるし郷黨及親族の關係は非常に密接であり——物資を持たない人を相助けることは、道義上當然の事と見られて居るからである。それ故に、互助を以つて目的となし、對人信用を以つて主幹となすところの合會組織は、即ち之れを楔機として生ずべきものであつて、各地に蔓延したのである」と云つて居る。

私は嘗つて日本の無盡是一種のギルド金融で在つて封建ギルドの社會構成の中に於いてのみよく育ち現代日本の如く此のギルド封壤過程の社會の中に於いては無盡は生育しないと云ふ事を論じて無盡業界一部の人々の反對を買つた事があるが、私は此の私の學説は依然として未だに捨てないのであつて、此の實語的の諸例を支那の「合會」と其の封建的ギルド社會構成の中に之れを認める事が出来るのである。凡て無盡を論ずる場合從來學者の如く單に無盡の組織や機能のみを

論じ、其の發達生育の背景をなす其の時代の社會構成を見ないことは全く無意義であることが之れによつて知られると思ふ。

即ち第一に支那の農村は未だに其の氏族關係、血縁、地縁、里甲、保甲等の關係によつて住民相互間に郷土意識同郷意識強くして地方の農村は、里村、道郡郷、縣を中心として同一の警備、兵役、祭禮、土木、教育、制裁産業を持つ共同體——即ち原始的農村共同體、村落共同體、近代農業村落、近代的農業の共同體の四つの型を残して變化しつゝあるのである。又都市に於いても同郷ギルドは例の「會館」「公所」の形に於いて又其の地方を冠した寧波の山東ギルド其の他各地の「普幫」として互に平和組合、保護組合、共濟組合を作つて居るのである。又勞働者ギルドは各地の「普幫」「紅幫」として、又商人ギルドは「行」「社」「會」「聯號」と稱して夫々のギルドを作つて居るのである。例へば北京の毛皮商ギルド、肥料商ギルド、香料化粧品商ギルド、帽子商ギルド、質屋(當錢)ギルド、菓子屋ギルドと稱して、又各地の「會館」「公所」の形に於いてギルドを作つて居るのである。更らに手工業者同職組合は夫々同職のギルドを作つて居る。例へば硬玉ギルド、硬玉工ギルド、金箔工ギルド、左官ギルド、絨毬師ギルド、金銀細工師ギルド、表具師ギルド、温州絹織匠ギルド、染物工ギルド、水汲人ギルド、葬儀屋ギルド等である。其の

他支那に於ける有らゆる職業にして此のギルドの無いものはないのであつて、例の「苦力」でさへ、「青幫」「紅幫」の外に、其の出身地の區別によつて夫々所屬の同郷ギルドを持つて居るのである。

又支那の宗教社會、政治社會、思想社會が如何に澤山のギルドを持つて居るか、彼の有名な藍衣社「C.C.團」を始めとして「紅槍會」「大刀會」「小刀會」「天門會」「哥老會」「白蓮會」「紅巾會」其の他支那には數百數千の之等の團體があり、又彼の「買辦」「浙江財閥」「官僚」「軍閥」「大匪」等も夫々のギルドを持つて居るのである。

今之等の事情を更らに一層鮮明にする爲めに支那農村の社會に就いて述べてみやう。即ちロツシング・バック氏の「支那農家經濟」に依れば「支那に於ける農村家族は一般に云つて、一家族的タイプのものであつて、家父長、その妻、其の子供の婚姻群の外に、尙ほ其の家父長の世帯内で社會生活をしてゐる所の家父長の色々な親戚が家族内に同居して居るのである。この種の親戚は、家父長の母、兄弟、既婚の息子、その妻、並に其の子供達等三十二通りの親戚關係のものがその中に包含されて居るのである。又此のやうな同一世帯内に生活して居る親戚の外、同一世帯内には生活して居ないが、しかしその家族財政に参加し、従つて同一「經濟家族」成員と呼ばれ

る他の色々な親戚があるのである。そこで、即ち「三世同居」「四世同居」「五世同居」甚だしきに至つては十二世同居と云ふものさへある。故に安徽省の蕪湖の二十一人家族直隸省鹽山の二十二人家族、江蘇省の二十五人家族、河南省新鄭の二十九人家族と云ふのは普通の事であつて、中には家族成員二百人、六百人、七百人は愚かな事で、「續文獻通考」の「一水灣海沌村を繞り、又房苗裔此の間に存す同居八世四千人、惜むべし君恩未だ門に現はれず」と云ふ事さへある。又一鎮一邑、一里同姓と云ふのは決して珍らしくない。現に現代朝鮮に於てさへ一面、一里、一泊同姓と云ふのは決して尠くないのである。

又都市に於いても「錢莊」其の他の店舗、手工場の使用人徒弟は大抵の場合には親戚の者を使用して居るのである。即ち斯る社會に於いてこそ「無盡」「合會」「契」等が完全に行はれ得るのであつて、かゝる封建社會の崩壊は新らたなギルド發生の無い限り、「合會」「無盡講」の如き相互金融ギルド金融は成り立ち得ないのである。宜なる哉、農村に於ける新なる協同體の下に「合作社」「信用組合」が生れ經業組合が生れ、都市の新らしいギルド組織の下に「工人合作社」其の他が發生しやうとして居る。之等の事を尙ほ詳しく語らんとす者はマックス・ウェバー、マクゴーン、ギャンブル、ウィット・フォード、根岸信博士、加藤繁、清水泰次、森谷克己、中江丑

吉氏其の他の諸書に就いて知る事が出来る。

しかし此の封建ギルドを基礎とする「合會」も今日では漸次衰微崩壊の傾向を辿りつゝあるのであるが、之れを此の封建的ギルド資本主義に變つて個人主義的資本主義が支那の各社會に擡頭しつつあるのであつて、支那經濟社會の急激な變化は各方面に於いて階級分化の過程を辿りつゝある爲めに、此の封建ギルドは次第に崩壊しつつあるのである。此の傾向は特に農村協同體に於いて多いと云ひ得るのである、之れ支那の合會が今日の衰微を爲しつゝある原因である。

六 合會會規の實例

會規（講則）とは講員が相互に遵守すべき會の規定である、會約とも稱し又は會啓ともいふ。一般の例では親が合會を成立せんとする時、先づ會期を講員に送る。會規の内容はこれを三分する事ができる、一は序文或は規文、二は講員名録、三は講員の逐期換款表每期掛金表である。但し伸縮會では二と三が合併して講員の給付順序及び換款表になつてゐる、舊式の會規は序文式（流し書）で用語は頗る華麗であるが、種々の規定に不明瞭な所があつて、最近では序文式を廢して條文式に改めようとしてゐる、現行の會規は多くは印刷に付せられた小冊子で各地の雜貨店

で販賣してゐる。この小冊子は長さ七、八寸、幅は四、五寸で一定してをらず表面に金蘭雅集の四字が書いてある。但し各地の習慣はそれぞれ異なり、某々會規、例へば七賢會規とあるのもあれば、某々雅會例へば至公雅會と書いてあるのもあり、簡單なものは單に會規の二字を印刷してゐるものもある。會規を採用する合會は、大體伸縮及び縮金の二種で、その他にもこれを用ふるのがあるが、堆積會は會期が短く、金額が尠なく且つ講員が多數な關係で會規は廢除されてゐる。こゝに伸縮、縮金その他の會規について述べる事としよう。

〔一〕伸縮會規 伸縮會は最も古い合會でその行はれる範圍も最も廣く、會規の種類も又多く繁雜なものも簡明なものもあり、華麗難解なものもある、その序文は次の如く七種ある。

〔子〕嘉禾地力の新安會規〔原文のまゝ〕

拜啓、友戚……人の雅愛を辱ふして銀……元を集め毎會……を以て一期と定め、先後は認定の順序により振設法を用ゐざるものに御座候、收支に至りては悉く新安古式に則り、當地嘉禾地方にては皆これに導ひ申し候、會期十日前首會は御案内狀を差上げ席を設け申可く、風雨によつて延引いたすことは無之候、倘し御多用の節は御子息或は貴甥を以つて御代理なさしめられ度、金子は……會證これを公平に算出致すべく、不足並びに手形類の御差出は御容赦願上候給付を受け

らる、御方は給付證明書を御差出し被下度、銘々之を御受取の上證據となされ度候、倘し中途にして脱退なされ候節は順番を待ちて金子お受取り願ひ度、會と關係無之御勘定は會の金子にて御差引下さる間敷候、諒ふに、諸公は全玉高風決して斯る御所作は無之筈に御座候共、首事者謹慎を以つて相始め候に就き念のため御斷り申置くものに御座候

年 月 日

首 會〔親〕

會 證

諸公御姓如左の如くに御座候〔略〕

〔丑〕蘇州府下の十賢會規

竊かに金を分ち粟を興ふるの交情は古よりあつく用を指し、車を贈るの友誼は今に於て替らざるものに御座候、斯の義を雅恭致し爲すところに務めたきものと存じ居り候、鄙人、諸君の御愛顧を辱ふし、この議を首創し、群力によりて玉成し、遂に十賢を集め共に義舉を襄成致し候條仰天の高誼愈々寸衷に感激致し申し候、斯の會は即ち十賢の萬足款（纏つた金）を集め、按期分收しこれを以つて儲蓄いたすものに有之、市上に行はる抽籤の法の有利なるに遠く勝り、而も弊害無之ものに御座候、茲に掛込期日を決定し、順序を以つて計算申せば銀元若干元と相成り申すべ

く、首會先收を辱ふ致し候外は、爾後必ず八ヶ月を以つて一期と相定め、認額に照らして順次に舉行致すべく候、首會(親)は全責任を負擔いたし開期會日に先立つて御通知申上ぐべく悉く現金を以て納附被下度く、風雨によつて延引いたすこと有之間敷候、斯の會たる既に腋を集め裘を成すものに有之常に本を顧みて利息を附し情を衡り理を酌み、最善を成就せんことを期するものに御座候、會外の貸借等の事項は一切これを會内に移して紛糾することを豫め御斷り申置候謹みて義を以て起り、冀くは信を以て終りたきものに御座候 敬具
茲に將に

貴名及び掛込期日掛金額を謹みて書記せば左の如くに御座候

(附記) 閏年はこれを計り申さず、終始同一に御座候。

年 月 日

首會謹定

(寅)新安會の別の一式

親友………の愛顧を辱ふし新安會規に仿照して會洋(掛金)を襄成致し候、諸位自ら親しくお定めなされ候通り毎期の輪收には抽籤振設法を用ひ申す間敷く、掛金は銘々御認定の數に照してお掛け被下度候、飲酒は永く首會が出資承辨いたし、従つて諸位との親睦に資するものに御座

候、開會後毎年一回、每期某月某日を定めて期と相極め、期前十日先づ招待狀を以つて御案内申上ぐべく候、當日には掛金御持參の上御出席被下度、風雨のため延引いたすこと無之候若し貴下御來駕に便ならざる事も有之候節は御名代にて御列席願たく候、御銘々御持參の金子は當日卓上に相列べ會證がこれを公平に御受取り申すべく、期に至りて給付を受けらるゝ御方は給付證書御差出し相成り、各人に交付して保管せしめられ度く後に及び御本人給付を受けられ候節はこれを取消すものに御座候、會外の銀錢を會内にて糾纏することは御容赦願ひ度く、倘し中途にして脱退なさる御方有之候節には、首會にてその責任を負擔いたし、その已納の金子は給付順番に至つてお支拂ひ申すべく候、この約を敬導し謹みて貴名を左に列記いたすべく候

年 月 日講則を作る

署名

會證

署名

(卯)十賢會々啓

蓋しこれ情に稱ひて出金し乃ち集腋の會と成りたるものに有之、順序によつて輪收し良心に従ひてこれを行ふものに御座候、この裘は諸君の雅愛を辱ふして十賢を玉成し一會合計銀元若干元をお差出し相成り、首會は先收を辱ふし、爾後認定の先後により順次輪收し末に至るまで更めざ

るものと相定め申候、一年二回閏月を論せず某月某日を以つて定期と取極め舉行いたし風雨のため延期いたすこと無之候、期日前三日御案内状を以て御招待申上げ期の至れる節には早刻より御來臨の上、一律に現金を納附なし被下度候、銀角は相場に準じてこれに割増金を添加致され度、會内にて會外の銀錢と糾葛するが如きは一切これを御斷り致すものに有之、以つて會本を固めて公平を昭かにするものに御座候、茲に豫め御斷り申置き候、終始一の如きを得るは厚望に勝えず感佩に任へざるものに有之、既に全諾を得たる諸氏の御姓名を列記すれば左の如くに御座候

(辰)至公雅會の序

諸君と共に義舉を襄成し、これを至公と名付け、一百兩を以つて標準と致し、多寡は主人これを自裁いたすべく候、豫め十日前に於て御招待状を差上げ、首會は宴席を用意いたすべく候、諸公は席費の心配御無用に有之、當日順序を會定いたし、首會の御支拂ひ申上ぐべき金子は順序によるべく候、首會は重會第一次に銀十四兩五錢を御仕拂ひ申上、第二次に銀十三兩五錢を御支拂ひいたし、爾後は逐次銀一元宛を減じて御支拂ひ申す可く候、諸公は銘々銀若干元を御分擔の上會首に御納め願ひ度く、輪債の年には御當人の會銀納めは御不用に御座候

この會の議定にては×個月毎に輪收、閏月はこれを算入いたし、搖定によりてその順序を相定め金額全收し各講員は掛金不足或ひは不拂ひの儀は御容赦被下度候、首會は情狀酌量するを得ざる定めにて有之、會外の勘定を會内にて控算するの儀はお斷り申置候、會友の方々にて若し御旅立のことも御座候はゞ、掛金は給付順序に當れるお方にお渡し置き願ひ度く、會終の日會書をお差し出し無之くば、後日查出相成候とも廢紙同様と、御承知願上候、緩急相濟む知己の深情を承け次第に全收するは實に玉公の善法に有之、輪收の節お仕拂申すべき金額は左の如くに御座候

年 月 日

講則作製人

署名

(巳)年會々據

謹啓、今正に諸の親近なる友族の盛意を辱ふし、年會を玉成致し候、集むるところは銀……元每次御仕拂ひ申すべく、毎年兩輪春(或は夏)某月秋(或は冬)某日を以て期と相定め申し候、期に到れば會に御列席被下度く、風雨によつて延期致すこと有之間敷候、會外の銀錢を會中に差引致すことは一切お斷はり申し置くものに有之、冀くば終始一の如く、掛金の延期或はお拂込みなき等の儀は無之筈に御座候へども、念の爲めこの會據を立て申候事仍如件

年 月 日

立會據

印

親筆無代(直筆)

(午)十衆至公會々規摘錄

- 1、本會は親朋十一人を集めて一會を玉成したるもの總計銀……元也
 - 2、本會は毎年一回開會し、十年にして終了
 - 3、會期は×月×日風雨によつて延期することなく講員は掛金持參のこと
 - 4、集會期に到れば酒食は首會に於てこれを用意すること
 - 5、會外の勘定は會内に牽入せざること、糾葛を免れる爲めである
 - 6、會には銀元を用ゐ、銅元は一切これを用ゐざること
 - 7、會簿に印鑑を添出し置き、給付を受けたる者は自己の姓名下に捺印すること
- 以上は序文式の會規であり、條文式に屬するものは七賢、十一友各々一種である。

(未)七賢會々簿

- 一、本會は必ず大洋にて計算し銀角は相場に準じてこれに割増金を付すること
- 一、會簿一冊を備へ順番に保管し各會友は夫々別に給付證書を書き、會終りたる時は無効とす
- 一、第二講員は第四講員に末席講員は第五講員に各々若干元の割増金も差出すこと、第二及び

最終の兩講員は給付を受けたる際に差引くこと

- 一、會酒は給付を受けたる者が之を自辨し、その責任を回避するを得ざること
- 一、會は年に一回、六年にして終了、毎年×月×日これを舉行することに定む
- 一、會期に到れば講員は掛金持參にて出席のこと、風雨のために延期することなく、會外の金はこれを會内に入れて勘定するを得ず

會友芳名 次下に列記す (略)

掛金額 //

(申)十一會々簿

- 一、本會は一切大洋勘定にて收支を行ひ小角には相場に準じて割増金を添付すること
- 一、會簿一冊を備へ、次會の給付者が保管し、各講員は滿講に至るまでこれに受取りを書く事
- 一、會首は各講員に償還する以外酒食費を負擔し會友はこれに與らざること
- 一、一年一回、十年にして終了、毎年×月×日これを舉行す
- 一、會外の金銭はこれを會内に入れることを得ず

會友芳名 次下に列記す (略)

掛金額 //

〔二〕縮金會規 縮金會は何れも會規を用ゐてゐるがそれは四總、五總の會に最も多く單式會では餘りこれを用ゐてゐない、また序文式と條文式との兩式がある。單式及び四總、五總の三種について次に説述する。

〔甲〕單式會 單式會は概ね講則を廢止してをり、講則のある場合にもそれは僅かに數ヶ條の簡文たるに過ぎない、左にその二式を示す。

〔子〕搖會々規

本會は親友十人を集め各人大洋二十元を掛け合計二百元となす、開會は毎年二回、五年にして終了、會規を列擧すれば左の如し。

- 一、會友は各々會簿一冊を持ち給付證を以つて證據とす。
- 一、會外の貸借關係はこれを會内に入る、を得ず。
- 一、會期は某月某日に定む、風雨によつて延期あることなく、各講員は掛金持參のこと、席上にて振設して給付す。
- 一、每會酒席を設くること

諸位御姓名 謹みて左に列記す (略)

掛金額 下に列記す (〃)

年 月 日立

〔丑〕六臘會々約

- 一、本會は每六、十二の兩月に舉行す
- 一、本會は會友十一人を集め、合計十口、××元の六臘會となす
- 一、會外のこととは會内にて糾纏するを得ざること
- 一、拈鬮傳搖に於ては、先の者を取り、後の者をとらず、點數を論じて色を論せざるものとす
- 一、銀貨はその成分を衡り銅元はこれを相場に準じて計算す
- 一、本會は會酒費××元を會内にて控除することを規定す

會首 制定

〔乙〕四總會 四總會は五總會ほど多く行はれず、その會規は左の通りである。

〔子〕崇明の四總會

本會は×年×月にこれを始む

親友十五名各々銀……文を醸出し合せて……額となす、首總が給付を受けたる後毎年×月を期と定めて開會し、第三、第五、第七の各會には各會總が輪收し、その餘は總て振設の法を用ゐる×日前招待狀を發し、風雨によつて延期することなし、現金を差出して振設し、店名の支拂手形はこれを抵當とすることを許さず、同色は先なる者を取り全色は賽せず、翹壘あれば別に一子をトす〔骰子が重なつてゐたり或ひは傾いてゐる場合にはその骰子だけを改めて振る〕會外の金錢は會中にて勘定するを得ず、若し脱會せる者ありたる場合には、責任者たる會總が別に候補者を見出し、給付の際に掛金を償還し利息を支拂はず、これ即ち財を通じ誼を結ぶものである、終始同一ならんことを祈りこの會規を記録す。

但書 銅貨使用は差支へなく、銀貨はその量を衡る

席費……文を差引く

會首

掛金額 (略)

芳名次の如し (略)

(丑)嘉興四宗會々約

會約を定むる事左の如くに御座候

親友の愛顧を辱ふし、十五君子四宗會を玉成致し、一會毎に銀……元を集め某月某日を以て會期と相定め申候、五日前首會は御案内狀を差上げ申すべく、首會が頂戴致す以外は御銘名抽籤振設並用法を御用ひ被下度く、點を比べ色を比べず、先を准し後を准さざるものと致し候、會外の事項は會と交渉なきものと御承知願ひ度く候、尙會期に到れば現金御持參にて御出席願はしく偶々給付を受けられたる節には御銘名收票を御差出しの上後に及びて原票御領回下さるやう、終始一の如きを願ふものに御座候、芳名は左の如くに御座候

(寅)靖江四總會々規

本會は首二、三、四の四總に分ち首總は會友五人、二總は會友四人、三總は會友三人、四總は會友二人を集める。各講員は但書に示せる掛金額に見て掛込み、總計大洋二百元とする。毎年二回開會、八年にして終了する、すべての會規は左の通りである。

- 一、會友は各々會簿一冊を持ち、給付證書を提出して證據となす
- 一、首總を除く他の二、三、四の三總は一會おきに輪收し、各會友は抽籤振設並用法にて給付を受くべく先を争ふことを得ず

一、會内にては大洋を用ゐ、小角には相場に準じて割増金を添加す、會外の貸借はこれを會内

にて勘定することを得ず

- 一、會を行ふの日には掛金持参にて出席し尙し缺席する場合に各總の承認を受くべきこと
 - 一、毎期開會の十日前に於て首總は案内狀を發し酒席の用意をなすこと
- 會友芳名左に列記す(各總別の排列は略す)

掛金額 (略)

年 月 日 講則を定む

〔丙〕五總會規 五總會の會式は甚だ多く、その廣く行はれることは新安會に譲らない、會規も亦序文と條文との二式に別れその精密にして完全なる點に優れてゐる。

(子)五總會々規

緩急相濟し有無相通じ、出づるものあれば必ず入り、施すあれば必ず報ゆ、古より以來、この旨を以て會と稱す、本利息に至りては權衡その宜しきを得べく、償還期限の先後には順序あり、互に信用を守り、久しきを歴て弊なし、いま親友の愛顧を辱ふし、五總會を玉成し洋若干元を集む、毎年二期開會し×月×日を以て期となし風雨のため延期することなく閏月はこれを入れず各總の間に於ては輪收し、散會(講員)は闌搖によつて色の揃ひたる場合に給付を受けるものとなふ。

し、同色なるときは先に色の揃へる者が給付を受けるものとす、凡そ我が同人はみなこの約に遵ふ。

(丑)五總連首會々規

本會は×月×日に於て始まり、友戚の雅愛を辱ふし玉成す。名を五總連首會と云ひ、掛金×××を集め總計×××となす、前後の伸縮はこれを別記す閏月を入れて×月に一回開會、月の×日に於てこれを舉行す、期前五日首總は通知書を發し、風雨によつて延期することなし、講員は掛金持参にて列席し、物品乃至票(手形)を現金に代ふるを得ず掛金は席上にて交付し、銀貨は相場に準じてこれに……を割増す、五名の會總が坐收するを除き、その餘の講員はみな抽籤振骰並用法を行ひ、點の多きを以つて勝ちとなし同點なる場合には前を准し後を却ける、尙し、中途にして脱退者ありたるときはその責任者たる會總が別に候補者を覓め、滿講に至りたる時掛金を償還す會外の貸借は會内にこれを計算することを得ず、酒席費としては……を控除す、諸公金玉高風財を通じて誼を厚うす、既に御承諾の上は終始同じからんことを祈り、茲にこれを制定す

諸公芳名左の如し (略)

每會の掛金左の如し (略)

年 月 日

首 總 謹 定

(寅)無錫五總會の緣起章程

會の由來は古し今に至りてこれを信じこれを行ふ者は、義を以つてこれを成し信を以つてこれを守り、よくその終りを完ふす、これその傳流する所以なり、いま當座の必要によりて五總會を集め、深く諸君の賛成を辱ふす、その方法は舊章にならつて新法を加へ、完全にして行ふに困難なきものたらしめたり、決定せるところの規約を列記すれば左の如し。

一、命名五總會と名付く

一、講員數總會五人、散會〔講員〕十人、併せて十五人

一、講金、總計×百元

一、會期、毎年二回×月に開會、五日前に於て招待狀を發し八年にして滿講

一、收會〔給付〕會總は坐收し、講員は振設によつて給付を受く。こは振設の結果の多寡を以つてこれを決す

一、抽籤、搖會は先後の不公平なることを恐る、因つて抽籤によりその順序を決定し、先に振設したる者と、後に振設したる者との點數同じきときは、先に振設したる者が給付を受くるも

のとす。

一、掛金、凡そ會期に至れば各講員は會簿を持參して會金を納め、一日と雖も延期するを得ず掛金の調はざる者は會總これに代りて掛け、會外のことは一切會内にて糾纏することを得ざるものとす。

一、會簿、各講員は何れも會簿一本を持ち、給付を受けたる者は各講員の會簿上に講金を領收せる旨を記載すること、即ち會簿を以つて證據となし、別に給付證書を出さず、會簿は滿會に至ればこれを廢棄す

一、會費、每會の給付金額中より酒席費……元を控除し、酒席の用意は首總にてこれを引受くること

講員の姓名並びに掛金額 (略)

(卯)金壇五總會々約

本會は義を以つて始めとし、信を以つて終りとなす、いま會友の友誼を辱ふし集腋の謀をなし焦眉の急を濟ふ。既に全諾を承け、玉成を藉りて一會を成立せしめ名付けて五總會といふ。銀元一百元を集め、毎年二回五、十一月の兩月に開會し、風雨によりて延期することなく、掛金持參

にて集合す、凡そ我が同人はみなこの約に遵ふ。

- 一、本會は五總會となし會友は合計十人
- 一、會期は十日前に於て首總は通知書を發して錯誤を免れしむ
- 一、會外のこととは會内と混雜せしめることを得ず
- 一、抽籤の結果によりて振骰し、會總も亦順次に輪收す
- 一、振骰するときは點を論じ、色を論せず先なる者を探り、後なる者を探らず
- 一、第一次、第二次、第三次の各給付者には滿講に至るまで配當なし
- 一、會期毎に茶菓料二元を控除す

首總制定

五總會の順位各總各會友の掛金左の如し(略)

〔三〕その他の會式の會規 其他の會式例へば五虎會、標會、松花會(即ち單刀會)等の如きも亦會規を用ゐてゐるためにこれを分ち列擧する。

〔甲〕五虎會規 (禾式五虎會規は次の通り)

會券を立て申し候、いま親友の愛顧を辱ふし、廿五君子の五虎會を玉成いたし候、總計二十五

口、一口は五元掛け、併せて銀百二十五元と相成り申し候、首會は百元を頂戴致し、講員の方々は振骰によつて給付を得らるべく、斯の如くにして第五期に至れば散會の方々は掛込み御取止め相成り、第六期より第二十五期に至るまでは首會より每期二十五元をお拂ひ戻しいたし、これを未だ給付を受けざる講員の方々にて振骰の上お受取り下さるべく、斯の如くに償還仕るべく候、此の會は親友諸君の感情を辱ふし、本を償還致すのみにて利息はこれを御免除下され候もの、毎年某月某日を以つて期と相定め申し候、會期に至れる時は首會より御案内申上げ候間、御集まり被下度く、終始一の如くにして雅宜を全ふ致したきものに御座候

銀貨は相場に照し食酒は首會にてこれを仕度いたすべきこと

年 月 日 講則を作る

署名

〔乙〕撞月會々規 撞月金なるものは金壇式の堆積總會で月會ではあるけれども、簡單なる講則數個條がある、滬式總會の毫も依據なきに如かざるもので、その講則は左の通りである。

- 一、本會は小會頭四人、會友十六人併せて二十一人を以つて成立す
- 一、本會は撞月會と稱し、毎月×日に舉行し風雨によりて延期することなし
- 一、會外のこととは會内と混雜せしめることを得ず

- 一、若し會友にして講口を譲渡せんと欲する場合、本會とは交渉なきものとす
- 一、若し會友にして掛金を差出し、本人は缺席せるときは責任者たる小會頭がこれに代つて振散し、若し掛金も差出さず、本人も列席せざる場合には、責任者たる小會頭が代つて掛込み、且つ振散し、延期することを得ず

年 月 日

本會頭謹定

撞月會每會掛金表 (略)

〔丙〕標會々規 標會は廣東にて盛んに行はれるものであるが、各地に於てもこれを行ふものが日を逐ふて増加してゐる、但しその會規は搜集し難い、次にその二式を示す

(子)訂正會規 (廣州第七甫以文堂版)

蓋し聞く、義會設けられしは龐公より始まると、抑々緩急相濟し、利息は悉く均しくするは、これ君子理財の大道なり、茲に各親友の過愛を蒙りて、一會を樹てその法に踵ひてこれを行ふ、務めて謹慎以つて終始せんことを冀ふ、固よりたゞに一人益を受くるのみならず、また列公の高誼を感せずんば非ず、謹みて將に規條を左に列記せんとす

- 一、親友××名を邀へ本人を合して×口、毎口銀××元を掛け銀の成分を衡りたる上××の額

となし、親まづこれを取る、本年每會×月×日を以つて期となし、風雨によつてこれを變更することなく閏月はこれを入れず、期に到れば會首は招待狀を以つて通知し銀兩を用意せしむ、開會當日には各自掛金持參にて開所に到り、衆人の面前にて納付し、割引き、現金以外の代納その他の不公平あることを得ず、若し多用なる場合には親友に交付して代納を依頼すること

- 一、納附者は每期銀××元を掛戻し滿講に到りて止む、銀及び割増金はその成分を衡つてこれを勘定すること

- 一、標頭(入札)その金額の多き者を以つて給付を受くるものとし、未給付者がこれを均分し、

該期の給付者はこれに交渉なし、倘し同點なるときには先に開きたるものが給付を受くる者とす

- 一、各講員の酒食費××に親がこれを代辨して講金より差引き、會に列席せざる者あるも酒食費を返還せず酒食を送らざること

- 一、講則××冊を用意し、各講員は夫々一冊宛を持ち會に臨み、會所に列席したるとき、給付を受けたる者は席上にてこれを記入すべく、これを遺失すべからざること

會友芳名次の如し (略)

定

(丑)標會々規別の一式

一、本會の會名を標會とす

一、本會の講金はこれを×口に分け一口は××

一、本會は毎月×日に舉行し、毎月標會一回を開き×個月にして終了

一、本會は×月より始め×月にして終る

一、本會の標會場所は某々の住宅にこれを設く

一、本會責任者の署名及び印章次の如し、某々印

中華民國 年 月 日

某々立

〔丁〕松花會々規 松花會なるものは俗に單刀會と稱し、純然たる感情的結合に屬するもので従つてその講則の文章は婉曲であり懇切である、次にその一例を示す

惟ふに有無相通するは同舟の誼にして緩急相濟すは君子の風なり、いま某々貧窮によりて舉行已むを得ず、爰に松花の會を起し、以つて腋を集めて裘を成し聊か不足を補はんことを期す、願くは垂愛を辱ふして必ずこれを樂成せしめられん事を乞ふ、若し賛成を得ば感激にたえず、既に決定せる會則謹みてこれを左に列記す

一、講金二百元、一口十元

一、講員が豫定數に満ちたる後、時期を擇び案内狀を發して掛金を集む

一、毎月元金十元宛を償還し利息は添附せず

一、元金償還には抽簽法を用ゐてこれを行ふ

一、陽曆×月より償還を始む、その方法は、第一期と第二十期とに元金の半分宛を返還し、各

講員は各期に償還金の半分宛を受取る。これは毎月順次に輪轉す。表は左の如し(略)

一、世情の變遷離合はもと常時に屬す、若し本會未だ終了せざる時脱退すべき事情あれば、當然信用を守り、保證方法を定むべく、終始一の如く決して、中途にして解散し御厚意に背くことなきを期するものなり。

一、抽簽後、毎講員にそれ〴〵紅票を交付し期の至れる時未給付者は右の票によりて講金を領收す

一、會外の貸借關係は會内と交渉せしめることを得ず

年 月 日

謹 定

七 錢 莊

支那の舊式庶民金融機關の最大なるものは此の錢莊である。錢莊は又「錢舖」「士善銀行」「舊式銀行」とも云はれ其の種類や地方に依つて名稱が變つて居る。即ち一般には「錢莊」と呼ばれるが、歴史的に之を見ると其の初めは専ら政府の委託を受けた手形業務のみをやつて居たので「票莊」と呼ばれて居る。而して之れは専ら山西地方が多い、即ち「山票莊」が之れである。又天津地方では銀を扱ふ所から「銀號」と呼んで居る所もある。

而して之等の錢莊は各幫（幫の事は此の章の「二」の合會の所で詳細に述べるから茲では省いて置く）毎に聯合及黨派があつて相互に連絡を取り、堅固な陣容を固守して營業上の自營、連絡競争に便にして居る故に此の錢莊の本當の姿を知る事は仲々六ヶ敷い仕事である。今左に上海地方の模様を略説してみやう。

支那の錢莊の種類は之れを分つて「元」「享」「利」「與」及「滙劃」の五つの種類とする事が出来るのである。

1 元號錢莊 は通俗に「挑打錢莊」と唱へられて居るものであつて、之れは昔しからの名稱である。即ち昔は現金の使用が極めて多く、しかも其の重量が重いものであるから、商人は取引に不便を感じたから之れを錢莊に頼んで、荷造りをして貰ひ又之れを肩に昇いで送り届けること即ち「肩挑分送」をやつたのであつて「挑打錢莊」は間違ひであつて本當は「挑擔錢莊」と云はなければならぬのである。即ち「挑打錢莊」は其の名の示すが如く現金運送の爲替業務が本業であつて、次の「滙劃錢莊」が主として預金貸付を行つたのであるが、現在では、此の「挑打錢莊」も亦預金貸付業務を行ふのである。

2 享字錢莊 此の種の錢莊は非常に規模も小さく、營業範圍も狭いものであつて、之れで一名「關門錢莊」と云つて居る。即ち錢莊のブローカーみたやうなものである。此の錢莊は現金輸送の力も無く又預金も之れを大抵は滙劃錢莊又は「挑打錢莊」に委託して居るのである。

3 利字錢莊 一名「折兌錢莊」とも呼んで居るので、即ち此の錢莊は貸付預金を取扱はず専ら貨幣の賣買を行ひ附帶的に零細な兩替業務を行つて居るのである。

4 貞字錢莊 此の種の錢莊は又の名を「門市錢莊」「零兌錢莊」「煙紙錢莊」とも呼んで居るのであつて、此の種の店は多く賑やかな所に在つて大抵は煙草や紙類を賣つて居る店で兼業にやつて居るのである。「門市錢莊」や「煙紙錢莊」の名は此處から起つたのである。そして其の業務

は「零兌錢莊」の名の示す如く零細な額の兩替業務である。丁度徳川時代日本の兩替商が十組兩替の大きいことから金銀兩替商の中位の店、更に下つて「錢兩替」を質屋や町の煙草屋でやつて居たのと同様な状態である。

5 滙劃錢莊 此の錢莊は錢莊の内の大きいものであつて、大抵は外國銀行の本支店や華商銀行と連絡をとり其の代理として一般産業者に資金の貸付を爲し、又預金を預かり、又上海及支那内地の大都市に支店網を持つて居て爲替業務も扱つて居るのである。滙劃錢莊の中には前に述べたやうに「幫派」と「聯號」との區別がある。「幫派」と云ふのは其の經營者の出身地に依つて、作つた系統連絡團體であつて、其の主なるものは左の通りである。

后興幫……………后興人

二七軒

寧波幫……………寧波人

一六

山寧幫……………蘇州人及洞庭出身者

七

本幫……………上海出身者

三

鎮幫……………鎮江出身者

(以上の數字は在上海の滙劃錢莊の數字)

之れと反對に「聯號」と云ふのは株主の出資關係に依る連絡系統團體であつて、營業上の便宜の爲めに作つたものである。そして之れを一般の人に表示する爲めに同一聯號は必ず其の店名の中に聯號に關係ある文字を一字挿入し居れり、其の種類に二つあり、即ち

(イ) 第一字即ち店名の頭字に同一文字あるもの……………「恒」「同」「安」「慶」「福」「寶」「惠」「鴻」等の字を用ゆるもの。

(ロ) 店名の第二字名に同一文字を用ゆるもの……………「裕」「昌」「昶」「豐」「康」「餘」等の文字を用ゆるもの。

今王寄培氏の調査せる滙劃錢莊の聯號關係を示せば大體左の通りである。

(甲) 慶大、慶成、大徳、鼎康

(乙) 安康、安裕、承裕、康裕

(丙) 恆選、恆隆、恆興、同慶、同潤、仁昶、志誠、敦錢

(丁) 惠昌、惠豐、怡大

(戊) 信孚、益大、寶昶、聚康、信裕、王豐、同餘、存徳

(己) 順康、福康、福源

- (庚) 鴻祥、鴻盛、鴻豐
- (辛) 滋康、瑞昶、生昶、滋豐、寶豐、和豐、振泰
- (壬) 義昌、折昌、徽祥
- (癸) 大賚、春元

以上は大體上海に於ける錢莊の状態であるが他も大體之れと同様である。天津の錢莊は兩替、地金銀賣買、外國貨幣及公債の賣買を主業とする天津舊市に在る東街と、預金貸付、爲替を主業とする西街との二つに區分されて居る。又漢口の錢莊は近來に於ける農村疲弊の爲順次倒産し現在の錢莊は僅かに四十餘家に過ぎない。

一體之れ等の支那に於ける錢莊は何時頃からの存在であるかと云へば其の説に二説あり、其の一説は清朝順治年間今から約三百年前李自成と云ふ闖賊が討伐されて敗走した時、累年竊取せるその金銀財寶合計一千萬元を全部康と云ふ人に預けたが、李自成一の死後康が所有に歸し康は之れを以つて商業を始めたが後ち山西省の首府に於いて票莊を始めたが後ち山西の富豪が之れに倣つて始めたのが其の起源だとも云ふし、又一説には乾隆年間今から二百年前山西省平遙縣の人雷履泰と云ふ人が達浦村の李某と云ふ人の資金を借り受け日鼎昌なる屋號で顔料商を開き顔料の中に

銅綠を加へねばならぬので、其の産地四川へ旅行したが、四川は不便で其の代金の現金輸送に困難を感じたので、定めし自分と同じ境遇の人も多い事だらうと四川に支店を置いて天津四川間の爲替業務を始め、其の後各地に爲替業務を始めたのが其の起源だとも云はれて居る。中國錢莊の中心地は何と云つて現在の所では上海が中心であつて上海には一九三五年現在で五十七家の錢莊があり、之れ等の分店及代理店が南京、北平、天津、青島、香港、杭州、廣東、重慶等に在り、又之等の土地の錢莊も何れも上海其の他の錢莊と連絡を取つて營業して居るのである。左に全國錢莊の分布をあげてみると左の通りである。

全國錢莊分布 (銀號を含む)

江蘇省	上海市	五七
浙江省	各縣	一〇五
山東省		二六九
山西省		三九
河南省		七七
陝西省		二五
河北省		六
河北省		九七

支那の舊式庶民金融機關

支那庶民金融論

四川省	五三
安徽省	一九
江西省	七三
湖北省	四四
湖北省	五五
湖北省	四〇
福建省	八五
廣東省	五四
廣東省	一〇〇
廣東省	二〇
廣東省	八四
東三省	八四
東三省	一、三〇三
合計	一、三〇三

錢莊の仕事は何であるかと云へば、高利貸資本家が一人又は數人集まつて自ら企業者となり、又は企業者が之等資本家の資金の融通を受けて自己の計算で他人に信用を與へる所の舊式金融機關である。而して其の仕事の主なるものは前にも述べたやうに左のやうなものである。

一、存款（預金）であつて、長存（定期預金） 浮存（短期預金） 往來存款（當座預金）（約定

預金） 存項存款等である。

二、放款（貸付）であつて、抵押放款（擔保貸付） 信用放款 信用貸付 等がある。信用貸付は大抵六ヶ月期限である。

三、票（手形）の取扱であつて、莊票（小切手） 滙票（爲替手形） 友票（銀行小切手） 等の取扱である。

四、貼現（割引）であつて、小切手及手形の割引を行ふのである。

五、爲替及兩替

六、地金銀の賣買

七、紙幣の代發

而して錢莊の組織は一樣では無くて色々なものがあるので之れを一概に述べることは出来ないが、大抵二、三又は四五名の資産家が合資にて設立し、之れを「經理」と云ふ企業者に任かせて營業させるのであるが、出資者は大抵企業者の友人達である。企業者は即ち支配人であつて、之れを「領東」「董事」「掌櫃」「經理」等といつて居る。

新式金融機關の無かつた時代に於いては、支那に於いては之れが唯一の組織的の金融機關であ

り、又銀行發生後も此の錢莊は可成りの勢力を持ち、現に今日に於いても衰へたりと云へ支那金融界に相當の地盤と勢力を持つて居るのであるが、しかし兎に角最近に於いては衰退の一路を辿つて居るのである。其の原因には勿論色々の理由があるが、大體左のやうな原因である。

- 一、組織が小さいから資金の不足を來すこと。
 - 二、個人的企業であるから支配人に適材を待たなければ六ヶ敷しい仕事である。
 - 三、對人信用の貸付が主で信用調査の困難に伴ひ危険が多きい。
 - 四、現金貸付が主であるから市場に於いて資金の調節が六ヶ敷しい。
 - 五、預金に對する準備がないから取附に遇へば直ちに壞れる。
 - 六、錢莊は銀行が資金融通の源泉であるので銀行の金融の緩急が直ちに仕事に影響する。
 - 七、經營上管理上舊式方法を墨守し改良工夫がなされない。
 - 八、店員制限が徒弟制度であるからい、店員を得難い。
 - 九、近時に於ける一般經濟界の變化の急激に對して觀測不能。
- 以上のやうな理由から支那に於ける錢莊は近來漸次衰微し其の數も次のやうに漸減して居るのである。

年次別錢莊數及び資本金額表

年次	錢莊數	資本金額(元)
一九一八	三、〇五六	一六九、三二七、七三六
一九一七	二、一八六	一七一、四五七、三七三
一九一六	三、四二七	二四六、二二九、三六二
一九一五	四、二七四	六四、四六三、〇二一
一九一四	四、四九一	五三、一一〇、六三五
一九一三	四、七六一	八六、六二八、六六四
一九一二	四、六六一	七五、〇九八、三一二

而して此の錢莊や、銀行が庶民金庫、農村金融をやる場合には大抵地方の所謂土豪劣紳や、地主富豪、又は信用合作社の手を通じてやるのであるが、錢莊自ら直接貸付する場合もある。

支那の新式庶民金融機關

一 銀行

支那の銀行が一般の庶民金融機關として盡して居る分野は、支那に限らず日本に於いても僅かなものであるが、支那に於いて特に然りと云ふ事が云へる。然かも之等の貸付は大抵は銀行直接貸に依らず、大部分は前にも屢々述べ又後にも述ぶるやうに合作社、錢莊、地方個人金貸、農民貸付所等の手を通じて行つて居るのである。

支那の銀行の起源は一九〇〇年頃設立された「中國通商銀行」であつて、之れは招商局及漢冶萍鐵廠の創立者であつた彼の盛宜懷氏が政府の度支部から一百万兩を借入れて英國の滙豐銀行の規定に見倣つて株式會社として作つたものであつて之れに次いで左のやうな銀行が設立されたのである。

- 一九〇四年 戶部銀行 一九〇八年大清銀行と改名後ち現在の中國銀行となる。
- 一九〇七年 交通銀行 汽船、鐵道、郵便、電信事業の銀行として。

- 一九〇七年 浙江興業銀行
- 一九〇八年 四明銀行、浙江實業銀行
- 民國三、四年 興業滙業銀行、鹽業銀行、殖邊銀行、勸業銀行、中國實業銀行、農工銀行、折華貯蓄銀行。

而して現在に於ける支那の銀行數は左の通りである。

中國銀行分類表

種類	行數	本支店
國立銀行	一	三五
特許銀行	二	二九二
省立銀行	一六	二七八
市立銀行	五	一五
商業銀行	七五	四五四
貯蓄銀行	五	二二
實業銀行	八	七三
農工銀行	二二	七七
專業銀行	一二	五三
華僑銀行	一〇	四八

支那の新式庶民金融機關

支那庶民金融論

合計

一五八

一、三四七

一六〇

之れを設立年代別にすると即ち左の通りである。

民國元年以前に設立のもの	一八
同 元 年—十年	二〇二
同 十一年—二十年	三五〇
同 二十一年	一一一
同 二十二年	一四八
同 二十三年	二九六
同 二十四年六月	六三
合計	一、一八八

右の内地方農民の金融機關たる農工銀行の分布を示せば左の通りである。

農民銀行一覽表

銀行名	設立年	本店所在地	拂込資本額(元)
中國農工	一九一八	上海	五、〇〇〇、〇〇〇
江農銀工	一九二二	震澤	二〇〇、〇〇〇
江蘇省農民	一九二八	鎮江	三、六〇〇、〇〇〇
農商	一九三四	上海	三、〇〇〇、〇〇〇

銀行名	設立年	本店所在地	拂込資本額(元)
豐縣農工	一九三一	豐縣	五〇、〇〇〇
衛縣農民	一九二九	衛縣	六二、〇〇〇
海寧農民	一九三一	海寧	一〇六、六九一
餘姚農民	一九三二	餘姚	九三、四五八
崇德農民	一九三三	崇德	七二、六九四
紹興農民	一九三三	紹興	一〇〇、〇〇〇
嘉興農民	一九三三	嘉興	九八、三〇三
嘉善農民	一九三三	嘉善	五一、〇〇〇
金永部農民	一九三四	金華	四八、九一三
義東浦農民	一九三四	義烏	五七、二六一
永端農民	一九三四	永嘉	四八、三一九
平陽農民	一九三四	平陽	五〇、〇〇〇
磅縣農工	一九三四	磅縣	一〇六、九〇〇
中國農民	一九三三	漢口	五、〇〇〇、〇〇〇
浙南農村	一九三二	鳳凰	六〇〇、〇〇〇
北磅農村	一九三一	北磅	四〇、〇〇〇
江津縣農工	一九三三	江津	一〇〇、〇〇〇
河南農工	一九二八	開封	一、二五〇、〇〇〇
支那の新式庶民金融機關			一六一

青島市	三	二〇	二二	九
杭州	七	一七	二四	四
南京市	一	五〇	五一	二六
重慶市	九	一四	二三	〇
漢口市	四	三〇	三四	四
廣州市	五	一四	一九	四
江蘇省	一三	一七五	一八八	二〇
浙江省	一七	七八	九五	〇
山東省	一	三二	三三	〇
山西省	一	三三	三四	〇
甘肅省	一	四	四	〇
河北省	一	四八	四八	〇
河南省	一	四九	五〇	〇
陝西省	二	四六	四八	〇
四川省	四	四一	四五	〇
江西省	三	四六	四九	〇
安徽省	一	四〇	四〇	〇
湖北省	一	二八	二八	〇
支那の新式庶民金融機關			一六三	

又更に支那の全銀行の地方別分布を示せば左の通りである。

地域	本店数	全国支店	合計	上海支店
上海市	六〇	一六	一八八	八二
天津市	八	五四	六二	三二
北京市	一	五〇	五一	三一
年次	銀行数	拂込資本額(元)		
一九一八	一	五、〇〇〇、〇〇〇		
一九二二	一	二〇〇、〇〇〇		
一九二八	二	四、八五〇、〇〇〇		
一九二九	一	六二、〇六〇		
一九三一	三	一九六、六九一		
一九三二	二	六九三、四五八		
一九三三	七	五、五二一、九九七		
一九三四	六	三、三〇五、三九三		
合計	二三	一九、八三五、五九九		

支那庶民金融論	一六二
青島市農工	一九三三
合計	二二
青島	一〇〇、〇〇〇
	一九、八三五、五九九

支那庶民金融會	二	三二	三四	一六四
湖南省	三	三二	三五	九
福建省	一	二四	二五	一
廣西省	一	一五	一五	一
廣東省	一	一〇	一〇	一
吉林省	一	三	三	一
黑龍江省	一	二一	二一	三
遼寧省	一	六	七	一
雲南省	一	四	四	一
察哈爾省	一	八	九	一
綏遠省	一	三	四	一
青海省	一	三	四	一
寧夏省	一	三	四	一
香港	一〇	三三	二四	一
國外	一五九	一、一八八	一、三四七	二四九
總計	一五九	一、一八八	一、三四七	二四九

更らに之等の銀行の投資先を一覽してみると左の通りである。

商業	一九三四	一九三四	一九三四
工業	二九・七七	一三・二五	二一・一五
銀行	二九・七七	一三・二五	二一・一五

全國銀行投資統計表 (百分率)

即ち個人及農業方面の双方合して僅かに九・六一%に過ぎない。更らに之れを農村方面の投資先を網羅してみると左の通りである。

政府	四一・九一	個人	三・二三
交通	二・二五	公共事業	一・〇八
農業、農産品	五・三八	參加銀行	
團體	一・〇八		

投資對象	總貸付額	期間	月利	參加銀行
浙江省桐油生產貸付	三〇、〇〇〇	二ヶ月	九厘	郵政儲金滙業局
同省青苗貸付	六、〇〇〇、〇〇〇	一ヶ月	一分	江蘇農民銀行
鄞門茶生產販賣合作短期貸付	五〇〇、〇〇〇	三ヶ月	八厘	交通銀行
湖南省農村貸付	五〇〇、〇〇〇	三ヶ月	八厘	中國銀行
江蘇、浙江春苗貸付	三〇、〇〇〇、〇〇〇	三ヶ月	八厘	中國、交通、上海、江蘇農民の四行及び浙江、興業、福源莊等二十銀行
河南省農業貸付	三、〇〇〇、〇〇〇	三ヶ月	八厘	中華農業銀行團及び中國銀行等
安徽、江西紅茶貸付	二、二五〇、〇〇〇	三ヶ月	八厘	交通、安徽地方、江西裕民三銀行
浙江省棉麥貸付	二〇〇、〇〇〇	三ヶ月	八厘	中國銀行
江西省建倉貸付	一、〇〇〇、〇〇〇	三ヶ月	八厘	中國、交通、裕民、中國農民四銀行
湘未押滙銀團貸付	一、〇〇〇、〇〇〇	三ヶ月	八厘	中國、交通、上海、國華、中南、國貨、儲業、金城、大陸等の十四銀行及び郵政儲金滙業局

支那の新式庶民金融機關

支那庶民金融論

漁業貸付	一二〇,〇〇〇	十ヶ月	九厘	四明、新華、中匯の三銀行
浙江省桐油生産運輸販賣當座貸付	二〇〇,〇〇〇	一ヶ年	九厘	中國農工銀行
江西省農村貸付	一,〇〇〇,〇〇〇	一ヶ年	八厘	交通銀行、江西省合作事業委員會
漁業貸款銀團貸付	一,〇〇〇,〇〇〇			實業部及び中國、交通、上海、大陸、金城鹽業、中南、浙江、興業、中華、滙業新華、四明の十二銀行
浙江省蠶絲貸付	五,〇〇〇,〇〇〇	八ヶ月	九厘	中國及び交通銀行
銅、鐵、錫、場、邳、農倉抵當貸付	二四三,〇〇〇			徐州農民銀行
河南、湖北、安徽、四川、湖南、雲南、陝西、甘肅農村貸付	二,一〇〇,〇〇〇	一九三八年收穫迄	七厘	中國農民銀行
安徽農倉貸付	四,〇〇〇,〇〇〇	十ヶ月	八厘半	中華農貸銀團、中國銀行、中國農民銀行
東亞大豐鹽礦公司棉花運輸販賣貸付	二〇〇,〇〇〇		八厘	中國銀行
河北、陝西、山西棉花通運販賣貸付	一,四〇〇,〇〇〇			中華農貸銀團
浙江省建倉貸付	四〇〇,〇〇〇	三ヶ年	一分	中國農民銀行
浙江省十縣桐油貸付	二〇〇,〇〇〇		一分	十縣農業金融機關、上海銀行
浙江省漁業貸付	二,〇〇〇,〇〇〇			中國農民銀行、浙江地方銀行
河南省農業貸付	八〇〇,〇〇〇			中國農民銀行
安徽省農業貸付	一,〇〇〇,〇〇〇			

山東省棉區貸付	九三一,〇〇〇			中國銀行、山東省民生銀行
山東省大豆貸付	二〇〇,〇〇〇		八厘	山東省民生銀行
改良亂麻貸付	六〇〇,〇〇〇	一ヶ年	九厘	中國農民銀行、浙江地方銀行
浙江乾蠶種貸付	一五〇,〇〇〇			
合 計	七五,〇二四,〇〇〇			

以上を以つて見ても支那の銀行が一般民衆と如何なる關係に在るかと云ふ事が略ぼ知られると思ふ。しかも農村及商業に對する銀行の融資としても、之れが却つて各種の新式、舊式の機關を通じて却つて庶民階級を壓迫する高利貸資本として變形されて居るのである。

二 信用合作社

支那語の「合作」は日本の文字に當てはめると「協同」と云ふ意味であつて、「合作社」は丁度日本の「産業組合」の事である。

支那の此の合作社運動の起つたのは丁度一千九百十九年（大正八年）であつて歐洲大戰の結果巴里に開かれた講和會議に於いて山東問題が失敗したのと共に當時世界を擧げての思想運動に刺戟されて起つた支那の新文化運動、思想運動、勞働組合運動等と一緒になつた學生達の排日運動

即ち「五四運動」が其の端緒となつて居るのである。即ち之等の運動に此の合作社運動が同時に取り入れられたのである。其の結果は遂に一九二二年には中國華洋義賑會（在支教會を中心として英米人と支那人學生等の組織せる慈善團體）が五百元の資本を元として直隸省涿水縣婁村に試験的に信用合作社を設立したのが此の濫觴である。其の後千九百二十五年には國民黨の第二回黨大會に於いて合作社運動の提唱を決議し黨中央執行委員の載季陶が中心となつて各地方の黨支部に於いて之れが普及設立に努め更らに千九百二十六年には南京の金陵大學の學生達が前記中國華洋義賑會の助力の下に南京近郊に其の設立を奨勵し、一ケ年間に合作社十七社を設立し、更に越へて千九百二十七年には河北省政府では各縣下に合作社五百九十四社が設立され、又同年江蘇省政府に於いて一方農民銀行を設立すると共に一方合作事業宣傳指導員養成所を開設して之れが設立運動に努め、之等の事業成績が漸次各方面の注意を喚起して各種の思想團體、中央地方政府の農村政策、慈善團體、地方土郷劣紳銀行は（自分の投資先きとして）何れも各種各様の見地から合作社の設立に努力し、斯くして支那の合作社は今日の趨勢となつたのであるが、之等の各方面の運動と共に、此の設立を促成したものは即ち千九百三十年に於ける世界的農業恐慌の結果が支那の農村にも影響して此の合作社の設立を一層促進したものである。今左に支那に於け

る合作社の一千九百三十一年以後の設立状態を示してみると左の通りである。

全國合作社累年現在數表

年次 (西曆)	合作社數		社員數	
	實數	指數	實數	指數
民國二十年 (一九三一)	二、七九六	一〇〇・〇	—	—
民國二十一年 (一九三二)	三、九七八	一四二・三	一五一	一〇〇・〇
民國二十二年 (一九三三)	三、〇八七	一一〇・四	—	—
民國二十三年 (一九三四)	一四、六四九	五二三・九	五五七	三六八・八
民國二十四年 (一九三五)	二六、二二四	九三七・九	一、〇〇四	六六四・九
民國二十五年 (一九三六)	三七、三一八	一、三三四・七	一、六四三	一、〇八八・〇

即ち右の表に於いて示すやうに支那の合作社は一千九百三十一年から一千九百三十五年の六年間に急激に設立されたことが知られると思ふ。

更らに之等の合作社が支那全土の如何なる地方に最もよく發達して居るかと云へば左表に於いて示す通り、北支に於いては河北、山東、河内に發達し、中支に於いては江蘇、浙江、江西、安徽、湖北、湖南、四川に於いて發達し南支に於いては僅かに四川、福建に於いて發達して居るが其の投資の分布も大體之れに準じて居る。而して其の投資額は二千十六萬五千元位にして、之れ

を合作社數三萬七千三百十八にて除してみると、一合作社當り五百四十六位にて實に微々たるものである。

然らば、之等の合作社の主たる事業は如何なるものであるかと云へば陳果夫氏は其の著書『中國合作運動』の中に於いて次のやうな項目を擧げて居る。即ち、

全國合作社分布表

地方名	合作社數	放款額(元)
河北	六、六六三	一、五四三、三九七
山東	四、九六五	二、五四九、〇四一
山西	六九	五五、六二七
綏遠	六〇	八、八九〇
察哈爾	二九〇	一五、八三〇
北京	一九	二、九七五
天津	一七	三、〇七二、二二六
青島	一七	一、〇一五、六二九
江蘇	三、三〇五	
浙江	一、五一八	

江西	三、二〇九	二、五七五、一六〇
安徽	四、一二五	二、八八五、九〇五
湖北	一、九三二	五八五、六五〇
湖南	一、九八五	七七七、九三三
河南	三、二二一	二、〇一九、二九八
廣東	二二五	一八、四三〇
陝西	二、〇六六	一、四五三、八三〇
雲南	三	
廣西	六	
四川	一、三二二	一九二、八九四
福建	一、九四六	一、三七二、七九七
貴州	三五	三、六七四
甘肅	二四四	一五、七八八
青海		
漢口		
上海	一五	
南京	七八	
廣州		

支那の新式庶民金融機關

支那庶民金融論

合 計	三七、三一八	二〇、一六四、九七五
信用事業(貸付及貯金)		
日用品購入	造 林	家畜保險
養 蠶	養 豚	製 靴
養 魚	農具及機械利用	建 築
貯 藏	拓 殖	共同工場
共同購買	製絲繭乾燥	非 儀
養 蜂	販 賣	灌 漑
生 産	運 輸	製 紙
酒 造	牧 畜	溝渠開鑿

而して右の中、吾々が茲で論じやうとする「信用合作社」の数は、一體何の位であるかと云へば即ち左の通りであつて、一千九百三十六年現在に於いて合作社總數の過半數即ち全合作社數の五五・三%の多きに達して居るのである。

種類別合作社數表

種 類	千九百三十二年		千九百三十六年	
	合作社數	(割合%)	合作社數	(割合%)
信 用	二、二二三	八〇・〇九	二〇、六二〇	五五・三

生 産	二〇四	七・三八	三、一九九	八・六
運 輸	三二	一・一六	二、三六六	六・三
利 用	一三三	四・八一		
消 費	一一二	四・四二	二九八	〇・八
購 買	五二	一・八八		
販 賣	四	〇・一四		
供 給	二	〇・〇八	二六七	〇・七
保 險	一	〇・〇四		
公 用			五六	〇・一
兼 營			一〇、五一四	二八・一
總 計	二、七六三	一〇〇・〇〇	三七、三一八	一〇〇・〇

備考 本表中に示す千九百三十二年の合作社總數は同年八月現在の數字であつて全國合作社累年現在數表中に示せる千九百三十二年の合作社數とは其の内容を異にする。

而して支那に於ける合作運動の特色とも云ふ可きものは、多くの大抵の先進資本主義國に於ける協同組合運動は資本主義の農村壓迫即ち農村生産品の低價なるに拘らず、都市の工場生産品の高價にして、農村は資本主義の壓迫を受けると共に都市商工業者の壓迫を受け、所謂此の二重搾収を免れんが爲め農民自らの相互組織の力に依つて此の壓迫を排除せんとする爲めに生れたもの

である。支那の合作社の初期の起りはその設立の目的が茲に在つたのに相違なく、之れが爲め支那の學生思想家は此の運動に熱中したのである。しかるにも拘らず此の當初の目的は何時の間にか忘れられて支那の今日の合作社は既に民衆自體のものではなく民衆は自ら出資せず、自ら此の目的の爲めに相互に結成したのでは無く、大抵は中央及政府の官人か又は國民黨の指導者が自己の勢力擴張と民衆の人氣取りの爲めか、又は銀行、錢莊の投資物としての設立か、地方土豪劣紳の金儲けの爲めに設立されたものである。即ち支那の信用合作社は民衆が民衆自體の協力の力に依つて資本主義の壓迫を防禦せんとして生れたものではなくて、資本主義が更らに民衆を搾取せん橋渡しの機關として生れたものである。此の點に關し、支那の合作社批評家は次のやうに批判して居る。

『過去に於ける中國農村合作運動が如何なる結果を農民に齎して來つたかに就て少しく述べて見れば大略左の如くである。

(一) 地主(獨占的)性質的の合作社 過去に所在せし合作社は農民の大部分に對して借入金を抵當に地券を提供せしめた故に所有土地が多ければ多い者程借入金も多く出來る理となり各大地主は極めて少き利息で多量の金を借入れ占有し之を有利に操縦したるため農村をして日々に没落

に向はしめ又合作社の組織も亦農村の荒廢と伴ひ漸次減少して來たのである。

(二) 政治目的の合作社運動 政府は一般の弱小農民のため經濟解放運動に藉口して合作社を提唱し合作社を利用して收税の機關とした。南京の陳果夫の著作に係る「合作の理論と實際」の中に論じたる處に據るも政治的思想を含有するものは合作の理論中に於て最も破壊的なものと述べてゐる。

(三) 高利貸の性質 前述せる處と大差なく地主階級は多くの金を借用し其の借入金を小農に又貸し其の間に於て高利を貪つて居るのである。

(四) 商人的性質 或る一定の時期を利用し、棉、小麥、茶等の如き商品生産物を對象とし農民に貸付けるのである。例へば棉花貸付の如きものが夫れである。

(五) 殖民地的性質 棉花の如き商品作物耕地の結果は外國洋行と提携して始めて利潤を獲得することが出來るのである。北支の棉花の如きは其のため棉花特約組合があるも此の種の營利的商業機關は絶対に農村を救済することが出來ず唯日々に農村をして荒廢を來らしむるのみである。』

即ち以上が支那の信用合作社の實狀であつて支那の合作社は一つは政府當局が農村の崩壞防止

と全國統一を計る爲めの一つの方便として、又一方銀行業者や、錢莊や農村の土豪劣紳は有利確實なる投資主體として之れを設立したのである。随つて其の内容は劣悪であり、又一部特殊の階級に利用されて眞の合作社の精神を没却して居るものが多いのである。であるから支那の合作社は「古い合作社程經營困難であり新たな合作社程經營容易である」と云はれて居る。現に一九三五年中に一〇、四八〇合作社が解散し、又一九三六年中に一、七〇〇社の多數の合作社が解散して居るのは此の證左である。此の點に氣が附いて日本の勢力範圍内に在る合作社に對しては現に「新民會」其の他の手を以つて順次改組して居るやうである。

一 信用合作社續編章程

民國十二年四月四日可決

同年八月二十日・十三年五月二十一日修正

□□省□□縣□□信用合作社章程

第一條 名稱

一、本社は〇〇信用合作社と稱す。

第二條 登記

二、本社は民國〇〇年〇月〇日〇〇縣公署に於て手續を了せり。

第三條 目的

三、本社の目的は次の如し

甲、組合員の共同責任を以て組合外より借入をなし、之を組合員に貸付くこと、但し正當なる用途たることを明示し得る組合員に限る。

乙、組合員の間は勤儉實業・自助及び協同の精神を涵養すること。

第四條 組合員

四、本社は最少限十二名の發起人たる組合員が此の章程に署名して承認の表示を爲すことにより成立するものとす。

五、凡そ滿二十歳以上の品行方正なる村民は均しく組合員たることを得。

六、新組合員の加入に際しては、組合員二名の紹介と全員の四分の三以上の同意とを要し、且つ此の章程に署名することによつて始めて加入し得。加入希望者の姓名は少くとも投票日の十日以前に全員に通知することを要す。

七、凡そ組合員たるものは各〇〇元を「社員股」として出資することを要す。口數は一口以上無制限なれども、加入の時は最少限と一口の出資を要し、加入の後に於て隨時増加することを得。此の出資株には利息を附せず。而して出資を即納すること能はざるものは、本社より一定の利息付き貸付を受けて之を納入することを得。此種の「社員股」の爲の貸付金は、後日、當該組合員に交付すべき金員中より優先的に控除するものとす。

八、組合員の資格は、脱退・除名或は死亡に因りて喪失す。

九、本社は、執行委員會の提議に依り組合員三分の二以上の賛成票決を経て、既に信用失墜せる組合員を除名することを得。十、加入後二ヶ年を経たる組合員は脱退することを得。但し現に債務を負ひ又は連帶保證の責任を負へる者は、加入後二ヶ年を経たる場合と雖も脱退することを不得。

十一、組合員の資格を喪失せる時は、執行委員會の決議に由る場合を除き、其の「社員股」は悉く之を本人又は相續人或は

其の委任せる者へ返却す。但し本社が死亡せる組合員の相続人の加入を認めたる時は、該死亡者の「社員股」は相続者に於て繼承することを得。

十二、脱退せる組合員は、本社債務に對し脱退後も引續き二ケ年間責任を分擔するものとす。

前項の債務は、該組合員脱退の日に於ける決算を以て基準とし、責任分擔の時期は脱退の日を以て起算す。

十三、死亡せる組合員の遺産は、本社債務に對して引續き一年間の責任を分擔するものとす。

前項の債務は對組合員死亡の日に於ける決算を以て基準とし、責任分擔の時期は死亡の日を以て起算す。

第五條 資本

十四、本社の資本は左記の數項とす。

甲、「社員股」。

乙、組合員の定期預金。

丙、非組合員の定期預金。

丁、總會（中國華洋義賑救災總會）或は其他の關係ある合作機關よりの借入金。

戊、法定積立金。

十五、非組合員・總會或は其他の機關よりする本社の借入金の數額は、隨時これを規定す。

第六條 貸付

十六、凡ゆる貸付要求事案は、すべて本社の執行委員會に由りて之を處理す。

十七、本社の貸付は社員に對してのみ之を行ふ。組合員は本社より借入をなしたる上は、其他の組合員全部が悉く借入をなすか又は貸付を受けざる旨の意志表示を爲したる後に非れば、新に他の借入を爲すことを得ず。

十八、組合員の最高信用程度は、本社の評議によりて之を定め、且つ別に帳簿を備へて之を記録す。

組合員の最高信用程度は、執行委員及び監査委員が聯席會議を開いて之を評定す。執行委員の信用程度は、監査委員に由りて之を評定す。監査委員の信用程度は、執行委員に由りて之を評定す。信用程度評定のための會議は傍聴を禁止す。

組合員信用程度表は執行委員會主任これを保管す。信用程度評定規程は別に之を定む。

十九、本社の貸付は四種に區分す。

甲、種子・食糧・家畜飼料の購入又は耕植費のための借入金。此の種の借入金は收穫或は家畜賣却の後に即時償還するものとす。

乙、車輛・家畜の購入、零細なる舊債の整理、家屋の修築或は用具整備のための借入金。此の種の借入金は、執行委員會による情狀判定に基き、二年或は最大限三年間の範圍に於いて、分割償還するものとす。

丙、河溝掘鑿、堰堤修築、灌漑、排水或は他の債務償還のための借入金。此の種の借入金は、執行委員會による情狀判定に基き、三年或は最大限四年間の範圍に於いて分割償還するものとす。

丁、社會上の不可避的責任に基くもの例へば冠婚喪祭のための借入金。此の種の借入金は、執行委員會に由る情狀判定に基き、二年或は最大限三年間の範圍に於いて分割償還するものとす。

二十、貸付を受けんとする組合員は、その請求書中に、借入金の用途を明記することを要す。本社はその用途が適正なるか否かを隨時調査す。萬一調査の結果その用途が不正と判定されたる時は、本社は一ヶ月以内に元本利息を一時に返済せしめ得るのみならず、貸付金の十分の一に相當する罰金を科することを得。

廿一、本社の貸付に對しては、左記の一種又は數種を以て擔保とするものとす。

- 甲、借受人本人の信用及び組員二名の連帯保証。
- 乙、不動産。
- 丙、動産。(舟・車・家畜・灌漑用具等の物件)。
- 丁、收穫前の既播種農作物。
- 戊、組員の差押へたる他人の財産。
- 廿二、執行委員会は、貸付の否決・貸付額の制限・保證人否認の全権を有す。
- 廿三、執行委員会は、特別の理由あるときは、組員の償還期限を最大一年間の範囲に於て延長することを得。その理由は必ず記録に登載すべく、この職権は特別の理由なくして行使することを得ざるものとす。
- 廿四、凡そ病歿脱退或は除名されたる組員の借入金は、期限の到否に拘りなく、即時清算を要し、遅延することを得ざるものとす。

第七條 利率

- 廿五、本社は共同の信用を以て、最低の利率に従ひ現金の借入を受くるものとす。貸付に當つては、地元の利率が假りに極めて高率の時も、本社の利率は他村に於ける當面最低の利率を以て標準とすべきものとす。
- 廿六、凶作の年に於ける本社の貸付利率は、元來の規定に従ひて能ふ限り一定せしむべく、已むを得ざる時は、總會(中央金庫)の援助を請ふべきものとす。
- 廿七、本社の貸付利率は、地元に於ける組合外一般に通用される利率の最低を超過することを得ず。但し常に本社が借入を受くる時の利率に比して稍高率を保たしむべきものとす。而してその利轄によりて利益を生ぜしめ、以て營業費及び積立金に充用し、且つ借入金償還の用に充つるものとす。

第八條 利益金及び積立金

- 廿八、本社の貸付利率は、これを借入利率に比して稍高率なるため、従つて利益金を生ず。本社はこの利益金の四分の三を以て營業費及び地方合作運動の發展費とし、四分の一を以て積立金となす。
- 廿九、積立金の目的
 - 甲、回收不能なる債權並びに其他の特別債務のための補償
 - 乙、組合外より借入を行ふ際の保證
- 三十、積立金は之を定期預金として最も便利なる銀行に預入るものとす。若し郵政儲金局に預入ることを得れば更に適切なりとす。
- 卅一、本社は執行委員會及び總會中央金庫の同意を経て、積立金を回收不能の債權決済のために使用し、或は本社の負へる特別債務履行のために充用することを得。
- 卅二、本社が萬一解散する時は、凡ゆる營業資本及び積立金等は、之を本村に於ける新組合創設の費用として保存す。一年以内に新しき組合の組織なきときは、その全部を總會に納入し地方公益の用に充つるものとす。

第九條 管理

- 卅三、本社組員の全體會議は、本社の社務に對して最高權を有す。全體會議は隨時召集し得。但し毎年少くとも二回の集會を行ふ。全體會議の處理すべき一切の社務は以下の如き事項とす。
 - 甲、執行委員及び監査委員の選舉
 - 乙、本社の執務細則の制定或は修正
 - 丙、組員の承認或は除名

丁、組合員の執行委員会或は監査委員会に對する不満足なる事件の處理
戊、年次報告の審査
己、收支決算の審査

卅四、特別の事項に際會したるときは、執行委員会又は監査委員若しくは過半数の組合員の提議に據りて特別會議を召集することを得。但し特別會議召集の理由並びに集會の期日は、少くとも五日以前に全組合員に通知するを要す。

卅五、凡そ組合員は孰れも自ら會議に出席することを要し、各員の票決権は各一に限る。全體會議は少くとも過半数の組合員の出席によつて始めて成立す。新組合員加入の議案を議決するときは、少くとも出席者の四分の三以上の同意あるを要す。組合員除名の議案を議決するときは、少くとも出席者の三分の二以上の同意ありて始めて有效とす。但し其他の事項の議決は過半数の同意を以て有效とす。可否同數なるときは主席の表決権を以て之を決す。本章程は總會の議決に由るに非れば、加除訂正を行ふことを得ず。

卅六、組合員は創立大會に際して執行委員五名を選出するを要す。五名の執行委員中、一年間在職し得る者二名、二年・三年・四年間在職し得る者各一名とす、而して、任前に退職せる者の補缺として補選せられたる者を除き、執行委員の任期は孰れも各四年とす。更に執行委員中より一名を指定として主席とし、本社の首領とし、別に司庫一名を置きて、金銭及び貸付事務を司らしむ。司庫が貸付を決定するに際しては、書面による主席の許可と執行委員過半数の同意とを受くるを要す。執行委員會は、本章程及び本社より賦與せられたる職權の外、更に組合員に對する貸付金の處理並に總會（中國華洋義賑救災總會）或は其他の機關よりする本社の借入金に關する處理の全權を有す。

卅七、監査委員會組合員は若干名を互選して監査委員會を組織するを要す。
組合員が二十名に満たざるときは、監査委員の數は三名とし、二十名以上に達したるときは之を六名とす。

最初の選任に際しては在職期間一年のもの、二年のもの、三年のもの各三分の一を選任すべきものとす。而して任前に退職せる者の補缺として補選せられたる者を除き、監査委員の任期は孰れも三年とす。

監査委員會の職權は左の如し。

(甲) 各決算期毎に帳簿の檢閲を行ふこと。

(乙) 貸付を受くる者及びその用途の適正可否と、貸付條件が忠實に履行され得べきか否かを監査すること。

(丙) 貸付金の擔保の適不適を調査す。又執行委員及び其他の職員の瀆職行爲の有無を調査し、必要ある時はその職權の行使を停止し、同時に一個月以内に全體會議を召集して之を處理すること。

卅八、本社には左記の帳簿を常備するものとす。

(一) 組合員名簿

(三) 議事錄

(四) 貸付明細簿

(六) 組合員信用程度

表(本項に付ては末尾の註参照のこと)

卅九、本社は一切の領收書及び契約書は、司庫之に署名し主席之に副署するに及んで効力を生ず。

四十、本社の職員は凡て無報酬とす。但し必須の費用は、執行委員會の認可を経て之を支給することを得。

第十條 責任

四十一、本社は無限責任の組合とす。社員は本社の債務に對して均しく同等の責任を負ふものとす。

第十一條 貯蓄

四十二、貯蓄の目的

(甲)、組合員をして節儉の美德を養はしむ。

支那の新式庶民金融機關

(乙)、資本を蓄積す。

四十三、本社は社務の状態に應じて現金貯蓄業務を兼營し、且つ蒐め得たる預金を他の貯蓄機關に預入ることを得。
四十四、本社に對しては組合員たると非組合員たるとを問はず、均しく預金をなすことを得。但し貸付を受くるは組合員に限る。

四十五、本社の儲金章程は別に之を定む。

附註——本會には農村信用合作社會計規則及び各種の帳簿記載例の規定あり。凡そ本會の承認せる合作社は孰れもこの制式によりて記帳することを要す。詳細の内容に就いては、書翰を以て本會に照會せられたし。

二 農村信用合作社章程

(左記の増加訂正條文以外は一般合作社の章程と同じ)

第三條 「本社の目的」の項に於ける増訂

(増) 丙、農産物を收受して之が品質等級を評定し、舊來の價格を是正して交易を公平にすることにより、以て農民の利益を増加せんことを期す。

(増) 丁、農産物の貯蔵倉庫を營んで以て凶作天災に備ふると共に、農民の個人或は共同の信用上擔保品たらしむ。

第四條第七項の末尾「優先的に控除するものとす」の次に左記の規定を追加す。

(増) 「社員股」は之と同價格の農産物を以て納入することを得。

第五條 「資本」第十四項に於ける増訂

(訂) 乙、組合員の定期預金或は定期に寄託する農産物。

(訂) 丙、非組合員の定期預金或は定期に寄託する農産物。

(増) 己、倉庫中の擔保流れとなりたる農産物。

第六條 「貸付」第廿一項に於ける増訂。

(増) 己、倉庫に寄託せられある農産物。

第十一條 「貯蓄」第四十三項に於ける訂正。

(訂) 四十三、本社は社務の状態に應じて現金或は農産物の貯蓄を兼營することを得。

(増) 第十二條 倉庫

(増) 四十七、本社は相當の設備を有する倉庫を設け、農産物の貯蔵用に供す。凡そ倉庫に寄託せられたる物品に對しては、本社は其の保存に留意し毀損せざるやう努むべきものとす。

三 信用合作社の處理に關する中國華洋義賑救災總會の方針

(1) 中國華洋義賑救災總會(以下總會と略稱)は、合作社の章程及び發起人の信用資格に付きて満足なる認定に達したるとき、始めて之に協力支援するものとす。

(2) 合作社が總會より貸付金を受けたるとき、その期限内に於ては總會の許可なくして其の章程を改正することを得ず。

(3) 合作社の一切の帳簿類は總會の査閲を受くることを要す。毎年一回、總會は合作社の帳簿及び貸借状態に付、任意の時期に於て監査する権限を有す。

(4) 總會は左記列擧の事項に付、隨時之を合作社に通告して參考に供せしむ。但し此の行爲は専ら總會の自發的行動に依るものとし、合作社の側より強要することを得ざるものとす。

一、農事改良の方法。

二、其他の合作事業、例へば農産物の販賣購買出荷等、凡て組合員に益ある事項。